

真理を守る

福音の参考資料

発行
末日聖徒イエス・キリスト教会
ユタ州ソルトレーク・シティー

表紙——「光と真理」サイモン・デュエイ画
©Simon Dewey

©2005 Intellectual Reserve, Inc.
版權所有
印刷：日本
英語版承認：2004年7月

翻譯承認：2004年7月

原題：True to the Faith
Japanese

大管長会からの メッセージ

本書は聖文および末日の預言者の教えを研究するための手引きとして作成されました。わたしたちは皆さんが福音の原則を研究し応用するに当たって、本書を参考にするようお勧めします。また話の準備をしたり、クラスを教えたり、教会についての質問に答えたりするときの資料として用いてください。

福音の真理を学ぶことにより、天の御父の永遠の計画に関するあなたの理解は深まるでしょう。この理解を人生の基とするときに、あなたは賢い選択をし、神の御心みこころと調和した生活を送り、生活の中に喜びを見いだせるようになるでしょう。証は強まり、真理を守り続けることあかしでしょう。

わたしたちは特に青少年、ヤングシングルアダルト、新会員を心にかけています。皆さんは定期的に個人の祈りをささげ、聖文および福音の教義を研究することにより、人を欺き傷つける邪悪な影響力に対抗する備えができます。

本書を通じて、あなたが救い主に近づき、その模範に従うように努力する強さを得られるように祈ります。

大管長会

福音のテーマ (50音順)

愛

愛は心からの献身，思いやりの心，愛情です。神と同胞^{ほらから}への愛はイエス・キリストの弟子に特有のものです（マタイ22：35-40；ヨハネ13：34-35；2ニーファイ31：20参照）。わたしたちは天の御父への愛を示すために，御父の戒めを守り，御父の子供たちに奉仕します。隣人に対する愛の表現としては，隣人に親切にし，彼らの話に耳を傾け，ともに泣き，慰めを与え，奉仕し，祈り，福音を分かち合い，友人になることなどを挙げることができます。

人が皆神の子供であること，すなわち霊の兄弟姉妹であることを記憶にとどめるときに，周囲の人々に対するわたしたちの愛は増します。このことが分かることでもたらされる愛には，あらゆる国家，信条，人種の壁を超える力があります。

その他の参照聖句——レビ19：18，34；申命6：5；ルカ6：31-36；ヨハネ15：9-15；1ヨハネ4：7-21；モーサヤ4：14-15；教義と聖約4：5；12：8；112：11；121：41-45

「慈愛」；「憐れみ」^{あわ}；「従順」；「奉仕」も参照

証^{あかし}

証^{あかし}とは聖霊により与えられる霊的な証拠です。証の土台となるのは，天の御父が生きておられ，わたしたちを愛しておられるという知識，イエス・キリストが生きておられ，神の御子であり，無限の贖罪^{しよくざい}を成し遂げられたという知識，ジョセフ・スミスが，福音を回復するよう召された神の預言者であるという知識，今日^{こんにち}でも教会が生ける預言者により導かれているという知識，そして末日聖徒イエス・キリスト教会がこの地上における救い主の真の教会であるという知識です。このような知識を土台として，証は強められ，最終的にはあらゆる福音の原則を包含するようになります。

証

あかし

証を得、強める

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、あなたは自分自身の証を得る神聖な機会と責任が与えられています。証を得ても、その証を生涯にわたってはぐくむ義務があります。この世と永遠にわたる幸福の多くは、あなたが「イエスの証に雄々し」い者であるかどうかにかかっています（教義と聖約76：79。51節，74節，101節も参照）。雄々しい証人となるよう努力する過程で、次の原則を心に留めておいてください。

証を得るまでの過程は、義にかなった、心からの望みに始まる。天の御父は心の中にある義にかなった望みと御父の御心みこころを行うために払う努力に応じて祝福を与えてくださいます。福音の証をまだ持っていない人々の一団に語りかけたときに、アルマはこう教えています。「もしあなたがたが目覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。」（アルマ32：27）

証は聖霊の静かな影響を通してもたらされる。証の結果は奇跡的で、人生に大きな変化をもたらすものですが、証という賜物たまものは通常、劇的な神の力の現れを伴わない静かな確信という形でもたらされます。天使の訪れを受け、神が御座みざに着いておられるのを目の当たりにしたアルマですら、聖霊の力を通して証を得るためには、断食と祈りが必要でした（アルマ5：45-46；36：8，22参照）。

証は自らの経験を通して少しずつ強められる。一度に完全な証を得る人はいません。証は自分自身の経験を通して次第に強くなるものです。召されたりいつでも喜んで奉仕するという姿勢を示すときに証は大きくなります。戒めを守ろうと決心するときに証は強くなります。ほかの人々を引き上げ、強めるときに、証はとどまることなく強められます。祈り、断食し、聖文を研究し、教会の集会に出席し、ほかの人々の証に耳を傾けるときに、祝福として靈感を受ける瞬間を経験し、自分の証を強化することができます。福音に従っ

た生活を送ろうと努力しているかぎり、そのような瞬間は生涯にわたって訪れます。

^{あかし}**証**は分かち合うときに増し加えられる。証を十分はくぐむまでは分かち合うのを控えるといったことがないようにしてください。証は分かち合うことによってさらに強められることがあるからです。実際、自分の証に関して、今持っている証を分かち合うときに、その証は強められて自分に返ってくるのが分かるでしょう。

^{あかし}**証する**

^{あかしかい}断食証会で、また家族や友人との会話の中で、自分の証を分かち合いたいという気持ちに駆られることがあります。そのようなときに、忘れてならないのは、長くて、感動的な講演を行う必要はないということです。証が最も力強い影響を与えるのは、その証が救い主とその教え、あるいは回復について、簡潔ながら心からの確信として表明されたときです。^{みたま}導きを求めて祈ってください。そうすれば御霊の助けによって、自分の心の中に感じる思いを言葉でどのように表現すればよいのかが分かります。主があなたに与えられた希望と確信をほかの人々も共有できるよう助けるときに、大きな喜びを見いだすことでしょう。

その他の参照聖句——ヨハネ7：17；1コリント2：9-14；ヤコブの手紙1：5-6；モロナイ10：3-5；教義と聖約6：22-23；62：3；88：81

「イエス・キリストの贖い」；「^{あがな}断食と断食献金」；「父なる神」；「聖霊」；「祈り」；「^{たまもの}啓示」；「霊的な賜物」も参照

悪魔（「サタン」参照）

熱い飲み物（「知恵の言葉」参照）

アブラハムの聖約

アブラハムは福音を受け入れ、大祭司に聖任されました（教義と聖約84：14；アブラハム1：2参照）。また後に昇栄の聖約である日の

アルコール

栄えの結婚をしました（教義と聖約131：1-4；132：19，29参照）。アブラハムは自らの交わした聖約に伴い、自分の家族に関する偉大な約束を主から受けました。これらの約束には次のようなものがあります。

；アブラハムは多くの子孫に恵まれる（創世17：56；アブラハム2：9；3：14参照）。

；アブラハムの種、すなわち子孫は福音を受け入れ、神権を持つ（アブラハム2：9参照）。

；アブラハムの子孫の働きによって、「地のすべての氏族は……救いの祝福すなわち永遠の命の祝福である福音の祝福を授けられる〔。〕」（アブラハム2：11）

アブラハムが主から授かったすべての聖約と約束をまとめてアブラハムの聖約と呼びます。それはアブラハムのすべての子孫に及ぶ永遠の聖約です（創世17：7参照）。アブラハムの子孫として数えられるために、人は福音の律法と儀式に従わなければなりません。そうすれば、血統的にアブラハムの子孫ではなくても、アブラハムの聖約からもたらされるすべての祝福を受けることができます（ガラテヤ3：26-29；4：1-7；教義と聖約84：33-40参照）。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるあなたは聖約の子です（3ニーファイ20：25-26参照）。永遠の福音を授かり、アブラハム、イサク、ヤコブに与えられた約束と同じ約束を受け継いでいるのです。あなたには神権の祝福と永遠の命を受ける権利がありますが、それは救いの儀式を受け、その儀式に伴う聖約を守るあなたの忠実さに懸かっています。そしてあなたの努力とあなたの子孫の働きによって全世界の国民が祝福を受けることになります。

「聖約」；「永遠の命」；「儀式」；「祝福師の祝福」；「神権」も参照

アルコール（「知恵の言葉」参照）

アロン神権

預言者ジョセフ・スミスはモルモン書の翻訳中に、罪の赦しのため^{ゆる}のパプテスマに関して述べられている箇所を見つけました。1829年5月15日、ジョセフ・スミスと彼の筆記者オリバー・カウドリは、パプテスマに関して主に祈り求めるために森の中に入って行きました。彼らが祈っていたとき、「天からの使者が光の雲の中を降^{くだ}って来られ〔まし〕た。」この使者は何世紀も前にイエス・キリストにパプテスマを施した預言者、パプテスマのヨハネでした。今や復活体をまとして現れたパプテスマのヨハネは、ジョセフとオリバーの頭の上に手を置き、それぞれにアロン神権を授けました。このアロン神権は大背教の間この地上から取り去られていました。この権能によって、ジョセフとオリバーは互いにパプテスマを施し合うことができました（ジョセフ・スミス——歴史1：68－72参照）。

今日の教会において、ふさわしい男性会員は12歳になるとアロン神権を受けることができます。アロン神権者は神聖な神権の儀式に臨み、奉仕する多くの機会にあずかります。アロン神権者の名に恥じることなく自らの務めを果たすときに、主の御名^{みな}によって行動し、周囲の人々が福音の祝福を受けられるように助けます。

アロン神権には、監督、祭司、教師、執事の職があります。執事は管理の職にある神権指導者（通常は監督または支部長）から委任を受けて、聖餐^{せいさん}を配ります。執事は、奉仕をしたり、断食献金を集めるといった実務的な事柄を手伝ったりすることによって、教会員を見守る監督または支部長を助けます。教師は執事の義務をすべて果たすことができます。またそれらの義務に加えて様々な奉仕の機会も与えられます。聖餐のパンと水を準備し、ホームティーチャーとして奉仕することもできます。祭司は執事と教師の義務をすべて果たすことができます。管理の職にある神権指導者から委任を受けて、聖餐を祝福し、パプテスマを施し、ほかの人々を祭司、教師、執事の職に聖任することもできます。

アロン神権は「大神権、すなわちメルキゼデク神権に付属するもの」です（教義と聖約107：14）。この神権はよく備えの神権と呼ば

憐れみ

れます。アロン神権を与えられて奉仕する神権者が、メルキゼデク神権を受け、神殿の祝福にあずかり、専任宣教師として奉仕し、愛にあふれる夫や父親となり、生涯にわたってたゆまず主に仕えるために備えるからです。

「メルキゼデク神権」；「神権」も参照

あわ 憐れみ

天の御父はわたしたちの弱さと罪を御存じです。御父はその^{あわ}憐れみによって、わたしたちの罪を^{ゆる}赦し、わたしたちが御父のもとに戻って住むことができるように助けてくださいます。

そのような哀れみの心は正義の律法と矛盾するように思われるかもしれませんが。正義の律法によれば、清くない者は神とともに住むことができないからです（1ニーファイ10：21参照）。しかし、イエス・キリストの^{あがな}贖いによって、神は「完全で公正な神、^{あわ}憐れみ深い神であり続ける」ことがおできになります（アルマ42：15）。

あわ 神の憐れみを受ける

救い主はわたしたちに代わって罪に対する罰を受けたときに、正義の要求を満たされました。この無私的行為のおかげで、御父は^{あわ}憐れみによって、わたしたちに罰を与えることなく、御自身のもとにわたしたちを歓迎することがおできになるのです。主の^{ゆる}赦しを受けるためには、心から罪を悔い改めなければなりません。預言者アルマは次のように教えました。「正義は正義のすべての要求を働かせ、また、^{あわ}憐れみは憐れみを受ける資格のあるすべての者について権利を主張する。したがって、心から悔い改める者のほかにはだれも救われない。」（アルマ42：24。22-23、25節も参照）

罪の^{ゆる}赦しだけが、天の御父とイエス・キリストからの^{あわ}憐れみの^{たま}賜物ではありません。人に与えられる祝福の一つ一つが、人の力だけではとうてい受けるに値しない御二方の^{あわ}憐れみによってもたらされるものなのです。モルモンは次のように教えています。「善いものはすべてキリストから来る。そうでなければ、人は墮落した状態にな

ったので、善いものはまったく人に及ばなかったことであろう。」（モロナイ7：24）例えば、天の御父がわたしたちの祈りを聞き、答えを与えてくださるとき、聖霊の導きを受けるとき、神権の力を通して病気が癒^{いや}されるときに、わたしたちは神から憐れみを受けていることになります。そのような祝福はすべてわたしたちの従順の結果として与えられるものですが、決してわたしたちの力だけで得られるものではありません。それらは愛と慈しみに満ちた御父からの憐れみ深い賜物なのです。

人に憐れみを示す^{あわ}

救い主は弟子たちに語ったときに、次のように命じられました。「あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。」（ルカ6：36）わたしたちもほかの人々との関係において天の御父の示された憐れみの模範に従うことができます。自分の生活からおごりや高慢、うぬぼれを取り除くように努力してください。ほかの人々の欠点に気づいても、哀れみの心を示し、敬意を表し、^{ゆる}赦し、優しくし、根気強く接する方法を模索してください。そのように努める人は、自らの模範によって、より憐れみ深い人間となるようにほかの人々を導き、その結果、神の憐れみを求める権利が増すことでしょう。

その他の参照聖句——マタイ5：7；ルカ10：25－37；アルマ34：14－16

「慈愛」；「^{ゆる}赦し」；「恵み」；「正義」も参照

按^{あん}手^{しゅ}

按手^{あんしゅ}は、確認、聖任、会員が様々な召しを受けて奉仕するための任命、病人に施す癒^{いや}しの儀式、神権によるそのほかの祝福の授与（教義と聖約42：44；信仰簡条1：4－5参照）など、数多くの神権の儀式を執行するために、主が啓示によって明らかにされた方法です。正当な神権の権能を持った人々が、儀式を受ける人の頭の上にその手を置きます。そうすることによって、神権者たちは主が御自身の子供たちを祝福されるための道具として働くのです（教義と聖約

安息日

36：2参照）。

この方法はいつの時代にも神権者によって用いられてきました。アダムは、義にかなった男性の子孫を^{あんしゅ}按手によって聖任しました（教義と聖約107：40－50参照）。ヤコブはエフライムとマナセに祝福を宣言したとき、二人の頭の上に手を置きました（創世48：14－19参照）。アルマは「神の位に従って、^{あんしゅ}按手により……祭司たちと長老たちを聖任し〔まし〕た。」（アルマ6：1）使徒パウロとヨハネは按手によって聖霊の^{たまもの}賜物を授けました（使徒8：14－17参照）。この神権時代に、バプテスマのヨハネは按手によってジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を授けました（ジョセフ・スミス—歴史1：68－69参照）。

その他の参照聖句——民数27：18－23；使徒19：1－6；1テモテ4：14；教義と聖約33：15；35：6

「聖霊」；「神権」も参照

^{あんそくにち} 安息日

安息日は毎週休息と礼拝のために聖別された主の日です。旧約の時代に、神の聖約の民は週の7日目を安息日として遵守しました。神が地球を創造された後、7日目に休まれたからです。主は十戒の中で安息日を遵守することの大切さを強調されました。

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。

6日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。

7日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。

主は6日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、7日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」（出エジプト20：8－11）

週の最初の日に起こったイエス・キリストの復活後、主の弟子たちは週の最初の日、すなわち日曜日を安息日として遵守するようになりました（使徒20：7参照）。

末日に、主は安息日続けて遵守するように命じ、この戒めを守るならば、「地に満ちているもの」を受けると約束されました（教義と聖約59：16-20参照）。

安息日は聖日なので、価値ある神聖な活動の日として取っておく必要があります。仕事や娯楽を控えるだけでは不十分です。実際、安息日に何もせずに、ただぶらぶらしているだけだとしたら、安息日を聖く保っているとは言えません。1831年、ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主はこう命じておられます。「あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならない。まことに、この日は、あなたがたの労苦を解かれて休み、いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。」（教義と聖約59：9-10）。この啓示に調和するように、わたしたちは毎週聖餐会せいさんかいに出席します。そのほかの安息日の活動として、例えば、祈ったり、瞑想めいそうをしたり、聖文と末日の預言者の教えを研究したり、家族や友人に手紙を書いたり、健全な読み物を読んだり、病気の人や悩んでいる人の家を訪問したり、教会のそのほかの集会に出席したりすることができます。

その他の参照聖句——出エジプト31：16-17；モーサヤ18：23；教義と聖約59：11-14；68：29

「敬虔」けいけん；「聖餐」せいさん；「礼拝」も参照

イエス・キリスト

2000年1月1日、大管長会および十二使徒定員会は以下の宣言を発表しました。「生けるキリスト」と題するこの宣言は主イエス・キリストについて証しあかしし、イエス・キリストの本質と神聖な使命を要約するものです。

「2000年前のイエス・キリストの降誕を祝うに当たり、わたしたちはイエス・キリストのたぐいまれな生涯が現実のものであり、この御方の偉大な贖いあがなの犠牲が無限の力を有することを証あかしします。これまでに地上に生を受けた人々およびこれから生を受けるすべての

イエス・キリスト

人々に対して、この御方以上に深遠な影響を及ぼしてきた人物は存在しません。

イエス・キリストは旧約の大いなるエホバであり、新約のメシヤでした。御父の指示の下に、イエス・キリストは地球を創造されました。『すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった』のです（ヨハネ1：3）。イエス・キリストは罪がなかったにもかかわらず、すべての義を成就するためにバプテスマをお受けになりました。イエス・キリストは『よい働きをしながら……巡回』されましたが（使徒10：38）、そのためにさげすまれました。イエス・キリストの福音は平和と善意のメッセージでした。イエス・キリストはすべての人々に、御自身が示す模範に従うよう熱心に勧められました。イエス・キリストは病人を癒し、目の不自由な人々の目を見えるようにし、死人をよみがえらせながら、パレスチナの道を歩まれました。また、永遠の真理と、前世が実際に存在すること、この世での人生の目的、および神の息子や娘が持つ来世における可能性についてお教えになりました。

イエス・キリストは、御自分の偉大な贖いの犠牲を思い起こすためのものとして、聖餐をお定めになりました。イエス・キリストは捕らえられ、偽りの訴えによってとがめられ、暴徒の意に応じて有罪とされ、カルバリの十字架上での死刑を宣告されました。そして、全人類の罪を贖うために命をささげられました。イエス・キリスト御自身が、地上に生を受けるすべての人々のための偉大な身代わりの贈り物となられたのです。

わたしたちは、全人類の歴史の中心であるイエス・キリストの生涯が、ベツレヘムで始まったのでもなければカルバリで終わったのでもないことを厳かに証します。イエス・キリストは御父の長子、肉における独り子、世の救い主でした。

イエス・キリストは『眠っている者の初穂として』墓からよみがえられました（1コリント15：20）。そして復活された主として、地上での生涯において愛した人々のもとをお訪ねになりました。また、古代アメリカの『他の羊』の間でもお教えになりました（ヨハネ

10：16)。現代においては、御父とともに少年ジョセフ・スミスに御姿^{すがた}を現されました。こうして、長い間約束されてきた『時の満ちる』神権時代が到来したのです（エペソ1：10）。

生けるキリストについて、預言者ジョセフはこのように記しています。『その目は燃える炎のようであり、その頭髮は清らかな雪のように白く、その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた。また、その声、すなわちエホバの声は大水の奔流のとどろきのようで、このように言われた。

「わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。』（教義と聖約110：3-4）

イエス・キリストについて、預言者ジョセフはまた次のように宣言しています。『そして今、小羊についてなされてきた多くの証^{あかし}の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、「小羊は生きておられる。」

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証^{あかし}する声を聞いた。すなわち、「彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる」と。』（教義と聖約76：22-24）

わたしたちは、イエス・キリストの神権とイエス・キリストの教会が地上に回復されたこと、そしてその教会は『使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられ……キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である』ことを厳粛に宣言します（エペソ2：20）。

わたしたちは、イエス・キリストがいつの日か地上に戻って来られることを証^{あかし}します。『こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る』のです（イザヤ40：5）。イエス・キリストは王の王として治め、主の主として統治されます。イエス・キリストの前にすべてのひざがかがみ、すべての舌がイエス・キリストを賛美することでしょう。わたしたち一人一人は将来、自分の行いと心の望みについて裁きを受けるためにイエス・キリストの前に立つことになります。

イエス・キリストの贖い

わたしたちは正式に聖任を受けたイエス・キリストの使徒として証あかしします。イエスは生けるキリスト、不死不滅の状態にある神の御子です。イエス・キリストは今日、大いなる王、インマヌエルとして御父の右に立っておられます。イエス・キリストは世の光、命、そして希望です。イエス・キリストの道は、この世においては幸福に、後の世においては永遠の命に至る道です。わたしたちは御子という比類ない贈り物を授けてくださった神に感謝しています。」（「生けるキリスト」『リアホナ』2000年4月号、2-3）

「イエス・キリストの贖あがない」も参照

イエス・キリストの贖あがない

英語の「atone」（贖あがなう）という言葉は「和解する」、または「調和を回復する」という意味です。イエス・キリストの贖罪しよくざいを通して、わたしたちは天の御父と和解することができます（ローマ5：10-11；2ニーファイ25：23；モルモン書ヤコブ4：11参照）。「イエスを通じて完全な者とされた」わたしたちは（教義と聖約76：62、69参照）、最終的には永遠にいつまでも御父の前に住むことができます。

イエス・キリストは「自分の民を贖あがなうために世の初めから備えられ」ていました（エテル3：14）。前世と呼ばれる霊界で天の御父は永遠の救いの計画を提示されました。この計画には無限で永遠の贖罪しよくざいが必要でした。その時点ではエホバという名で知られていた前世のイエスは、救いの計画を遂行するに当たって御父の御心みこころを行うことを謙虚に宣言なさいました（モーセ4：2参照）。このようなわけでイエスは地上に来て、人類の罪の代価に苦しみ、十字架上で亡くなり、復活するという、贖あがないを成し遂げるように予任されました。「ほふられた小羊」となられたのです（黙示13：8。1ペテロ1：19-20；モーセ7：47も参照）。

贖罪しよくざいは天の御父のわたしたちに対する究極的な愛を示すものです（ヨハネ3：16参照）。それは同時に救い主の、御父とわたしたちに対する最も偉大な愛を示すものでもあります（ヨハネ14：28-31；

15：9-13；1ヨハネ3：16；教義と聖約34：3；138：1-4参照）。

あがな

贖いの必要性

アダムとエバの子孫である全人類は墮落の結果を受け継いでいます。わたしたちはすべて神のもとから切り離される霊の死を経験します。そして例外なく肉体の死（アルマ42：6-9；教義と聖約29：41-42参照）である現世の死を経験します。

墮落した状態にあるわたしたちは反対や誘惑を受けます。誘惑に負けると、神と自分との距離が遠くなり、神の栄光を受けられなくなります（ローマ3：23参照）。

永遠の正義は、墮落の結果を残し、わたしたちが自分の悪い行いに対して罰を受けるように要求します。^{あがな}贖いがなければ、霊の死と肉体の死はわたしたちと神との間に越えられない障壁を築きます。わたしたちは自分自身を墮落、あるいは自分自身の罪から救うことができないので、天の御父から永遠に切り離されることになります。なぜなら「清くない者は……神の前に住むことができない」からです（モーセ6：57）。

わたしたちが救われる唯一の方法はだれかほかの人がわたしたちを救うという方法です。正義の要求を満たすことのできる人、わたしたちに代わって墮落の重荷を背負い、わたしたちの罪の代価を払ってくれる人が必要なのです。イエス・キリストは常に変わらずそのような犠牲を払うことのおできになる唯一の御方です。

イエス・キリスト、わたしたちの唯一の希望

地球が創造される以前から、救い主はわたしたちが「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命」を得るための唯一の希望であります（教義と聖約59：23）。

イエス・キリストだけが御自分の命を捨てる力と、その命を再び受ける力を備えておられました。イエス・キリストは死すべき人間の母マリヤから死ぬ能力を受け継がれ、不死不滅の御父からは死を克服する力を受け継がれました。イエス・キリストは次のように宣

イエス・キリストの贖い

言しておられます。「父がご自分のうちに生命をお持ちになっていると同様に、子にもまた、自分のうちに生命を持つことをお許しになったからである。」(ヨハネ5:26)

イエス・キリストだけがわたしたちを罪から贖^{あがな}う力をお持ちでした。イエス・キリストは父なる神からこの力を授かっていました(ヒラマン5:11参照)。御自身を常に罪のない状態に維持していたために、この力を受け、贖いを成し遂げることがおできになったのです。「独り子は数々の誘惑に遭われ〔まし〕たが、それらを少しも心に留められ〔ることはありませんでし〕た。」(教義と聖約20:22) イエス・キリストは完全で、罪のない生活を送られたので、正義の要求を突きつけられる必要がまったくありませんでした。贖いの力を持ち、正義の律法に反する罪を犯さなかったので、悔い改める人々に代わって負債を払うことがおできになりました。イエス・キリストは次のようにおっしゃっています。

「父よ、罪を犯したことがなく、あなたが御心^{みこころ}にかなうとされた者の、苦しみと死を御覧ください。あなたの子が流した血、すなわち、あなた御自身が栄光を受けるために、あなたがお与えになった者の血を御覧ください。

そのために、父よ、わたしの名を信じるこれらわたしの兄弟たちが、わたしのもとに来て永遠の命を得られるように、彼らをお救いください」と(教義と聖約45:4-5)。

文字どおり「全能の主であるキリストの御名^{みな}のほか、またその御名を通じてでなければ、どのような名も道も方法も、人の子らに救いをもたらすことはできない」のです(モーサヤ3:17)。

贖^{あがな}いの犠牲

イエスの贖^{あがな}いの犠牲はゲツセマネの園とカルバリの十字架上で行われました。イエスはゲツセマネで御父の御心^{みこころ}に従い、全人類の罪をその身に負う業を始められました。イエスは御自身がわたしたちの罪の代価を払うときにどのような経験をしたのか、その一部を明らかにされました。

「神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯^{さかずき}を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。

しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯^{さかずき}を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」（教義と聖約19：16－19。ルカ22：24；モーサヤ3：7も参照）

救い主は甘んじて十字架にかけられ、わたしたちの罪のために苦しみました。つまり「世の罪のために十字架につけられて殺され」たのです（1ニーファイ11：33）。

十字架上で、イエスは御自分から命を捨てられました。イエスの遺体は墓に収められ、その後復活し、「眠っている者の初穂」となられました（1コリント15：20）。イエスは死と復活を通して、全人類のために肉体の死を克服されました。後に、イエスはこう語っておられます。

「父がわたしを遣わされたので、わたしは父の御心^{みこころ}を行うために世に来た。

父は、わたしが十字架に上げられるようにと、わたしを遣わされた。十字架に上げられた後で、わたしはすべての人をわたしのもとに引き寄せた。わたしは人々によって上げられたが、そのように人々は、父によって上げられてわたしの前に立ち、自分の行いが善いか悪いかによって、行いを裁かれるのである。

このために、わたしは上げられたのである。それで、父の力によってすべての人をわたしのもとに引き寄せ、彼らが各々の行いに応じて裁かれるようにするのである。

さて、悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受ける者はだれであろうと、満たされるであろう。そして、最後まで堪え忍ぶ

イエス・キリストの贖い

ならば、見よ、わたしはその者を、わたしが立って世の人々を裁くその日に、わたしの父の御前^{みまえ}で罪のない者としよう。」(3ニーファイ 27：13-16)

全人類に及ぶ墮落からの贖い^{あがな}

贖罪^{しょくざい}を通して、イエス・キリストは全人類を墮落の結果から贖^{あがな}います。かつてこの地上に生を受けた人々、これから地上に生を受ける人々がすべて復活し、神のもとに戻り、裁きを受けます(2ニーファイ 2：5-10；ヒラマン 14：15-17参照)。救い主の憐れみと贖^{あがな}いの恵みという賜物^{たまもの}を通して、わたしたちはすべて不死不滅の賜物を受け、栄光を受けた復活体をまとして永遠に生きるのです。

罪からの救い

わたしたちは全人類にもたらされる墮落の結果から無条件で贖^{あがな}われますが、わたしたち個人の罪に対してはわたしたち自身が責任を負います。しかし、わたしたちは、「贖いの血の効力を及ぼ」されるなら(モーサヤ 4：2)、赦^{ゆる}されて、罪の汚れから清められます。わたしたちはイエス・キリストに対する信仰を働かせ、悔い改め、罪の赦しを受けるためにバプテスマを受け、聖霊の賜物^{たまもの}を受けなければなりません。アルマは次のように勧めています。

「あなたがたは悔い改め、再び生まれなければならない。再び生まれなければならない天の王国を受け継ぐことができない、と御霊^{みたま}が言われるからである。したがって、自分の罪から洗い清められ、神の小羊を信じる信仰を持てるように、やって来て、悔い改めのためのバプテスマを受けなさい。神の小羊は世の罪を取り除く御方であり、人々を救い、すべての不義から清める力を持つ御方である。」(アルマ 7：14)

永遠の命という賜物^{たまもの}

救い主は、永遠の命は「神のあらゆる賜物^{たまもの}の中で最も大いなるものである」と宣言されました(教義と聖約 14：7)。永遠の命を得る

とは、神とともに住む資格を得、日の栄えの王国の最も高い位を受け継ぐということです。この賜物はイエス・キリストの贖罪を通してのみ手に入れることができるものです。モルモンはこう語っています。「また、あなたがたは何を望めばよいのであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、キリストの贖罪とキリストの復活の力によって永遠の命によみがえることを望まなければならない。あなたがたがキリストを信じることで、約束のとおりこれが果たされるのである。」(モロナイ7:41)

この賜物^{たまもの}を受けるためには、ある条件を満たさなければなりません。イエス・キリストに対する信仰を働かせ、罪を悔い改め、最後まで堪え忍ばなければなりません。またバプテスマ、聖霊の賜物、(男性の場合) メルキゼデク神権への聖任、神殿のエンダウメント、結婚の結び固めなど、救いの儀式を受けなければなりません。これらの儀式を受け、儀式にかかわる聖約を守る人は、キリストのもとに来て、最終的には永遠の命の賜物を受けることができるのです(信仰箇条1:3参照)。

無限の正義と憐れみを持っておられる主は、「この福音を知らずに死んだ者で、もしとどまることを許されていたらそれを受け入れたであろう者」、そして「責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たち」にも永遠の命をお与えになります(教義と聖約137:7, 10)。

救い主は永遠の命を受けるようわたしたちすべてを招いておられます。「主はすべての人を招き、憐れみ^{あわ}の御腕^{みうで}を伸べて、『悔い改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れよう』と言われる。まことに、主は言われる。『わたしのもとに来なさい。あなたがたは命の木の実を食べるであろう。あなたがたは価なしに命のパンを食べ、命の水を飲むであろう。』」(アルマ5:33-34)

あがな 贖いを通して平安と癒しを見いだす

救い主による贖い^{あがな}の祝福は永遠まで及ぶものですが、この現世でも同様の祝福を受けることができます。キリストのもとに来れば、主の前で清いことがどれほど喜ばしいものかを知ることができます。

イエス・キリストの贖い

アルマは多くの罪と神への背きの後で、たとえつらくとも癒し^{いや}をもたらしてくれる悔い改めの過程を経験しましたが、あなたもそのアルマの言葉をそっくりそのまま繰り返すことができるようになるのです。罪を赦^{ゆる}された後で、アルマは次のように証^{あかし}しています。

「わたしはもはや苦痛を忘れることができた。まことに、わたしは二度と罪を思い出して苦しむことがなくなった。

おお、何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。

……わたしはほかにあり得ないほど激しく、またつらい苦痛を味わ^{うるわ}った。……それとは反対に、わたしはほかにあり得ないほど麗しく、また快い喜びを味わ^{うるわ}った。」(アルマ36：19-21)

救い主は、罪の苦痛からの贖^{あがな}いに加え、試練のときには平安をもたらしてください。贖いの一部として、イエスは苦痛と病、そしてあらゆる人々の弱さを御自分に受けられました(アルマ7：11-12参照)。イエスはあなたの苦しみを理解することがおできになります。なぜなら同じ苦しみを御自身も経験されているからです。あなたの苦しみを完全に理解しておられるので、イエスはあなたを助ける方法を御存じです。「神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神に」ゆだねることができるのです(1ペテロ5：7)。

あなたの信仰と義にかなった生活、イエス・キリストの贖^{あがな}いの犠牲によって、現世のあらゆる罪や傷、苦痛は完全に埋め合わされ、報われます。現世では与えられなかった祝福が永遠の世では与えられます。また、たとえ今すべての苦しみから解き放たれることなくても、主はあなたに慰めと理解、「容易に重荷に耐えられるように」力を祝福として与えてくださいます(モーサヤ24：15)。

救い主はこう言っておられます。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ11：28) またさらに別のときには主の平安を約束し、こう言っておられます。「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ16：

33) これこそ現世と永遠にわたって果たされる^{あがな}贖いの約束です。

その他の参照聖句——イザヤ49：13-16；53章；マタイ26-28章；マルコ14-16章；ルカ22-24章；ヨハネ10：14-15；11：25-26；14：6；15：13；19-20章；1コリント15：20-22；ヘブル4：14-16；1ヨハネ1：7；1ニーフアイ10：6；2ニーフアイ2：1-10；9章；25：23-26；モルモン書ヤコブ4：12；モーサヤ3：1-19；アルマ22：14；34：5-18；42章；ヒラマン5：9-12；14：13-19；3ニーフアイ9：14-22；27：13-22；モルモン9：10-14；エテル12：27，41；モロナイ8：5-26；10：32-33；教義と聖約18：10-12；19：15-24；20：17-34；45：3-5；76：40-43；モーセ1：39

「バプテスマ」；「肉体の死」；「霊の死」；「永遠の命」；「信仰」；「墮落」；「救し」；「父なる神」；「福音」；「正義」；「栄光の王国」；「憐れみ」；「儀式」；「救いの計画」；「悔い改め」；「復活」；「救い」も参照

イエス・キリストの再臨

イエス・キリストが地上での教導の業を終えて昇天されたときに、二人の天使が使徒たちにこう宣言しました。「あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様^{ありさま}で、またおいでになるであろう。」（使徒1：11）地上に戻って来られるときに、救い主は力と栄光とをまとして来られ、地球を御自身の王国と宣言されます。主の再臨は福千年の幕開けとなります。

再臨は、悪人にとっては恐怖と悲しみに満ちた時となりますが、義人にとっては平和と勝利の日となります。主は次のように宣言しておられます。

「賢くて、真理を受け入れ、自分の導き手として聖なる御霊^{みたま}を受け、そして欺かれなかった者、すなわち、まことにわたしはあなたがたに言うが、彼らは切り倒されて火の中に投げ込まれることなく、その日に堪えるであろう。

そして、地球は受け継ぎとして彼らに与えられる。彼らは増えて強くなり、その子孫は罪のないまま成長して救いを得るであろう。

主は彼らの中にあり、主の栄光は彼らのうえにあり、主は彼らの

イエス・キリストの再臨

王となり、立法者となるからである。」(教義と聖約45：57-59)

主は再び来られる時がいつなのか正確には明らかにしておられません。「その時、その日は、だれも知らず、天にいる天使たちも知らない。人の子が来るまで、彼らは知らないであろう。」(教義と聖約49：7) しかし再臨に先立って起こる出来事やしるしについては預言者を通して明らかにされました。予告された出来事としるしには次のようなものがあります。

福音の真理からの背教 (マタイ24：9-12；2テサロニケ2：1-3 参照)

末日聖徒イエス・キリスト教会の回復を含む福音の回復 (使徒3：19-21；黙示14：6-7；教義と聖約45：28；133：36参照)。

神権の鍵^{かぎ}の回復 (マラキ4：5-6；教義と聖約110：11-16参照)。

モルモン書の出現 (イザヤ29：4-18；3ニーファイ21：1-11参照)。

全世界に宣べ伝えられる福音 (マタイ24：14参照)。

悪と戦争と混乱のとき (マタイ24：6-7；2テモテ3：1-7；教義と聖約29：17；45：26-33；88：91参照)。

天と地に見られるしるし (ヨエル2：30-31；マタイ24：29-30；教義と聖約29：14-16；45：39-42；49：23；88：87-90 参照)。

救い主の再臨の正確な日時について思い煩わないようにしてください。むしろ、主がいつ来られてもいいように備える生活を送ってください。末日に起こる災難を目にするときに、義人は再臨、あるいは再臨に先立つしるしを恐れる必要はないということを心に留めてください。使徒たちへの主の言葉はわたしたちにも当てはまります。「心配することはない。これらすべてのことが起こるとき、あなたがたは、与えられた約束が果たされることが分かるからである。」(教義と聖約45：35)

その他の参照聖句——ルカ21：34-36；2ペテロ3：10-14；教義と聖約133：42-52；ジョセフ・スミス—マタイ

「福千年」；「救いの計画」；「しるし」も参照

一 致

救い主は贖^{あがな}いの業を成し遂げる前に、御自分が福音を教えるようにと世に送った弟子たちのために祈られました。また弟子たちの言葉を聞いて、救い主を信じるようになる人々のためにも祈られました。主は一致を求めて祈られました。「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」（ヨハネ17：21）

この祈りから、どのようにして福音を通して天の御父、イエス・キリストと一致するのか、またどのように互いに一致するのかを学ぶことができます。福音に従った生活を送り、救いの儀式を受け、聖約を守るときに、わたしたちの性質は変わります。救い主の贖^{あがな}いはわたしたちを聖^{きよ}め、その結果、わたしたちは一致して生活し、この地上では平安を享受し、さらに永遠の世では御父と御子とともに住む備えをすることができます。

主は次のように言われました。「もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」（教義と聖約38：27）家庭で、そして教会でこのような一致の標準を求め、促すことができます。結婚している夫婦は、目的と行いにおいて一致することができます。それぞれの特質を利用して互いに補い合い、二人で試練に向き合い、愛と理解を深めることができます。またともに仕え、互いに教え合い、励まし合うことによって、ほかの家族や教会員と一致することもできます。大管長や教会の指導者の言葉を研究し、助言に従うときに、彼らとも一致することができます。

教会は世界中で発展しています。しかしそのような中であっても、

祈り

すべての末日聖徒が一致することは可能です。「互いに和合し、愛し合って結ばれた」心を持つことができるのです。(モーサヤ18：21) わたしたちは様々な文化と個性の価値を認めていますが、同時に、靈感に満ちた指導者に従い、すべて同じ御父の子供であるということに心を留めることによって「信仰の一致」がもたらされることを願っています(エペソ4：3-6, 11-13参照)。

「愛」；「結婚」；「従順」；「奉仕」；「シオン」も参照

祈り

あなたは神の子です。天の御父はあなたを愛し、あなたの必要としていることを御存じです。また祈りを通してあなたが御自身と交わるのを望んでおられます。ほかのだれにでもなく御父に祈ってください。主イエス・キリストはこう命じられました。「あなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならない。」(3ニーファイ18：19)

祈りによって神に近づくことを習慣とするときに、神を知るようになり、さらに神に近づくことができます。以前にも増して自分の望みが神の望みに似たものとなります。信仰をもって求めさえすればいつでも、神が与えようと準備しておられる祝福を自分自身やほかの人々のために手に入れることができます。

祈りの原則

天の御父はいつでもあなたの祈りを聞き、こたえてくださいます。祈りの力が発揮されるかどうかは祈る本人に懸かっています。祈りを生活の一部にしようと努力するときに、次の勧告を思い出してください。

祈りを有意義なものとする。預言者モルモンは、「人が真心の伴わない祈りをするならば……それはその人にとって何の役にも立たない。神はそのような祈りを受け入れられないからである」と警告しています(モロナイ7：9)。祈りを有意義なものとするには、真心から、また「熱意を込めて」祈らなければなりません(モロナイ7：48)。

祈るときに、「くどくどと祈る」ことのないように気をつけてください（マタイ6：7参照）。自分の態度と用いる言葉をよく吟味してください。

愛、尊敬、^{けいけん}敬虔、そして親しみを表す言葉を用いてください。この原則をどのように応用するかは使用する言語によって異なります。英語で祈る場合を例に取れば、神に呼びかけるときには、you, your, yoursという一般的な代名詞よりも聖文で用いられる代名詞、Thee, Thou, Thy, Thineを用いた方がよいでしょう。どの言語であれ、原則は変わりません。祈るときには、神に対する愛と尊敬の念を表すのに適した言葉を用いるということです。祈りの言葉を学ぶのに少し困難を覚えることがあるかもしれませんが、祈りと聖文学習を通して、少しずつ慣れてくるはずです。

いつも天の御父に感謝してください。「神が授けてくださる多くの^{あわ}憐れみと祝福を日々感謝しながら生活するように」すべきです（アルマ34：38）。自分が受けている祝福を思い起こす時間を取ることで、天の御父が自分のためにどれほど多くのことをしてくださっているかを理解することができます。御父に感謝の気持ちを表してください。

すべての行いについて、天の御父の導きと力を願い求めてください。アルマは息子ヒラマンに次のような助言を与えています。「また、あなたの必要とするあらゆる助けを神に叫び求めなさい。まことに、あなたの行うことはすべて、主のために行うようにしなさい。どこへ行くにも主にあって行くようにしなさい。まことに、あなたの思いを常に主に向けるようにしなさい。まことに、あなたの心の愛情をとしえに主に向けるようにしなさい。あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠っている間も主が見守ってくださるように、主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。これらのことを行うならば、終わりの日に高く上げられるであろう。」（アルマ37：36-37。アルマ34：17-26も参照）

祈るときにほかの人々が何を必要としているかを思い起こす。「あ

祈り

あなたがたの幸いと、あなたがたの周りの人々の幸い」のために祈りをささげてください（アルマ34：27）。天の御父に助けの必要な人々を祝福し慰めてくださるよう祈り求めてください。教会の大管長、中央幹部、地元の指導者に靈感と力を与えてくださるよう祈り求めてください。家族と友人の福利のために祈ってください。政府の指導者のために祈ってください。宣教師と、宣教師から福音を学んでいる人々に靈感と守りを与えてくださるよう祈り求めてください。

何を祈るべきか分かるように聖霊の導きを求める。聖霊は、祈るよう教え、どのように祈ればよいのか導くことがおできになります（ローマ8：26；2ニーファイ32：8参照）。また、「神の御心^{みこころ}にかなって」祈ることができるように助けることがおできになります（教義と聖約46：30）。

祈りを通して何かを願い求めるときに、その願いがかなえられるように自分でも全力を尽くす。天の御父はただ単に祝福を祈り求めるだけではなく、それ以上のことを実行するようあなたに期待しておられます。大切な決定を下さなければならないときに、答えを受ける前に「心の中でそれをよく思い計」るよう御父から求められることがよくあります（教義と聖約9：7-8参照）。導きを求める祈りは聖霊のささやきを受け入れる努力に見合った結果しか生みません。自分自身の福利ならびにほかの人々の福利を求める人の祈りは、「乏しい人や着る物のない人を追い払ったり、病気の人や苦しんでいる人を見舞わなかったり、自分には持ち物がありながら、それを必要としている人々に分け与えなかったりする」ならば、むなしいものとなります（アルマ34：28）。

目の前に困難な仕事を抱えている人が、ひざまずいて助けを求めた後に、立ち上がって自力でその仕事に取り組むときに天の御父は喜ばれます。御父は義にかなったことであれば何でも助けを与えてくださいますが、人が自分の力でできることを肩代わりされることはほとんどありません。

個人的な祈り

山上の垂訓で、イエス・キリストは次のように勧告されています。「自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう。」（マタイ6：6）個人的で、ひそかにささげる祈りは霊的成長に欠かすことのできない要素です。

毎日少なくとも朝と夜には、気の散らない場所を見つけて祈ってください。謙虚にひざまずき、天の御父と交わってください。静かに祈る必要があるときもありますが、できるかぎり声に出して祈るように努めてください（教義と聖約19：28；20：51参照）。

祈りは天の御父とわたしたちとの会話であることを覚えておいてください。祈りを終えた後も、しばらく黙って耳を傾ける時間を取ってください。ひざまずいている間に助言、導き、慰めを御父から与えられることがあるからです。

自分には祈る資格がないといった考えに決して屈服しないでください。このような考えはサタンから来ます。サタンは人に祈ってはならないと思い込ませたいのです（2ニーファイ32：8参照）。祈りたなくても、ほんとうに祈りたくなるまで祈り続けてください。

救い主はこのように命じておられます。「サタンに打ち勝つために、またサタンの業を支えるサタンの手下どもの手から逃れるために、常に祈りなさい。」（教義と聖約10：5）絶えずひざまずき、いつも個人的でひそかな祈りをささげることはできないにしても、心を「満たし、それが絶えず〔神〕への祈りになるように」することはできます（アルマ34：27。3ニーファイ20：1も参照）。毎日一日中、常に天の御父とその愛する御子への愛を抱き続けることはできます。声に出さなくても、天の御父に感謝の思いを伝え、責任を果たす力が与えられるように祈り求めることはできます。誘惑や物理的な危険にさらされたときに、静かに御父の助けを求めることはできます。

家族の祈り

救い主はひそかに祈るように命じておられるだけでなく、家族とともに祈るように勧告しておられます。救い主はこうおっしゃいま

祈り

した。「あなたがたの妻子が祝福を受けるように、あなたがたの家族の中で、わたしの名によって常に父に祈りなさい。」(3ニーファイ 18:21)

結婚している人の場合、家族の祈りを家族生活の一貫した方針としてください。毎朝、毎晩、ともにへりくだり、ひざまずいて祈ってください。家族の一人一人に祈りをささげる機会を幾度となく与えてください。家族全員で一つとなり天の御父から与えられている祝福に感謝してください。家族全員で一つの信仰を持ち、自分たちに必要な祝福を願い求めるだけでなく、ほかの人々のためにも祈ってください。

定期的な家族の祈りを通して、家族全員が神に近づき、家族関係が深まります。子供たちも祈りを通して天の御父と会話することができるようになります。だれもが皆、周囲の人々に奉仕し、誘惑に耐える準備が整います。家庭が霊的な力のみなぎる場所となり、世の中に蔓延する邪悪な影響の及ばない避難所となるのです。

公の場での祈り

教会の集会やレッスンのときなど、公の場で祈るように依頼されることがあります。このような機会を与えられたときに、天の御父と会話しているのであり、公開演説をしているのではないということを忘れないでください。ほかの人が自分の祈りの言葉についてどう思うかは心配しないでください。むしろ、気取ることなく、心からの祈りをささげてください。

祈りの答えを受け入れる

救い主はこう教えられました。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。」(マタイ 7:7-8) ニーファイ人に対して主はこう言われました。「与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、

見よ、何でもあなたがたに与えられる。」(3ニーファイ18:20)

天の御父はあなたの祈りを聞いておられます。あなたの期待していたような答えを与えられるとは限りませんが、御父の時に、御父の御心^{みこころ}に従って、確かに答えを与えてくださいます。あなたにとって何がいちばん良いのか御父は御存じです。あなたが真剣に祈っても、「いいえ」という答えが返ってくる場合があります。

祈りに対する答えはいろいろな形で与えられます。聖霊の、静かで、小さな声を通して与えられることもあります(「啓示」の項、00〔140〕－00〔144〕参照)。自分の置かれた生活環境、あるいは周囲の人々の親切な行為を通して答えが与えられることもあります。祈りによって天の御父に近づけば近づくほど、自分の切なる祈りに対する御父の憐れみと知恵に満ちた答えに気づきやすくなります。御父があなたの「避け所^{あわ}また力であ〔られ、〕悩める時のいと近き助けであ〔られ〕る」ことが分かります(詩篇46:1)。

その他の参照聖句——マタイ6:5-15; ヤコブの手紙1:5-6; エノス1:1-17; モーサヤ4:11-12; 3ニーファイ13:6-7; 14:7-8; 教義と聖約19:38; 88:63-65; ジョセフ・スミス—歴史1:9-19

「信仰」; 「断食と断食献金」; 「礼拝」も参照

入れ墨

末日の預言者は入れ墨はしないように強く勧めています。この勧告に従わない人々は、自分自身と神に対する尊敬の念が欠如していることを示しています。使徒パウロはわたしたちの肉体の大切さと意図的に自分の肉体を傷つけることの危険性^{みたま}について教えています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであらう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」(1コリント3:16-17)

入れ墨がある人は、自分の犯した過ちを常に思い出させるものを身に着けているようなものです。入れ墨を取り除くよう考えてみてください。

永遠の命

「ボディーパーアス」も参照

永遠の命

主はこう宣言されました。「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」(モーセ1:39) 不死不滅とは復活体として永遠に生きることです。イエス・キリストの贖いによって、すべての人がこの賜物を受けます。永遠の命、または昇栄とは、日の栄えの王国の最高の階級を受け継ぐことです。そこでわたしたちは神の前で家族として永遠に住むのです(教義と聖約131:1-4参照)。不死不滅の賜物と同様、この賜物もイエス・キリストの贖いを通じて受けることができます。ただ、この賜物を得るには、「福音の律法と儀式に従うこと」が求められます(信仰簡条1:3)。

永遠の命に至る道にとどまる

バプテスマを受け、聖霊の賜物を授かった人は、この永遠の命に至る道に足を踏み入れたことになります。預言者ニーファイは次のように教えています。

「あなたがたが入らなければならない門とは、悔い改めと、水によるバプテスマである。そうすれば、火と聖霊によって罪の赦しが与えられる。

そのとき、あなたがたは、永遠の命に至る細くて狭い道にいることになる。まことに、あなたがたはその門から入っている。あなたがたは御父と御子の戒めに従ってこのように行っている。またあなたがたは、御父と御子について証をされる聖霊を受けている。こうして、その方法によって入るならば受けると主が約束された、その約束が果たされたのである。」(2ニーファイ31:17-18)

ニーファイはこの「細くて狭い道」に入ったら、信仰をもって最後まで堪え忍ばなければならないということを強調しています。

「わたしは尋ねたい。あなたがたがこの細くて狭い道に入ったら、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではない

と言う。もしキリストを信じる確固とした信仰をもってキリストの言葉に従い、人を救う力を備えておられるこの御方の功德にひたすら頼らなかったならば、あなたがたは、ここまで進んで来ることさえできなかったからである。

したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」(2ニーファイ31：19-20)

バプテスマと確認の儀式を受けたあなたは、今や、永遠の命という目標を目指して進歩していくわけですが、その進歩の多くはこれからあなたが受ける救いの儀式にかかっています。その儀式とは男性の場合は、メルキゼデク神権への聖任、そして男性、女性の場合ともに、神殿でのエンダウメントと結婚の結び固めです。これらの儀式を受け、儀式に伴う聖約を守ることが、日の栄えの栄光の中で最高の階級を受け継ぐ備えとなります。

あなたの手の届くところに

「細くて狭い道」を歩む自分の進歩について熟考するときに、永遠の命は確かに自身の手の届くところにあるという確信を持ってください。主はあなたが御自身のもとに戻ることを望んでいらっしゃいます。そしてあなたに達成できないようなことを求めることは決してなされないのです。主の戒めはすべてあなたがさらに幸福になるように計画されています。信仰を行使し、全力で主に仕えるときに、主に命じられたことなら何でも成し遂げられるように、主はあなたに力を与え、道を備えてくださいます(1ニーファイ3：7参照)。自分にできる最大限の努力をし、罪を悔い改めるときに、イエス・キリストの贖い^{あがな}の力があなたの弱点、現世で経験する不公平や不当な扱い、苦痛を埋め合わせてくれます。「わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っているからである。」(2ニーファイ25：23)

栄光の王国

その他の参照聖句ヨハネ3：16；17：3；2ニーファイ9：39；モロナイ7：41；
教義と聖約14：7；50：5

「イエス・キリストの贖い^{あがな}」；「恵み」；「栄光の王国」も参照

栄光の王国

イエス・キリストの贖い^{あがな}を通して、すべての人が復活します（アルマ11：42－45参照）。復活後、わたしたちは裁きを受けるために主の前に立ちます（黙示20：12；3ニーファイ27：14参照）。そしてそれぞれに特定の栄光の王国に永遠の住まいが割り当てられます。主は次のように語ったときに、この原則について教えられたのです。「わたしの父の家には、すまいが5たくさんある。」（ヨハネ14：2）

3つの栄光の王国があります。日の栄えの王国、月の栄えの王国、星の栄えの王国です。どの栄光を受け継ぐかは、主の戒めにどれほど従順であったかが表れる、その人の改心の度合いによります。その人がどのように「イエスの証^{あかし}を受け入れ」たかにもよります（教義と聖約76：51。74，79，101節も参照）。

日の栄えの王国

日の栄えの王国は3つの栄光の王国の中で最高の王国です。この王国に属する人々は父なる神と御子イエス・キリストのもとで永遠に住むことができます。自分自身が日の栄えの栄光を受け継ぎ、ほかの人々も同様にこの偉大な祝福を受けられるようにすること、それがわたしたちの目標でなければなりません。このような目標は1回の努力で達成できるものではありません。生涯にわたって常に目的を持ち、義にかなった生活を送った結果として達成できるものなのです。

日の栄えの王国は、「イエスの証^{あかし}を受け入れ」た人々、「〔御自分〕の血を流すことによってこの完全な贖罪を成し遂げられた、新しい聖約の仲保者イエスを通じて完全な者とされた」人々のために備えられたところです（教義と聖約76：51，69）。この賜物^{たまもの}を受け継ぐためには、救いの儀式を受け、戒めを守り、罪を悔い改めなければなりません。日の栄えを受け継ぐ人々に関する詳しい説明については、

教義と聖約76：50－70，92－96を参照してください。

1836年1月、預言者ジョセフ・スミスは、日の栄えの栄光を受け継ぐための必要条件に関して理解を深める啓示を受けました。天がジョセフに開かれ、ジョセフは日の栄えの王国を見ました。兄アルビンがバプテスマの儀式を受ける前に亡くなったにもかかわらず、日の栄えの王国にいるのを目にしたときには、ジョセフは驚きました（教義と聖約137：1－6参照）。そのとき、主の声が預言者ジョセフに聞こえました。

「この福音を知らずに死んだ者で、もしとどまることを許されていたらそれを受け入れたであろう者は皆、神の日の栄えの王国を受け継ぐ者となる。

これから後、この福音を知らずに死ぬ者で、真心からそれを受け入れたであろう者も皆、その王国を受け継ぐ者となる。

主なるわたしは、すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて裁くからである。」（教義と聖約137：7－9）

この啓示に説明を加え、預言者ジョセフは次のように語っています。「わたしはまた、責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちが皆、天の日の栄えの王国に救われるのを見た。」（教義と聖約137：10）

預言者ジョセフに与えられた別の啓示から、日の栄えの王国の中にも3つの階級があることを知らされています。最高の階級に昇栄し、永遠に家族関係を続けるためには、「結婚の新しくかつ永遠の聖約」に入り、その聖約を守らなければなりません。言い換えれば、神殿結婚は日の栄えの最高の階級を得るための必要条件なのです（教義と聖約131：1－4参照）。結婚の新しくかつ永遠の聖約に入るふさわしさを備えた人ならばだれでも、現世であれ、来世であれ、その機会にあずかることができます。

月の栄えの王国

月の栄えの栄光を受け継ぐ人々は「御子の臨在は受け〔ます〕が、御父の完全は受け〔ません。〕それゆえ、彼らは日の栄えの体ではなく、月の栄えの体であって、月が太陽と違ってのように栄光にお

エンダウメント

いて違ってい〔ます。〕」（教義と聖約76：77-78）一般的な言い方をすれば、月の栄えの王国に住む人々は「人間の悪巧みによって目をくらまされた」人ではあっても尊敬すべき人々です（教義と聖約76：75）。このグループの中には「イエスの証に雄々しくな〔かった〕」教会員も含まれます（教義と聖約76：79）。また、この地上で福音を受け入れる機会がありながらも拒絶し、現世の生涯を終えた後に霊界で受け入れた人々も含まれます（教義と聖約76：73-74参照）。月の栄えの栄光を受け継ぐ人々についてもっと知りたければ、教義と聖約76：71-80, 91, 97を参照してください。

星の栄えの王国

星の栄えの栄光は「キリストの福音を受け入れず、イエスの証も受け入れなかった」人々のために用意された場所です（教義と聖約76：82）。これらの人々は時として地獄と呼ばれる霊の獄から贖われた後に自分たちの栄光を受けます（教義と聖約76：84, 106参照）。星の栄えの栄光を受け継ぐ人々に関する詳しい説明は、教義と聖約76：81-90, 98-106, 109-112に記されています。

滅び

どの栄光の王国に住むにもふさわしくない人々がいます。「滅びの子」と呼ばれ、「栄光の王国ではない王国を受けなければならない」人々です（教義と聖約76：32；88：24）。これは「〔神〕の力を知り、それにあずかる者とされながら、自らを悪魔の力に打ち負かされるに任せ、また真理を否定し、〔神〕の力に反抗するに自らを任せたすべての者」の置かれる境遇です（教義と聖約76：31。30, 32-49節も参照）。

その他の参照聖句——1コリント15：40-42；教義と聖約88：20-39；130：18-19

「イエス・キリストの贖い」；「永遠の命」；「天国」；「地獄」；「救いの計画」も参照

エンダウメント（「神殿」参照）

ガーメント（「神殿」参照）

改 心

使徒パウロは次のように宣言しました。「肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安とである。」（ローマ8：6。2ニーファイ9：39も参照）墮落した状態のわたしたちは度々誘惑と闘います。そして、時として「肉の思いは、悪魔の霊」に屈することがあります（2ニーファイ2：29。本書「墮落」の項、56－59も参照）。永遠の命という祝福を受けられるようになるには、「霊の思い」を抱き、邪悪な望みを克服する必要があります。変化を遂げる必要があります。もっと正確に言えば、人は救い主の贖いの力と聖霊の力によって変わる、あるいは方向を転換する必要があるのです。この過程を改心と呼びます。

改心は行いの変化を含みますが、その変化は行いを越えた部分にまで及びます。それはわたしたちの性質そのものが変化することなのです。それはきわめて著しい変化であり、主と主の預言者が再生、心の変化、火のバプテスマと呼んでいるほどです。主はこのように言われました。

「全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語の民、民族が再び生まれなければならないことを不思議に思ってはならない。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にならなければならない。」

このようにして、彼らは新たな者となる。このようにならないかぎり、決して神の王国を受け継ぐことはできない。」（モーサヤ27：25－26）

改心の過程

改心は過程であり、瞬間的な出来事ではありません。救い主に従おうとする義にかなった努力の結果として改心するのです。この努

改心

力にはイエス・キリストに対する信仰を行使し、罪を悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜物^{たまもの}を受けて最後まで信仰をもって堪え忍ぶことが含まれます。

改心は奇跡的であり、人生を変えますが、それは静かな奇跡です。天使の訪れやその他の劇的な出来事によって改心がもたらされるわけではありません。天使にまみえたアルマでさえ真理^{あかし}の証を求めて「幾日もの間、断食をして祈ってきた」後でやっと改心することができたのです（アルマ5：46）。また復活された救い主にまみえたパウロも「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない」と教えています（1コリント12：3）。

改心は静かで、途切れることのない過程であるため、今改心していても、それとは気づかないかもしれません。「レーマン人は改心したときにわたしを信じたので、火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった」と書かれているレーマン人のような経験をするかもしれません（3ニーファイ9：20）。信仰を行使し、救い主に従おうとたゆまず努力する人は偉大な改心へと導かれることでしょう。

改心した人々の性格

モルモン書には主に^{きえ}帰依した人々の様子が紹介されています。

善を行う望みを持つ。ベニヤミン王の民はこう宣言しています。「全能の主の御霊^{みたま}〔は〕わたしたちが悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの中に、すなわちわたしたちの心の中に大きな変化を生じさせてくださいました。」（モーサヤ5：2）アルマは「罪を見て忌み嫌うのを禁じることができなかった」人々について語っています（アルマ13：12）。

主に逆らわない。かつては邪悪で流血を好む民でしたが「主に帰依した」レーマン人の一団について、モルモンは語っています（アルマ23：6）。彼らは自分たちの名前をアンタイ・ニーファイ・リーハイ人という名前に変え、「義にかなった民となったので〔す。〕まことに、彼らは謀反^{むはん}に使う武器を捨てて、もはや神と戦わず、同胞^{はらから}のだれとも戦〔いませんでした。〕」（アルマ23：7）

福音を分かち合う。エノス、父アルマ、息子アルマ、モーサヤの息子たち、アミュレク、ゼースロムは主に帰依した後、献身的に福音を宣べ伝えました（エノス1：26；モーサヤ18：1；モーサヤ27：32-37；アルマ10：1-12；15：12参照）。

愛に満たされる。復活した救い主がアメリカ大陸を訪れた後、「ニーファイ人もレーマン人もともに皆、地の全面で主に帰依し〔まし〕た。そして、彼らの中にはまったく争いがなく、論争もなく、皆、互いに公正に振る舞〔いまし〕た。……

そして、民の心の中に宿っていた神の愛のために、地の面にはまったく争いが〔ありませんで〕た。

また、ねたみや紛争、騒動、みだらな行い、偽り、殺人もなく、どのような好色もなく、神の手によって造られたすべての人の中で、彼ら以上に幸せな民は確かにあり得〔ませんで〕た。

強盗も人殺しもおらず、レーマン人とか何々人とか言われる者もなく、彼らは一つであり、キリストの子であり、神の王国を受け継ぐ者で〔し〕た。」（4ニーファイ1：2，15-17）

より偉大な改心を目指して努力する

自分自身の改心に対しておもな責任を負うのはあなたです。だれもあなたに代わって改心することはできません。またあなたに改心するよう強いることもできません。しかし、改心の過程で助けを受けることはできます。家族、教会の指導者や教師、聖文に登場する人々の義にかなった模範から学んでください。

大きな心の変化を経験する能力は、救い主の完全な模範に従おうと努力するとき高められます。聖文を読み、信仰をもって祈り、戒めを守り、聖霊がともにいてくださるよう願ひ求めてください。改心の過程を歩み続けるならば、御霊が「大きな変化を生じさせてくださ〔っ〕た」ベニヤミン王の民のようにあなたも「非常に大きな喜び」を受けることでしょう（モーサヤ5：2，4参照）。また「確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをして、全能者である主なる神、キリストから御自分のものとして印を押されるよう

家族

に、また天に招き入れられて、永遠の救いと永遠の命にあずかるようにしてほしい」というベニヤミン王の助言に従うことができるようになることでしょう（モーサヤ5：15）。

その他の参照聖句——マタイ18：3；ルカ22：32；アルマ5：7-14

「イエス・キリストの贖い」；「バプテスマ」；「聖霊」；「救い」も参照

確 認（「聖霊」；「^{あがな}按手」参照）

家 族

1995年9月23日、ゴードン・B・ヒンクレー第15代大管長は扶助協会の集会で以下の宣言を読み上げました。この靈感あふれる宣言、「家族——世界への宣言」は家族に関する教会の最も権威ある声明となりました。

「わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。

神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として

親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

わたしたちは宣言します。この世に命をもたらし手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。

夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対して愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。『子供たちは神から賜った嗣業であり』(詩篇127:3)とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。

家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとって確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養育するという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要とときに、親族が援助しなければなりません。

わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を

家族の祈り

虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前^{みまへ}に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

わたしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。」
〔『聖徒の道』1998年10月号、24〕

「家庭の夕べ」；「結婚」；「神殿」も参照

家族の祈り（「祈り」参照）

家族歴史活動と系図

1836年4月3日、カートランド神殿で預言者エリヤがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリを訪れました。エリヤは二人に神権の結び固めの力を授け、世代から世代にわたって家族が結び固められることが可能となりました。この力を授けたときに、エリヤは「先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖に向けさせ」るために主がエリヤをお遣わしになるという預言を成就しました（教義と聖約110：14－16参照。マラキ4：5－6も参照）。

家族歴史活動を通じて、やむことのないこの預言の成就にあなたも参加することができます。先祖について学び、先祖に対する愛を深めることができます。先祖の勇気と信仰に満ちた話から靈感を受けることができます。また自分の子供たちにこの遺産を譲り渡すことができます。

このような恵みは家族歴史活動から永続的にもたらされるものですが、それが教会として大変な努力を払って系図記録を収集するおもな理由ではありません。教会の家族歴史活動はすべて「先祖と子孫の間にある……固いつながり」を形成する必要があるから行われるのです（教義と聖約128：18）。この固いつながりは、わたしたちが自分たちの先祖に代わって神聖な神殿の儀式を受けるときに、

神権の力によって形成されます。

死者の贖い^{あがな}

天の御父の子供たちの多くは、完全な福音を知る機会に恵まれることなくこの世を去りました。主は、その憐れみと無限の愛により、そのような子供たちが福音の証^{あかし}を得て、神権による救いの儀式にあずかる方法を備えられました。

霊界で、「真理を知らずに罪のうちに死んだ者や、預言者たちを拒んで背きのうちに死んだ者に、福音が宣べ伝えられ〔まし〕た。これらの者は、神を信じる信仰、罪の悔い改め、罪の赦し^{ゆる}のための身代わりのバプテスマ、^{あんしゅ}按手による聖霊の賜物^{たまもの}について教えを受け〔まし〕た。またこのほかに、肉においては人間として裁きを受け〔ます〕が、霊においては神のように生きるための資格を得るうえで知っておく必要のある、福音のすべての原則が教えられ〔まし〕た。」(教義と聖約138：32－34)

霊界に住む霊の多くは福音を受け入れています。しかし、肉体がないので、自分の力で神権の儀式を受けることができません。聖なる神殿で、わたしたちは彼らに代わって儀式を受ける特権にあずかります。これらの儀式には、バプテスマ、確認、(男性の場合)メルキゼデク神権への聖任、エンダウメント、結婚の結び固め、親子の結び固めが含まれています。主はこの業に関する啓示を預言者ジョセフ・スミスに与えて、イエス・キリストの復活直後キリスト教徒に明らかにされた儀式を回復されたのです(1コリント15：29参照)。

亡くなった人に代わって神権の儀式を受ける人は、その人にとってシオン山の救い手となります(オバデア1：21参照)。その働きは救い主の贖い^{あがな}の犠牲の精神に似たものとなります。亡くなった人が自分の力ではできない救いの業を代わりに執行することになるからです。

家族歴史活動におけるあなたの責任

家族歴史活動に関連して与えられている基本的な責任が3つありま

家族歴史活動と系図

す。

1. 自分自身のために神殿の儀式を受け、家族も同様の儀式を受けられるように助ける。
2. 現在有効な神殿推薦状を保持し、状況が許すかぎり頻繁に神殿に参入する。
3. 家族歴史に関する情報を収集し、自分の先祖が神殿の祝福を受けられるように助ける。

住んでいる場所や置かれた環境に関係なく、少なくともある程度は神殿と家族歴史活動に携わることができます。恐らくすべてのことはできないにしても、できることはあるはずです。以下の提案が始めるきっかけとなるかもしれません。

自分の人生で起こった重要な出来事について詳しく記録する。自分の誕生日、出生地、バプテスマと確認の儀式を受けた日を記録する。個人の日記を書き、自分の人生で最も印象深い出来事について記録する。その中に自分の子供や将来の子孫の信仰を強めるような個人的な経験も含める。

自分の先祖について知る。まず手始めに自分の記憶と家庭で入手可能な資料に基づいて情報を記録する。自分の兄弟姉妹、両親、おじ、おば、祖父母、曾祖父母^{そうそふほ}について、正確に記憶しているか見つけることのできる重要な情報を記録する。可能ならば、そのような情報が記載された証明書やそのほかの文書のコピーを手に入れる。より多くの情報を収集するにつれて、家庭以外の場所で、例えば、公的記録のようなものを探し出したいと思うかもしれない。地元のワードまたは支部に家族歴史相談員がいる場合、彼らの助けを受けることができる。家族歴史に関する教会の公式ホームページ、www.familysearch.org を開くという方法もある。

自分の先祖がだれであるか明らかになったら、『系図表』と『家族の記録』フォームを用いて、見つけた情報を記録する。これらのフォームは印刷された書類の形で、『個人の先祖ファイル』

(Personal Ancestral File) のような教会制作のソフトウェアプログラムの画面上でも利用できる。

福音にあずかることなく亡くなった自分の先祖について必要な情報を収集し終わったら、その先祖のための神殿の儀式が確実に執行されるように手配します。神殿の近くに住んでいなくて、自分と自分の家族で儀式を行うのが難しい場合でも、先祖の名前を神殿に提出し、ほかの人々に身代わりの業を執行してもらうことができます。その方法を知るために近くの家族歴史センターを訪問するか地元のワードまたは支部の家族歴史相談員と相談することができます。

預言者ジョセフ・スミスは「死者と生者に関する原則」があり、それは「わたしたちの救いに関して軽々しく見過ごすことのできないものです。彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり、不可欠だからです。それは……わたしたちなしには彼らが完全な者とされることはない……ように、わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです」と宣言しました（教義と聖約128：15）。家族歴史活動に携わることにより、あなたとあなたの先祖は救いに向かって進歩することができます。

「神殿」も参照

家庭の夕べ

家庭は福音を学ぶための最も大切な場所です。その点で、ほかのどの組織も家庭に取って代わることはできません。末日の預言者は、愛と福音によって子供を養い育てるようにと繰り返し両親に呼びかけています。

1915年、大管長会を構成するジョセフ・F・スミス大管長とその副管長は、家庭を強めるために教会全体への働きかけを開始しました。両親に毎週1度子供たちを集め、「家庭の夕べ」という集会を開くように呼びかけたのです。それは家族が時間を取って、ともに祈り、歌い、聖文を読み、お互いに福音を教え合い、家族の一致を図るそのほかの活動に参加するというものでした。

1970年、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、副管長

家庭の夕べ

とともに、月曜日の夜を家庭の夕べの時間と決めました。その発表以来、教会は各家族が家庭の夕べの時間をともに過ごせるようにとの配慮から、月曜日の夜には教会の活動を入れないようにしてきました。

末日の預言者は、教会員に家庭の夕べを最優先するように引き続き強く勧めています。そして、このプログラムを忠実に実行する家族はこの時代の様々な悪から守られ、現在と永遠にわたって豊かな喜びを受けることができると約束しています。

すべての教会員は月曜日の夜を、家庭の夕べの時間にとり置き、聖なる時間として過ごすべきです。夫婦の場合は、^{はんりょう}伴侶と二人で毎週家庭の夕べを開いてください。子供がいれば、子供を参加させてください。その場合には、プログラムの内容を子供の必要と興味に合わせ、子供の参加を促してください。子供が成長し、家を離れて生活するようになって、引き続き伴侶と家庭の夕べを開いてください。

独身者の場合は、自分とワードまたは支部のほかの独身会員のために家庭の夕べグループを組織するよう監督または支部長に依頼することを考えてください。監督または支部長は、このプログラムの組織に責任を持ち、家庭の夕べが定期的に開かれるように取り計らう家庭の夕べリーダーを招いてもよいでしょう。

家庭の夕べの大まかな活動内容としては次のようなものが挙げられます。

開会の歌

開会の祈り

聖文を読む

レッスン

活動

閉会の歌

閉会の祈り

リフレッシュメント

家庭の夕べのレッスンを準備するときに、そのレッスンが聖文、末日の預言者の教え、個人的な経験や証^{あかし}に基づいたものとなるように留意してください。本書は教えるテーマを選ぶときに役立ちます。本書以外に、例えば、『家庭の夕べアイデア集』(31106 300)、『福音の原則』(31110 300)、『家族ガイドブック』(31180 300) やその他の教会機関誌など、教会の出版物を参考にとよいでしょう。

「家族」も参照

姦^{かん} 淫^{いん} (「貞潔」参照)

感謝

主は次のように約束しておられます。「すべてのことを感謝して受け入れる者は、栄光を与えられるであろう。」(教義と聖約78：19) 感謝は人を向上させ、高める態度です。心に感謝の気持ちを抱いているときの方が幸せだということは、恐らく自分自身の経験から分かるでしょう。人は感謝しているときに、苦々しい思い、怒り、悪意を抱くことはできません。

自分が受けているすばらしい祝福に感謝してください。自分に与えられているこの上ない機会に感謝してください。両親に感謝してください。感謝していることを彼らに伝えてください。友人と教師に感謝してください。自分の願いを聞き入れてくれたり、いかなる方法であっても自分を助けてくれたりするすべての人々に感謝の気持ちを伝えてください。

天の御父の恵みに感謝してください。あらゆるものに神の手を認め、神から頂いているあらゆるものに感謝し、戒めを守り、人に奉仕することで感謝の気持ちを神に伝えることができます。神が愛する御子イエス・キリストを遣わして下さったことに感謝してください。救い主の偉大な模範と教え、人を引き上げ助けるために差し伸べられる主の手、主の無限^{あがな}の贖いに感謝の気持ちを表してください。

監督

主の回復された教会があることを主に感謝してください。教会から受けるあらゆる祝福を主に感謝してください。友人と家族がいることを主に感謝してください。感謝の姿勢は日々の生活に導きと祝福をもたらしてくれます。感謝するように努めてください。感謝することによってすばらしい結果が生じることに気づくでしょう。

その他の参照聖句——詩篇100：3-4；ルカ17：11-19；モーサヤ2：19-22；アルマ34：38；教義と聖約59：7

監督（「教会の管理」参照）

儀式

教会において、儀式は神権の権能を通して行われる神聖で外形的な業です。儀式の中には昇栄に不可欠なものもあります。これらの儀式は救いの儀式と呼ばれています。その中には、バプテスマ、確認、（男性の場合）メルキゼデク神権への聖任、神殿のエンダウメント、結婚の結び固めが含まれます。これらの儀式のいずれに関して、主と厳粛な聖約を交わします。

子供の命名と祝福、油の聖別、病人や悩める者の癒^{いひや}しなど、ほかの儀式も神権の権能によって行われます。これらは、救いに不可欠な儀式ではなくとも、わたしたちを慰め、導き、勇気づける大切な儀式です。

儀式と聖約は自分が何者なのかを思い出させてくれます。神への務めを思い起こさせてくれます。主はわたしたちが御自分のもとに来て永遠の命を受けられるように、これらの儀式と聖約を与えてくださいました。それらを尊ぶときに、主はわたしたちを強めてくださいます。

神権の儀式にかかわる機会は幾度となく訪れるかもしれません。そのような機会に恵まれたときにはいつでも、儀式を施す側であれ、受ける側であれ、自分自身を備えるためにできる限りのことを行ってください。祈り、断食をし、神権指導者と相談し、聖文や末日の預言者の言葉を研究することによって、そのような備えができます。神権指導者であれば、いつでもすぐに儀式を行うことができますよう

に、自らを霊的に備えておかねばなりません。清く、ふさわしい生活を送り、聖霊を常にばんりょうとできるように努力してください。

その他の参照聖句——教義と聖約84：19-21；信仰簡条1：3-5

「聖約」；「福音」；「神権」も参照

犠 牲

犠牲とは、より価値のあるもののために、自分が大切にしているものをあきらめることです。末日聖徒として、わたしたちは主と主の王国のために、この世的なものを犠牲にしなければならないことがあります。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、主が求められるのであれば、いかなる犠牲も喜んで払う必要があります。犠牲を払うように求められることなく、永遠の救いに必要な信仰をはぐくむことは決してできません。

イエス・キリストのあがな贖いは福音の中心を成す大いなる永遠の犠牲です（アルマ34：8-16参照）。救い主が贖いの業を成し遂げられる以前、主の聖約の民は主の犠牲の象徴として動物の犠牲をささげました。この慣習は来るべき将来の贖いに備えるうえで助けとなりました（モーセ5：4-8参照）。動物の犠牲をささげるという戒めは、イエス・キリストの死と同時になくなりました。今日の教会では、救い主の贖いの犠牲を記念するせいさん聖餐を受けます。

イエス・キリストのあがな贖いの犠牲を記念するだけでなく、わたしたちも打ち砕かれた心と悔いる霊という犠牲をささげなければなりません。救い主はこう言われました。「あなたがたは、もはや血を流すことをわたしへのささげ物としてはならない。あなたがたの犠牲と燔祭は取りやめなさい……あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲としてわたしにささげなさい。打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもて来る者に、……火と聖霊によってバプテスマを授けよう。」（3ニーファイ9：19-20）

打ち砕かれた心と悔いる霊を持つためには、けんそん謙遜になり、神の御心みこころと神がその教会を導くように召された人々の勧告を受け入れる必要があります。また、罪に対する深い悲しみと悔い改めに対する

希望

心からの望みを感じる必要があります。預言者リーハイはこのような犠牲をささげることの重要性を強調しました。「見よ、〔キリスト〕は律法の目的を達するため、打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために、罪に対する犠牲として御自身をささげられる。このような人々のためにしか、律法の目的は達せられないのである。」(2ニーファイ2:7) 打ち砕かれた心と悔いる霊をささげなければ、^{あがな}贖いを通してもたらされる祝福を十分に受けることができなくなります。

主が命じられたように進んで犠牲をささげるならば、主に受け入れていただくことができます。主は次のように教えておられます。「その心が正直で、打ち砕かれていて、かつその霊が悔いていることを知っており、また犠牲を払って、すなわち主なるわたしが命じるあらゆる犠牲を払って自分の聖約を進んで守ろうとするすべての者は、わたしに受け入れられる。」(教義と聖約97:8) 永遠の見地からすれば、この世的なものをあきらめることは、実際には、決して犠牲ではありません。受ける祝福の方が、何かをあきらめることで失うものよりはるかに大きいからです。

その他の参照聖句——マタイ19:16-22; 教義と聖約59:8

「イエス・キリストの^{あがな}贖い」; 「愛」; 「従順」; 「悔い改め」; 「^{せいさん}聖餐」; 「奉仕」も参照

希 望

「希望」という言葉は、時として誤解されることがあります。日々の会話の中で、この言葉はしばしば当てにならない気持ちを遠回しに表現するときに用いられます。例えば、天気が変わるように希望するとか友人が訪問してくれるように希望するといった表現がそうです。しかしながら福音の場合、「希望」という言葉には、確かで、揺らぐことのない、積極的な意味があります。多くの預言者が「確固とした望み」(アルマ34:41) や「生ける望み」(1ペテロ1:3) を持つことについて語っています。預言者モロナイは次のように教えています。「神を信じる者はだれであろうと、もっと良い世界を、ま

ことに神の右に一つの場所を、確かに望むことができる。この望みは信仰から生じ、人々にとってその心をしっかりとした不動のものにする^{いかり}錨となる。そしてそのような人々はいつも多くの善い行いをし、神をあがめるようになる。」(エテル12:4)

わたしたちは希望があれば、神の約束に信頼を置くことができます。「義の業」を行えば、「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける」という穏やかな確信を持つことができます(教義と聖約59:23)。そのような希望はイエス・キリストの^{あがな}贖いを通してのみもたらされるとモルモンは教えています。「あなたがたは何を望めばよいのであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、キリストの^{しょくざい}贖罪とキリストの復活の力によって永遠の命によみがえることを望まなければならない。あなたがたがキリストを信じることで、約束のとおりこれが果たされるのである。」(モロナイ7:41)

福音に従った生活を送ろうと努力するときに、あなたの能力は増し、「聖霊の力によって……望みにあふれ」るでしょう(ローマ15:13)。神の赦しを^{ゆる}祈り求めるとき、希望がふくらみます。モルモン書に登場するアロンという宣教師はレーマン人の王に対して次のように断言しています。「あなたの罪をすべて悔い改め、神の御前^{みまへ}にひれ伏して、与えられると信じて信仰をもって神の御名^{みな}を呼ぶならば、そのときあなたは、今願っている〔希望〕を得るでしょう。」(アルマ22:16) 聖文を研究し、その教えに従うときにも希望を得ることができます。使徒パウロはこう教えています。「これまでに書かれた事がらは、すべてわたしたちの教^{おしえ}のために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みをいだかせるためである。」(ローマ15:4)

希望の原則は永遠にまで及ぶものですが、日々のチャレンジを乗り越えていくときの支えともなります。詩篇の著者はこう語っています。「ヤコブの神をおのが助けとし、その望みをおのが神、主におく人はさいわいである。」(詩篇146:5) 希望があれば、人生に喜びを見いだすことができます。あなたは「忍耐し、いつの日かあらゆる苦難を離れて休めるという確固とした望みをもって……苦難に耐

虐待

える」ことができます（アルマ34：41）。また、「これからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進[むことができます]。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、……御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われています。」（2ニーファイ31：20）

その他の参照聖句——哀歌3：25-26；1コリント15：19-22；1ペテロ3：15；1ヨハネ3：2-3；モルモン書ヤコブ4：4-6；アルマ13：28-29；27：28；エテル12：32；モロナイ8：26；9：25；10：22

「逆境」；「イエス・キリストの^{あがな}贖い」；「慈愛」；「信仰」

虐 待

虐待とは、心身に障害を与えるような形で、ほかの人に接したり自分自身を扱ったりすることです。虐待は心と霊に害を与え、しばしば肉体までも傷つけます。それは混乱、疑い、不信感、恐れを招きます。また社会の法則に違反し、救い主の教えに真っ向から対立するものです。肉体的虐待、性的虐待、言葉による虐待、あるいは心理的虐待と、形は違っていても、主はあらゆる虐待行為を非難しておられます。虐待行為を行う人は教会の宗紀上の処置の対象となるでしょう。

虐待者への助言

どのような関係であれ、虐待行為を行っている人は悔い改めなければなりません。主の^{ゆる}赦しを心から願い求めてください。自分が害を及ぼした相手からも赦しを求めてください。悔い改めの過程で援助を得られるように、また必要であればさらなる助言やそのほかの援助を得られるように、監督または支部長と相談してください。

怒りが原因で虐待行為に走っているのであれば、自分の感情を抑えられるようになってください。主に祈りをささげ、主の助けを願い求めてください。永遠の見地から見れば、怒りは、ほとんどの場合、それほど重要ではないことに反応して起こるものだというのが

分かるでしょう。

性的虐待の罪を犯しているならば、自分の思いをコントロールしようと努力してください。思いがどれほど大きな影響を人生に及ぼすか忘れないでください。「〔人へ〕その心に思うとおりの人間である。」（欽定訳箴言23：7から和訳）ポルノグラフィや不道德な性的欲望をかき立てる一切の媒体に決して近づかないでください。「絶えず徳であなたの思いを飾るように」する能力を祈り求めてください（教義と聖約121：45）。

虐待の犠牲者への助言

虐待の犠牲者であれば、すぐに助けを求めてください。通常は監督または支部長、時としてステーク会長会または地方部長会の一員であることもありますが、神権指導者と相談してください。何をすべきか分るように助けてくれるはずです。

安心してください。ほかの人から有害な行為を受けたからといって自分を責める必要はないのです。罪の意識を抱く必要もありません。危害を加えた相手が知人であれ、見ず知らずの人であれ、あるいはたとえ家族の一員であれ、強姦ごうかんまたはそのほかの性的虐待の犠牲者であるあなたは、性的な罪を犯していることにはなりません。あなたに罪はなく、天の御父はあなたを愛しておられるということを理解してください。

イエス・キリストとその贖いあがなを通してのみ可能となる平安を求めて祈ってください（ヨハネ14：27;16：33参照）。救い主はあなたの感じる痛みや苦しみを、ほかの人々によって引き起こされる苦痛をも含め、すべて経験しておられ、あなたがどのような助けを必要としているのかを御存じです（アルマ7：11－12参照）。復讐ふくしゅうについて考えるよりもむしろ、例えば自分自身の人生観のように自分でコントロールできる事柄に意識を集中させてください。自分を傷つけた人ゆるを赦せるように強さを求めて祈ってください。

心が癒される過程を通して常に導きを受けられるよう神権指導者に助けを求め続けてください。福音のもたらす祝福を経験すること

逆境

によって、虐待の連鎖を断ち切り、過去の苦しみから自らを解放することができます。

その他の参照聖句——マタイ18：1-6；教義と聖約121：34-46

「^{ゆる}赦し」；「悔い改め」も参照

逆 境

天の御父の^{あがな}贖いの計画に欠かせない要素として、現世で経験する逆境があります。試練、失望、悲しみ、病気、心痛は人生で経験する困難な部分ですが、主に信頼を置くならば、それらは霊的な成長、精練、進歩をもたらしてくれます。

逆境の原因は様々です。自分の高慢や不従順の結果として試練に直面することもあります。この種の試練は義にかなった生活を送ることによって避けることができます。ただ単に人生の自然な流れの中で受ける試練もあります。義にかなった生活を送っている人であってもこの種の試練に見舞われることがあります。例えば、病気、将来の見通しが立たない、愛する人の死に直面するなどの試練も訪れるのです。ほかの人々の愚かな選択や相手を傷つける言動が理由で経験する逆境もあります。

信仰を用いて逆境に対処する

今も永遠にも、人の成功と幸福のほとんどは、人生の困難にどう対処するかに懸かっています。

モルモン書には逆境への異なる対処の仕方についてある一つの実例が記録されています。預言者リーハイとその家族は、弓矢で食糧にする獲物を取りながら、幾日もの間荒野野の中を旅していました。この家族は、リーハイの息子たちが弓を使えなくしてしまったときに、苦難に遭いました。レーマンとレムエルの弓の弾力がなくなり、ニーファイの弓は折れてしまいました。空腹と疲れのために、レーマンとレムエルは主に対して不平を言い始めました。リーハイですらつぶやき始めました。しかし、彼らとは正反対に、ニーファイは望みを捨てませんでした。そして出て行って、すべきことを行いま

した。ニーファイはこう語っています。「わたしニーファイは木で一つの弓を作り、まっすぐな枝で1本の矢を作った。それでわたしは、弓と矢、石投げと石で身を固め、『食糧を得るのにどこへ行ったらよいですか』と父に尋ねた。」ニーファイの言葉で謙遜^{けんそん}になったリーハイは、食糧を得るのにどこへ行ったらよいかと主に尋ねました。主はその祈りにこたえて、食糧の得られる場所へニーファイを導いてくださいました（1ニーファイ16：15-31参照）。

逆境に直面すると、レーマンやレムエルのようになる人がいます。不平を言い、苦々しい思いを抱き、次のようにつぶやきます。「どうしてこのようなことが起こるのだろうか。どうして今このような目に遭わなければならないのか。自分が一体何をしたというのだ。」このようなつぶやきには人の思いを支配する力があります。理解の目を曇らせ、活力を消耗し、主が人に望んでおられる様々な経験を奪い取る力があるのです。逆境に対してこのような態度で臨むよりはむしろ、ニーファイの模範に従うべきです。このように考えてみてはどうでしょうか。「わたしは何をすべきなのだろうか。この経験から何を学べばいいのだろうか。何を变える必要があるのだろうか。だれを助ければいいのだろうか。試練の中にあっても自分が受けた数々の祝福を忘れないためにはどうすればいいのだろうか。」

逆境の種類が違えば、そのために必要となる対処の仕方も違ってきます。例えば、病気にかかっているときには、ただ忍耐し信仰を持つ必要があります。人の言動に苦しんでいるのであれば、自分を傷つけた人を赦^{ゆる}せるように努力しなければなりません。虐待の犠牲者であれば、すぐに助けを求めるべきです。自分が従順でなかったためにもたらされた試練であれば、自らの行いを修正し、へりくだって赦しを求める必要があります。

逆境への対処の仕方は時と場合によって違ってくるかもしれませんが、変わる事のない対処の仕方が一つあります。それは天の御父とイエス・キリストに対する信頼です。預言者アルマは次のように教えました。「神に頼る者はだれであろうと、試練や災難や苦難の中にあって支えられ、また終わりの日に高く上げられる……。」（アルマ36：3）

逆境

天の御父とイエス・キリストを信頼する

御父と御子を信頼すると、あなたは御二方の完全な愛、すなわち御二方があなたの幸福を望んでおられ、霊的成長を助けてくださるということに確信が持てます。戒めを守り、御二方の御心^{みこころ}を知ろうと努力し、たとえ自分の望みとは違っていても御二方の求められることを行います。困難が取り除かれるようにという日々の祈りとともに理解の目が開かれ、天の御父はすべてのことを即座に解決してくださるわけではなく、人が学び成長し続けられるように忍耐する時間をお与えになることもあるということを知ります。その結果、救い主があなたの受けている試練を完全に理解してくださっているという確信の中に人は慰めを見いだすのです。救い主は、その無限の贖い^{あがな}の一部として「御自分の民の苦痛と病」を身に受けられます。また「肉において御自分の心が憐れみ^{あわ}で満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さ」を御自分に受けられます（アルマ7：11－12）。救い主はあなたの苦痛を経験しておられるので、どのようにあなたを助ければよいのか御存じなのです。信仰をもって主を仰ぎ見るならば、あなたは強められ、この世で経験するあらゆる試練に耐えられるようになります。

試練の中にあって主を信頼しようと努めるときに、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられた次の助言を忘れないでください。

「^{かんなん}艱難の中で忠実な者の受ける報いは、天の王国においてもっと大きい。

あなたがたは、この後に起こることに關するあなたがたの神の計画と、多くの艱難の後に來る榮光を、今は肉体の目で見ることができない。

多くの艱難の後に祝福は来る。」（教義と聖約58：2－4）

試練の中にあって平安と喜びを見いだす

様々な問題や悲しみで苦しんでいるときでも平安と喜びを見いだすことができます。モルモン書の中にはこの真理を学んだある義に

かなった民の物語が記されています。冷酷な統治者の下で奴隷の境遇に苦しんでいたこの民は自分たちの心を神に注ぎ出しました（モーサヤ24：8-12参照）。主はその祈りをお聞きになりました。

「あなたがたの頭を上げて喜びなさい。わたしは、あなたがたがわたしと交わした聖約を知っている。わたしは自分の民と聖約を交わし、その民を奴隷の状態から救い出す。

またわたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし、あなたがたが奴隷の状態にある間、あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしよう。わたしがこのようにするのは、あなたがたがこの後、わたしのために証人になれるようにするため、また主なる神であるわたしが、苦難の中にいる自分の民を訪れるということを、あなたがたが確かに知ることができるようにするためである。」（モーサヤ24：13-14）

アルマの民は信仰をもってこたえました。すると、「アルマと彼の^{はらから}同胞に負わされた重荷は軽くな〔りまし〕た。まことに、主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされ〔まし〕た。そこで彼らは心^{みこころ}楽しく忍耐して、主の御心にすべて従〔いまし〕た。」（モーサヤ24：15）

この義にかなった民と同様に、あなたも主が試練の時に自分を強くしてくださいと知り、「心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従〔う〕」ことができます。主はこう約束されました。「あなたがたを苦しめたすべてのことは、あなたがたの益のために、またわたしの名の栄光のためにもともに働く……。」（教義と聖約98：3）

その他の参照聖句——ヘブル4：15-16；2ニーファイ2：11-24；モーサヤ23：21-22；教義と聖約105：6；121：7-9；122章

「^{ゆる}赦し」；「希望」；「平安」；「救いの計画」；「悔い改め」も参照

ギャンブル

末日聖徒イエス・キリスト教会は、政府が後援する宝くじを含むあらゆる形のギャンブルに反対しています。

ギャンブルの動機となっているのは、何の努力もせずに何かを手

教育

に入れるという望みです。この望みは靈的破壊をもたらします。ギャンブルはこの行為に関与する人を、救い主の教えられた愛と奉仕から離れさせ、サタンの利己的な快樂へと導きます。労働と儉約の美德、何をするにも正直に努力するという望みを台なしにします。

ギャンブルに関与する人々は、ほとんど何も、あるいはまったく何も差し出すことなく、何か価値あるものが見返りとして手中に入るという考え方にごまかしがあることにやがて気づきます。多額の金銭、自らの誇り、家族と友人からの尊敬を捨てていることに気づきます。ギャンブルにだまされ、病みつきになってしまった人々は、しばしば別の目的のために使うべきお金、例えば、家族の基本的な必要を満たすためのお金までギャンブルに使ってしまうことがあります。ギャンブルに夢中になる人々の中には、ギャンブルから生じる借金を支払うために悲惨な奴隷状態に陥り、まったく絶望的になってしまい、果ては、盗みを働き、自分の名誉まで捨てる人がいます。

大管長会は、形態を問わずあらゆるギャンブルの合法化および政府の後援に反対する人々と協調して、自分たちの地域での反対運動に賛同するよう教会員に奨励しています。

「誘惑」も参照

教 育

主はこう命じておられます。「研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」（教義と聖約88：118）主はわたしたちに福音を学び、「天のこと、地のこと、地の下のこと、かつてあったこと、現在あること、すぐにも必ず起こること、国内にあること、国外にあること、戦争と諸国民の混乱、地上にある裁き、国々と王国に関する知識について」理解を深めるように勧告なさいました。「それは……〔わたしたちが〕あらゆる点で備えられるため」です（教義と聖約88：78－80）。

学校教育および職業訓練

自分の専門分野で成功できるようにいつも頭脳と技能を訓練する努力が必要です。教育によって得られた知識を用いて良い影響を与える人になってください。そうしていくうちに、高潔な人柄で知られる人物となることでしょう。また将来訪れる機会に備え、家族、教会そして地域社会にとって大いに価値ある存在となることでしょう。

可能なかぎり最善の学校教育を目指してください。幾つかの可能性としては、単科大学、総合大学、専門学校、家庭学習課程、地域教育、個人指導などが挙げられます。

セミナーとインスティテュート

世界中で、14歳から18歳の末日聖徒がセミナーに参加しています。このセミナーは聖文を用いたレッスンを平日に提供するものです。宗教インスティテュートは、18歳から30歳までの末日聖徒のために設けられ、様々な福音のテーマで平日にレッスンを提供しています。

これらのプログラムは生徒が福音についての知識とお互いの交流を深めることのできる霊的で社交的な場を提供します。

セミナーやインスティテュートについて知りたい場合は、地元の神権指導者と連絡を取ってください。

生涯学習

生涯を通じて教育の機会を求め続けてください。そうすることによって、自分の専門分野やそのほかの技術、興味に関する最新情報を得ることができます。急速に変化し続ける現代社会では、現在と未来のために自分を教育する時間を取るようにならなければなりません。

正規の学校教育を通じて知識を深めることに加えて、本を読み、健康的な文化行事に参加し、博物館や史跡を巡り、自分を取り巻く世界を観察することによって学習を継続することができます。

教会宗紀評議会

その他の参照聖句——箴言1：5；教義と聖約130：18－19

教会宗紀評議会

監督、支部長、ステーク会長、伝道部長、および地方部長は、会員が悔い改めを通して罪を克服できるように助ける責任があります。重大な法律違反、配偶者虐待、児童虐待、^{かんいん}姦淫、私通、^{ごうかん}強姦、近親相姦^{そうかん}といった最も重大な罪は、しばしば公式の教会宗紀が必要になります。公式の教会宗紀には会員特権の制限または会員資格の剥奪^{はくだつ}があります。

公式の宗紀の過程は管理責任を持つ神権指導者が宗紀評議会を要請した時点から始まります。宗紀評議会の目的は罪を犯した人の魂を救い、罪のない人を守り、教会の純潔と高潔、名誉を守るためです。

教会宗紀は靈感によって与えられた過程であり、ある一定期間にわたって実施されます。この過程を踏むことにより、またイエス・キリストの贖い^{あがな}を通して、会員は罪の赦し^{ゆる}を受け、心の平安を取り戻し、将来の罪を避ける力を得ることができます。教会宗紀の処置でこの過程が終了するわけではありません。この制度は、教会の完全な会員資格と完全な祝福を取り戻そうと努力し続ける、天の御父の子供たちを助けるためにあります。結果として望まれるのは、罪を犯した人が完全な悔い改めのために必要なすべての変化を経験することです。

「^{ゆる}赦し」；「悔い改め」も参照

教会の管理

イエス・キリストはこの教会の頭^{かしら}であられます。末日聖徒イエス・キリスト教会の使命はすべての人がキリストのもとに来るように助けることです（モロナイ10：32参照）。この使命を果たすために、主が啓示された「聖徒たちをととのえて……神の子を信じる信仰の一致と〔主〕を知る知識の一致」の方式に従って教会が組織されました（エペソ4：12－13。11節も参照）。以下の概要は教会の組織を

概説したものです。

家庭と家族

家族は教会の基本的な単位であり、家庭は福音を学ぶうえで最も大切な場所です。家庭に取って代わることのできる組織はほかにありません。教会は発展し続けていますが、その目的はいつも福音に従った生活をしようと努力している家族と個人を支え強めることです。

中央レベルの管理

今日、主は御自分の聖約の民を教会の大管長を通じて導いておられます。わたしたちは大管長を預言者、聖見者、啓示者として支持します。教会の大管長は全教会を管理します。大管長および大管長と同様に預言者、聖見者、啓示者である二人の副管長は大管長会定員会を構成します。

十二使徒定員会会員も預言者、聖見者、啓示者であり、大管長会と同様に「全世界におけるキリストの名の特別な証人」です（教義と聖約107：23）。彼らは大管長会の指示の下に働き、「教会を築き上げ、すべての国々において教会の諸事をすべて整え」ます（教義と聖約107：33）。また「イエス・キリストの福音を宣言することによって〔国々への〕門を開」きます（教義と聖約107：35）。

七十人定員会会員は福音を宣べ伝え教会を築き上げるために召され、十二使徒の指示の下に、また七十人会長会に召された7人の幹部の指導の下に働きます。七十人第一定員会と第二定員会の会員は中央幹部に任じられており、世界のどこであろうと召されて働きます。

管理監督会は全世界の教会のアロン神権を管理する会長会です。管理監督とその二人の副監督は大管長会の支持の下に働き、教会の実務的な事柄をつかさどります。

若い男性、扶助協会、若い女性、初等協会、日曜学校の組織には、いずれも教えと導きを提供する中央レベルの会長会が存在します。

教会の管理

地域レベルの管理

地域は教会における最大の地理的区分です。大管長会は、教会の幾つか特定の地域を十二使徒定員会の指示の下に直接管理するよう、七十人会長会に割り当てます。教会のそのほかの地域については、大管長会は地域会長会に管理するよう割り当てます。地域会長会を構成するのは、一人の会長と二人の副会長です。会長はたいてい七十人第一または第二定員会から割り当てられますが、副会長は七十人の定員会いずれかから割り当てられます。地域会長会は大管長会、十二使徒定員会、および七十人会長会の指示の下に働きます。

幹部の中には七十人の職に聖任されても中央幹部として働くことのない幹部もいます。そのような幹部は地域幹部七十人と呼ばれ、地理的位置に応じて、七十人第一定員会または第二定員会以外の定員会で働くように割り当てを受けます。地域幹部七十人の管轄区域はその幹部の居住地域から移動可能な範囲に限られます。地域幹部七十人の中には地域会長会で働く人もいます。

地元レベルの管理

ワードおよび支部。教会の会員は靈性を高め、社交上のつながりを深めるために、度々集会を開く会員の集まりにまとめられます。大きな会員の集まりはワードと呼ばれています。それぞれのワードは二人の副監督に補佐される監督が管理します。

小さな会員の集まりは支部と呼ばれています。それぞれの支部は、二人の副支部長に補佐される支部長が管理します。支部は、教会員から成る家族がその地域に少なくとも2家族住んでおり、会員の一人がふさわしいメルキゼデク神権者またはアロン神権を持つふさわしい祭司である場合に組織することができます。ステーキ会長会、伝道部長会、または地方部長会が支部を組織し、管理します。支部は、ステーキ内に位置する場合、発展するとワードになります。

それぞれのワードまたは支部は特定の地理的區域から成り立っています。ワードまたは支部の様々な組織は主の業に貢献します。大祭司グループ、長老定員会、18歳以上の女性のための扶助協会、12

歳から17歳までの若い男性のためのアロン神権定員会、12歳から17歳までの若い女性のための若い女性プログラム、1歳半から11歳までの子供のための初等協会、そして12歳以上のすべての教会員のための日曜学校などがそうです。これらの組織の一つ一つが、福音を教え、奉仕を行ううえで、また子供たちがイエス・キリストの福音に改心するように助けるという両親の神聖な務めを支援するうえで大切な役割を果たします。またこれらの組織は、一体となって働き、会員が隣人と福音を分かち合えるように助けます。

ステーキ、伝道部、地方部。教会が組織される地理的領域のほとんどはステーキに分割されます。「ステーキ」という言葉は預言者イザヤから来ています。イザヤは末日の教会は杭（くい 訳注——英語の“stake”は「杭」の意）でしっかりと固定される幕屋（訳注——幕を張りめぐらした小屋）のようなものになるであろうと預言しました（イザヤ33：20；54：2参照）。通常、一つのステーキには5つから12のワードや支部があります。それぞれのステーキは二人のステーキ副会長に補佐されるステーキ会長が管理します。ステーキ会長は七十人会長会または地域会長会に報告書を送り、指示や指導を受けます。

伝道部は通常、ステーキよりもかなり広範囲の区域に及ぶ教会の単位です。それぞれの伝道部は二人の伝道部副部長に補佐される伝道部長が管理します。伝道部長は直接中央幹部に報告する義務があります。

支部がワードを小規模化したものであるのとまったく同様に、地方部はステーキを小規模化したものです。地方部は情報交換が容易で地方部の集会への移動が便利な地域内に十分な数の支部がある場合に組織されます。二人の地方部副部長に補佐される地方部長が地方部を管理するように召されます。地方部長は伝道部長会に報告の義務があります。地方部は発展するとステーキになります。

独身会員のためのプログラム。多くの教会員は結婚の経験がないか、離婚しているか、伴侶を亡くした人々です。これらの会員は二つのグループを構成します。ヤングシングルアダルト（18歳から30歳まで）とシングルアダルト（31歳以上）です。

教義と聖約

ヤングシングルアダルトおよびシングルアダルトのための全教会的なプログラムはありません。その代わり、その地域に十分な数の独身会員が住んでいる場合、地元の神権指導者は、その指導の下で働く独身会員代表を召すように奨励されています。独身会員代表はダンス、奉仕プロジェクト、ファイヤサイドのような活動を計画します。これらの活動を通じて独身会員は互いに知り合い、強め合う機会が持てます。また独身会員は定期的に神権指導者と会って、自分たちの必要や、霊的成長と奉仕の機会について話し合うように奨励されています。

その他の参照聖句——教義と聖約107章

「神権」；「扶助協会」も参照

教義と聖約（「聖文」参照）

キリストの光

キリストの光は「広大な空間を満たすために神の前から発して」います。それは「万物の中にあり、万物に命を与える光であり、万物が治められる律法」です（教義と聖約88：12－13。6－11節も参照）。この力は永遠にわたってすべての人々の生活に及ぼす影響力です（ヨハネ1：9；教義と聖約93：2参照）。聖文の中で、キリストの光は主の御霊^{みたま}、神の御霊、キリストの御霊、あるいは命の光と呼ばれることがあります。

キリストの光を聖霊と混同しないようにしなければなりません。それは聖霊と違って人格を持った御方ではありません。人はキリストの御霊の影響力によって真の福音を見だし、バプテスマを受け、聖霊の賜物^{たまもの}を授けられます（ヨハネ12：46；アルマ26：14－15参照）。

良心はキリストの光の現れであり、人が善悪の判断ができるのはこの力によります。預言者モルモンはこう教えました。「善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊^{みたま}が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるもの

はすべて、キリストの力と賜物^{たまもの}によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。……さて、わたしの同胞^{はらから}よ、あなたがたは判断する際に用いる光、すなわちキリストの光について知っているので、誤って裁かないように注意しなさい。あなたがたが裁くその裁きで、あなたがたも裁かれるからである。」(モロナイ7:16, 18)

その他の参照聖句——ヨハネ8:12; アルマ28:14

「良心」; 「聖霊」も参照

悔い改め

悔い改めは福音の第一の原則の一つです(信仰簡条1:4参照)。それは現世と永遠の幸福に不可欠の要素です。悔い改めはただ単に悪い行いを認める以上の行為です。それは人に、神とその人自身、そして世の中に対する新しい見方を伝える思いと心の変化です。悔い改めには、罪から離れ、神に赦し^{ゆる}を求めることが含まれます。悔い改めへと人を動かすのは、神への愛と、神の戒めに従いたいという心からの望みです。

悔い改めの必要性

主は「清くない者は決して天の王国を受け継ぐことができないと」宣言されました(アルマ11:37)。罪は人を清くない者とし、わたしたちが天の御父のもとに帰り、ともに住むのにふさわしくなくなります。また、罪は現世で人の霊に苦しみをもたらします。

イエス・キリストの贖いを通して、天の御父は人が罪を赦^{ゆる}される唯一の道を準備してくださいました(「赦し」の項、00〔70〕-00〔72〕参照)。イエス・キリストは、人が心からの悔い改めを条件として赦されるように、人に代わって罪の代価を払うために苦しみました。悔い改めてイエス・キリストの救いの恵みに頼るときに、罪から清められます。主はこう宣言しておられます。

「わたしは、悔い改めるようにあなたに命じる。わたしの口の鞭^{むち}に

悔い改め

よって、わたしの憤りによって、またわたしの怒りによって打たれて、つらい苦しみを被ることのないように、悔い改めなさい。これらの苦しみがいかにつらいか、あなたは知らない。いかに激しいか、あなたは知らない。まことに、いかに堪え難いか、あなたは知らない。

見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯^{さかずき}を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。

しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯^{さかずき}を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」（教義と聖約19：15-19）

悔い改めを引き延ばすことの危険性

自分の罪を正当化したり、悔い改めを引き延ばしたりしてはなりません。アミュレクはこう警告しています。「現世は人が神にお会いする用意をする時期である。まことに、現世の生涯は、人が各自の務めを果たす時期である。……最後まで悔い改めの日を引き延ばすことのないように切に勧める。永遠に備えるためにわたしたちに与えられている現世の生涯を終えると、見よ、もしわたしたちが現世にいる間に時間を有益に用いなければ、後から暗闇^{くらやみ}の夜がやって来る。そして、そこでは何の働きもできない。」（アルマ34：32-33）

悔い改めの要素

悔い改めの過程には痛みが伴いますが、結果的には、^{ゆる}救しと永続

する平安を得ることができます。預言者イザヤを通して、主は言われました。「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。^{くれない}紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」（イザヤ1：18）この神権時代においても、主は次のように約束しておられます。「自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」（教義と聖約58：42）悔い改めには次の要素が含まれます。

天の御父とイエス・キリストに対する信仰。罪には強烈な力があります。その力から解放されるためには、天の御父に頼り、信仰をもって祈らなければなりません。サタンはあなたにこう思い込ませようとするかもしれません。「あなたに祈る資格はない、天の御父はあなたにうんざりしておられ、あなたの祈りなど決して聞かれない。」これはうそです。天の御父は悔い改めの気持ちで御自分のもとに来る人をいつでも喜んで助けてくださいます。御父は人を癒^{いや}し、罪に打ち勝つことができるように助ける力をお持ちです。

悔い改めはイエス・キリストに対する信仰を示す行為、イエス・キリストの贖^{あがな}いの力を認める行為です。イエス・キリストの御名によってのみ、赦^{ゆる}しが得られるということを忘れないでください。感謝の気持ちで、イエス・キリストの贖いと、人を罪から清めるイエス・キリストの力を認めるときに、「悔い改めを生じる信仰を働かせ」ることができます（アルマ34：17）。

罪を悲しむ。赦されるためには、まず自分が罪を犯したことを心の中で認めなければなりません。福音に従った生活を送ろうと真剣に努力している人であれば、このように認めることによって「悔いのない救^{すくい}を得させる悔改^{くいあらた}めに導く」「神のみこころに添^{みこころ}うた悲しみ」を感じるようになります（2コリント7：10）。神の御心に添った悲しみは、罪を犯した後の当然の結果として、あるいは罰に対する恐怖感によって生じるものではありません。むしろ、天の御父と救い主を悲しませたことを知って生じるものです。人は、神の御心に添った悲しみを経験すると、変わりたいという心からの望みや赦されるためのあらゆる条件に喜んで従いたいという望みを持ちます。

告白。「その罪を隠す者は榮えることが〔ありません。〕言い表わ

悔い改め

してこれを離れる者は、あわれみをうけ〔ます。〕」（箴言28：13）^{ゆる}赦しに不可欠なのは、天の御父に自分がしてしまったことを、すべて残らず進んで打ち明けるという態度です。御父の前にひざまずいて謙遜^{けんそん}に祈りをささげて、自分の罪を認めてください。自分の恥ずべき行為や罪を告白し、助けを願^{もと}い求めてください。

純潔の律法に対する背^{そむ}きのように、重大な罪を犯すと、会員資格が危うくなることもあります。したがって、このような罪は主ならびに教会において主を代表する人々に告白する必要があります。告白は教会の見張り人、判士として働く監督または支部長、状況によっては、ステーク会長または伝道部長の助けを受けて行います。罪^{ゆる}を赦すことがおできになるのは主だけです。これらの神権指導者は悔い改めの過程で重要な役割を果たします。告白を内密に保ち、悔い改めの全行程を通じて助けてくれます。ですから、彼らに対してはすべてを正直に話してください。小さな過ちだけに触れて、一部だけしか告白しなければ、より重大で、明らかにされていない背きを解決することができなくなります。告白の過程を早く始めれば始めるほど、それだけ赦しの奇跡からもたらされる平安と喜びを見いだすのが早くなります。

罪を捨てる。告白は悔い改めに不可欠な要素ですが、それだけでは不十分です。主はこう言われました。「人が罪を悔い改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち、見よ、彼はそれを告白し、そしてそれを捨てる。」（教義と聖約58：43）

同じ背きは絶対に繰り返さないという強固な意志を生涯にわたって持ち続けてください。このように決心し続けるならば、同じ罪のもたらす苦痛を二度と経験することはないでしょう。

危険な状況から即座に離れてください。ある状況に置かれると罪を犯す、あるいは罪を犯す可能性がある場合には、その場を立ち去ってください。誘惑にさらされたままの状態^{そと}で罪を克服できると考えてはなりません。

償い。ある人の財産であれ、良い評判であれ、自分の行為によって損害を与えたことについてはできるかぎりすべて回復しなければなりません。喜んで償い^{しんぎ}をすることにより、自分は悔い改めるため

にできることをすべて行うという姿勢を主に示すことができます。

義になった生活。悪に打ち負かされないよう努力したり、自分の生活から罪を取り除こうと努力したりするだけでは不十分です。義に満ちた生活を送り、霊的な力をもたらししてくれる活動に参加しなければなりません。聖文の研究に没頭してください。自分の能力を超えた力を頂けるように毎日主に祈ってください。時には、特別な祝福にあずかるために断食してください。

すべてに従順な人の生活には、弱点を克服するためのさらに大きな力を含む福音の完全な力が注がれます。この従順には、例えば、集会への出席、^{じゅうふん} 什分の一を納めること、奉仕、ほかの人々に対する^{ゆる} 赦しなど、悔い改めとは関係ないと最初は思うかもしれない行為も含まれます。主はこう約束しておられます。「悔い改めて主の戒めを守る者は赦されるであろう。」（教義と聖約1：32）

その他の参照聖句——ルカ15：11-32；2ニーファイ9：19-24；モーサヤ4：1-3、10-13；26：30-31；教義と聖約18：10-16

「イエス・キリストの^{あがな}贖い」；「バプテスマ」；「教会宗紀評議会」；「信仰」；「^{ゆる}赦し」；「救いの計画」；「罪」；「誘惑」も参照

国の政府と法律

教義と聖約第134章は末日聖徒の「この世の政府と法律全般に関するわたしたちの所信」を概説しています（教義と聖約134章、前書き）。この章は以下の宣言を含みます。

「わたしたちは信じる。すなわち、政府は人間のために神によって設けられた。そして、神は人々に、政府に関する彼らの行為に対して責任を負わせ、人々は社会の福利と安全のために法律を制定し、施行する責任を負う。……

わたしたちは信じる。すなわち、すべての人は、その固有で不可譲の権利を政府の法律によって保護されているかぎり、自分が住む地のそれぞれの政府を支持し、支える義務を負う。治安妨害や暴動は、このように保護されているすべての国民にとって似つかかわしくなく、それ相応に罰せられなければならない。すべての政府は、公

国の政府と法律

益を保証するために、しかしながら同時に良心の自由を神聖に保ちながら、政府自身の判断で最適と思われる法律を制定する権利を持つ。

わたしたちは信じる。すなわち、すべての人は各々その職において尊ばれるべきである。すなわち、統治者や長官は、罪のない者を保護し、罪のある者を罰するために任じられているので、その職にある者として尊ばれるべきである。また、すべての人は法律を重んじ、尊重すべきである。法律がなければ、平和と協調は無秩序と恐怖に取って代わられるからである。人間の法律は、人と人との間で個人および国民としてわたしたちの諸事を律するという特別な目的のために制定されており、天から与えられた神の律法は、信仰と礼拝のために霊にかかわる諸事に関する規則を定めたものであり、人はその両方について造り主に対して責任を持つのである。」(教義と聖約134:1, 5-6)

教会と政府の分離に関する一つの鍵となる要素は、宗教の自由を与える政府の責任です。末日の預言者は信仰箇条の第11条に記されているこの原則を支持します。「わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての人に同じ特権を認める。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げない。」わたしたちの教会は、教会と政府の分離を支持しており、どのような政党もまたどのような候補者も推薦しません。また、教会の建物や施設を政治的な目的のために用いることを認めません。教会が政治に参加するのは、道徳上の問題が論議的となっている場合だけです。そのような場合、教会はしばしば積極的に意見を述べてきました。

教会は政治的には中立を守りますが、教会の指導者は個々の会員には市民として政治に参加するよう勧めています。末日聖徒として、あなたは自分の住む国における自らの立場を理解しなければなりません。自分の国の歴史と遺産、法律について学んでください。投票や国政参加の機会があったら、真理と正義、自由の原則を支持し擁護することに積極的に関与してください。

その他の参照聖句——教義と聖約98：10；信仰簡条1：12

敬 虔

敬虔^{けいけん}とは深い尊敬や愛を意味します。神に対して敬虔な態度を執る人は、神を敬い、神に感謝を表し、神の戒めに従います。

態度だけでなく行動においても敬虔^{けいけん}になる必要があります。敬虔な行動には、祈り、聖文研究、断食^{じゅうふん}、什分の一とささげ物を納めることが含まれます。また、慎み深い服装をし、清く、健全な言葉遣いをすることも含まれます。どれほど敬虔かは、どのような音楽や娯楽を選択するか、神聖なテーマについてどのような話し方をするか、教会に集い、神殿に参入するときどのような服装をし、どのように行動するかに表れます。主に対する敬虔さは、周囲の人々に奉仕し、思いやりと尊敬の気持ちで接するときに表れます。

敬虔^{けいけん}になるにしたがって、自分の生活が目立たなくとも少しずつ変化していくことに気づくはずです。主はその御霊^{みたま}を以前にも増して豊かに注いでくださるようになります。悩んだり、当惑したりすることが少なくなります。自分や家族の問題を解決するのに助けとなる啓示を受けることができるようになります。

敬虔^{けいけん}によって神が身近になるとまったく同じように、不敬は敵対者の目的を助長します。サタンは、ますます騒音、興奮、論争をあり、ますます自制や静かな威厳を軽視する世の風潮に従うよう人々を誘惑するでしょう。軍事侵略を企てる指揮官のように、わたしたちと主との間の伝達経路を遮断しようとするでしょう。そのような戦術に警戒し、何をするにつけても敬虔な態度を執るように努力しましょう。

その他の参照聖句——レビ26：2；詩篇89：5-7；へブル12：28；教義と聖約59：21；63：61-62，64；109：21

「信仰」；「感謝」；「慎み深さ」；「祈り」；「啓示」；「礼拝」も参照

啓 示

啓示とは神がその子供たちに御心^{みこころ}を示されることです。この導き

啓示

は個人、家族、あるいは教会全体の必要や状況に応じて、様々な方法により与えられます。

主が教会に対してその御心^{みこころ}を明らかにされるときには、預言者を通して語られます。聖文にはそのような啓示、古代と末日の預言者を通して与えられた主の言葉が数多く記されています。今日、主は御自身^{しもべ}の選ばれた僕にその御心^{みこころ}を明らかにされることにより、教会を絶えず導いておられます。

啓示を受けられるのは預言者だけというわけではありません。忠実であれば、特定の必要、責任、疑問に関して助けとなる啓示、また証^{あかし}を強めるのに助けとなる啓示をだれでも受けることができます。

聖霊を通して啓示を受けるための備え

聖文には、示現、夢、天使の訪れなど、様々な種類の啓示について述べられています。そのような方法によって、主は末日に福音を回復し、前世、死者の贖い、3つの栄光の王国といった教義に関する真理を明らかにされました。しかし、指導者や教会員に対する啓示のほとんどは、聖霊のささやきを通して与えられます。

静かな聖霊の促しは、示現や天使の訪れのように劇的なものとは映らないかもしれませんが、実際には、そのようなものよりも影響力や永続性、生活を変える力があるのです。聖霊の証^{あかし}は、目に見え、耳に聞こえるものよりも強烈な印象を人の心に与えます。そのような啓示を通して、人は絶えず福音に従い、ほかの人々が同様のことを行えるように助ける永続的な力を受けることができます。

次の助言は聖霊の導きを受けられるように自らを備えるうえで役に立つでしょう。

導きを求めて祈る。主はこうおっしゃいました。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。」(マタイ7:7-8) 答えを見だし、受けるには、尋ね求めなければなりません。ドアをたたかなければ、つまり、天の御父に導

きを求めて祈らなければ、啓示というドアは開かれないのです。しかし、謙遜な祈りを通して天の御父に近づくならば、最終的には「啓示の上に啓示を、知識の上に知識を受けて、数々の奥義と平和をもたらし事柄、すなわち喜びをもたらし永遠の命をもたらしものを知ることができるようになる」でしょう（教義と聖約42：61）。

敬虔になる。敬虔とは深い尊敬や愛を意味します。敬虔で穏やかな人は啓示を招き入れることができます。周囲の至る所に混乱が見られても、敬虔な態度で、主の導きを受けられるように備えることができます。

謙遜になる。謙遜は敬虔と密接な関係があります。謙遜な人は、自分が主に依存していることを認めます。預言者モルモンはこのように教えています。「柔和で心のへりくだった状態であれば聖霊の訪れがある。この慰め主は、希望と完全な愛を人の心に満たされる。」（モロナイ8：26）

戒めを守る。戒めを守ることによって、聖霊の導きを受け入れ、認識し、それに従う備えができます。主はこう約束しておられます。「わたしの戒めを守る者に、わたしは、わたしの王国の奥義を与えよう。それは彼の内で生ける水の井戸となり、そこから永遠の命に至る水がわき出るであろう。」（教義と聖約63：23）

ふさわしい状態で聖餐を受ける。聖餐の祈りは、常に聖霊を伴侶とするにはどうすればよいかわせてくれます。聖餐を受けるときに、わたしたちは進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを神に証明します。天の御父は、これらの聖約を守るときに、いつも御霊がともにあることを約束しておられます（教義と聖約20：77、79参照）。

聖文を毎日研究する。熱心に聖文を研究すると、主の明らかにされた御心に従うことにより祝福された生活を送った人々の模範から学ぶことになります。また、自分自身の生活で聖霊を感じる力が増します。聖文を読んで深く考えると、ある聖文の一節が自分自身の生活にどのように適用されるのか、あるいは、ほかの何であれ、主が自分に伝えたいと思っておられることについて啓示を受けることができます。聖文を読むことによって個人的な啓示を受けやすくな

啓示

るので、毎日聖文を研究する必要があります。

深く考えるために時間を取る。福音の真理について深く考える時間を取るにより、思いと心が開かれ、導きをお与えになる聖霊の影響を受けやすくなります（1ニーファイ11：1；教義と聖約76：19；138：1-11参照）。深く考えることにより、思いがこの世のささ^{みたま}いな事柄から離れ、御霊を身近に感じられるようになります。

特定の導きを求めるときには、心の中でそれをよく思い計る。時として、主の答えは心の中でよく思い計った後でしか与えられないことがあります。主はこの過程について、モルモン書の翻訳のかなりの部分に関してジョセフ・スミスの筆記者として働いたオリバー・カウドリに説明されました。預言者ジョセフ・スミスを通して、主はオリバー・カウドリに語り、彼が翻訳の賜物^{たまもの}を与えられてはいたものの翻訳することができなかった理由について説明されました。「見よ、あなたは理解していなかった。あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」（教義と聖約9：7-8）

忍耐強く神の御心^{みこころ}を求める。神は「神自身の時に、神自身の方法で、神自身の思いに従って」御自身を現されます（教義と聖約88：63-68参照）。啓示は、ほとんどの場合、「ここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加え」という形で与えられます（2ニーファイ28：30。イザヤ28：10；教義と聖約98：12も参照）。霊的な事柄を強要しないようにしてください。啓示はそのような方法では与えられないからです。忍耐強く待ち、主の時に信頼を置いてください。

聖霊の導きを認識する

現代の世の中で耳にする様々な騒音とメッセージの中から、聖霊

のささやきを聞き分けられるようにならなければなりません。聖霊がわたしたちに語りかけられるおもな方法を幾つか紹介します。

聖霊は静かな細い声でわたしたちの思いと心に語りかけられる。主は次のように教えておられます。「まことに見よ、あなたに降^{くだ}ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。さて見よ、これは啓示の霊である。」(教義と聖約8：2-3) 聖霊は時として、ある福音の真理を理解できるように助けてくださったり、「〔あなた〕の心を占め、〔あなた〕の気持ちに最も重くのしかかっている」事柄への導きを与えてくださったりすることがあります(教義と聖約128：1)。そのような啓示には大きな影響力がありますが、ほとんどすべての啓示は「静かな細い声」の形を取って静かに与えられます(列王上19：9-12；ヒラマン5：30；教義と聖約85：6参照)。

聖霊はわたしたちの感情を通して導きをお与えになる。わたしたちは御^み霊の語りかけを声という言葉で表現しますが、この声は耳に聞こえるものというよりはむしろ心で感じるものです。また聖霊のささやきに「耳を傾ける」という言い方をする一方で、霊的な導きを表現するのに、「……ような気がしました」と表現することがよくあります。この原則については、00(143)ページで触れましたが、教義と聖約第9章に記されたオリバー・カウドリに対する主の勧告で教えられています。しかし、時として、この勧告は誤解されることがあります。この一節を読むと、勘違いをして、自分は胸が燃えるのを感じたことが一度もないので、聖霊の導きを一度も受けたことがないのではないかと心配する人がいるのです。教義と聖約第9章8節の最後の言葉に注意してください。「それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」この聖句で「燃やそう」と表現されているのは、慰めと平安に満ちた気持ちを感じさせるという意味であって、必ずしも物理的に熱を感じさせるという意味ではないのです。日々の生活の中で主の御^{みこころ}心を求め、主の御心に従おうと絶えず努力するとき、聖霊が自分という一人の人間にどのように影響を与えてくださるのか分かってくるはずです。

聖霊は平安をもたらしてくださる。聖霊はよく慰め主と呼ばれま

結婚

す（ヨハネ14：26；教義と聖約39：6参照）。聖霊は主の御心^{みこころ}を明らかにするときに、「心に平安を告げ」てくださいます（教義と聖約6：23）。聖霊のお与えになる平安は、この世の影響力や偽りの教えで偽造することができません。それは救い主が必ず慰め主を送ると弟子たちに断言されたときに約束された平安です。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」（ヨハネ14：27）。

その他の参照聖句——アモス3：7；マタイ16：13-18；1コリント2：9-14；12：3；黙示19：10；アルマ5：43-48；17：2-3；教義と聖約76：5-10；121：26-33；信仰箇条1：7，9

「信仰」；「聖霊」；「祈り」；「敬虔^{けいけん}」；「聖文」；「霊的な賜物^{たまもの}」も参照

結 婚

^{こんにち}今日の世界には、結婚と家族の重要性を否定し、挙げ句の果ては嘲笑^{ちやうしょう}するといった人々が大勢います。そのような混乱と破壊をもたらす声が渦巻く中で、大管長会と十二使徒定員会は首尾一貫して真理を告げる声を上げています。彼らは「男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。」（「家族——世界への宣言」本書00（59）参照）

人生最大の喜びは家族に見いだすことができます。強い家族関係を築くには努力が必要です。しかし、その努力はこの現世だけでなく永遠にまで素晴らしい幸福をもたらしてくれます。たとえ過去においては幸福な家族生活に恵まれなかったとしても、幸福で永遠に続く結婚や愛にあふれる家族関係を築こうと努力することができます。

結婚の新しくかつ永遠の聖約

天の御父の幸福の計画で、夫婦はお互いにこの世から永遠にわたって結び固められます。神殿で結び固めを受けた夫婦は、自分たち

が交わした聖約に忠実であるならば、永遠に続く家族関係を確信することができます。そのような夫婦は何ものも、たとえ死であっても、永遠にわたって二人を分かち合えることはできないということを知っています。

永遠の結婚の聖約は昇栄に必要なものです。主はジョセフ・スミスを通して次のような真理を明らかにされました。「日の栄えの栄光には、3つの天、すなわち3つの階級がある。その最高の階級を得るためには、人はこの神権の位（すなわち、結婚の新しくかつ永遠の聖約）に入らなければならない。そうしなければ、その人はそれを得ることができない。その人は他の階級に入ることはできるが、それは彼の王国の終わりであって、その人は増し加えることができないのである。」（教義と聖約131：1-4）

神殿で結び固めの儀式を受け、神聖な聖約を交わした夫婦が、永遠の結婚と昇栄の祝福にあずかるためには、最後まで忠実でなければなりません。主はこのように語られました。

「もしある男がわたしの律法であるわたしの言葉によって、また新しくかつ永遠の聖約によって妻をめとり、そしてそれが、わたしからこの力とこの神権の鍵^{かぎ}とを与えられた油注がれた者によって、約束の聖なる御霊^{みたま}により彼らに結び固められ……あなたがたがわたしの聖約の中にとどま〔るならば〕……わたしの僕が彼らに授けたすべての事柄は何であろうと、この世においても永遠にわたっても、彼らに行われ、彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力があるであろう。」（教義と聖約132：19。「約束の聖なる御霊」についての説明は、00（82）参照）

結婚への備え

独身者の場合、慎重に結婚の備えをしてください。神殿結婚に取って代わることでできるものはないことを忘れないでください。ふさわしいときに、ふさわしい場所で、ふさわしい人と結婚できるよう準備してください。自分が結婚したいと願う人にふさわしい生活を今から始めてください。

結婚

標準が高く、一緒にいるときに自分自身も高い標準を維持できるような人とだけデートをしてください。二人だけになってほかに何もすることがないということがないように、前向きで建設的な活動を慎重に計画してください。自分を容易にコントロールできる安全な場所にとどまってください。性的な感情に火をつけるような会話や活動に加わらないでください。

自分と信仰が同じ相手を探してください。いつも尊敬できるような人、自分の足りない部分を補ってくれるような人を探してください。結婚する前に、見つけた相手が心の底から思いを寄せ、愛し、忠誠と忠実を尽くすことのできる人かどうかを確かめてください。

結婚していない人への助言

自分には何の落ち度もなく、結婚の望みがあるにもかかわらず、独身の教会員がいます。このような境遇に置かれている人は、神が「神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となる」ようにしてくださることに確信を持ってください（ローマ8：28）。常にふさわしくあるならば、いつの日か、現世にあってか、来世にあってか、永遠の家族関係によってもたらされるすべての祝福にあずかることができます。主は主に召された末日の預言者を通じて何度もこの約束をしておられます。

独身であって結婚の望みがある人は、希望を捨てないでください。それと同時に、自分の目標にばかり気を取られることなく、価値ある活動に熱心に携わってください。親戚や地域社会のために奉仕する方法を見つけてください。教会の召しを尊んで大いなるものとしてください。肉体的、霊的に、いつも清くあってください。個人として、学び、成長し、進歩し続けてください。

幸福な結婚生活を築く

既婚者の場合、夫婦間の友情と愛はこの地上で最も大切にすべき関係だということを忘れないでください。自分の伴侶以外で心を尽くして愛するように命じられているのは主だけです（教義と聖約

42：22参照)。

結婚は、文字どおり真の意味で、対等の協力関係であり、一方が他方に支配権を振るうのではなく、互いに励まし合い、慰め合い、助け合う関係です。

結婚は人生できわめて大切な関係です。そのような関係を築き上げるには時間が必要であり、時間をかけるべき価値があります。それほど大切ではない事柄を優先しないようにしてください。時間を取ってともに話し合い、お互いの話に耳を傾けてください。尊敬の念をもって思いやり深くあってください。優しさと愛情を度々示してください。

二人の結婚生活を妨げるようなことが自分と伴侶^{はんりょ}との間に割り込むことのないようにしよう^{しよう}と決心してください。様々な試練に見舞われても結婚を実りあるものにしよう^{しよう}と決意してください。

互いに忠実であってください。思い、言葉、行いにおいて自分が交わした結婚の聖約を守ってください。主が次のように言われたことを忘れないでください。「あなたは心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。」(教義と聖約42：22)「その他のものと結び合ってはならない」という聖句は、いかなる人、いかなる活動、あるいはいかなる所有物も自分と伴侶^{はんりょ}との関係より優先してはならないということを教えています。

どのような形であれ、伴侶^{はんりょ}以外のものに心を向けさせるようなものからは遠ざかってください。ボルノグラフィー、不健全な空想、浮ついた心は品位をむしろ、結婚生活の土台を破壊します。

夫婦と一緒に財政管理を行ってください。予算を立て、立てた予算の枠内で生活できるように協力し合ってください。無駄な出費をしないように自分を訓練し、負債のもとらす束縛を避けてください。賢い金銭管理と負債からの自由は家庭に平安をもたらします。

イエス・キリストの福音を中心とする生活を送ってください。自分たちが交わした聖約を守れるように互いに助け合ってください。一緒に教会に出席し神殿に参入してください。一緒に聖文を研究してください。毎日一日の始めと終わりに一緒にひざまずいて祈り、

献金

^{はんりょ}伴侶が与えられていることを天の御父に感謝してください。夫婦が一つとなって、自分たちの生活、家庭、愛する人々を祝福し、義にかなった望みをかなえてくださるよう御父に祈り求めてください。そうするときに、神は二人を導いてくださいます。また、御父と交わす日々の会話を通してどこからも得られない平安と喜びを感じることができます。夫婦関係は年とともに改善され、愛は深まります。互いに対する感謝の思いは深くなります。

その他の参照聖句——創世1：27-28；2：18，21-24；1コリント11：11；エペソ5：22-33；モーセ2：27-28；3：18，21-24

「純潔」；「離婚」；「家族」；「神殿」；「一致」も参照

献 金（「断食と断食のささげ物」；「^{じゅうぶん}什分の一」参照）

原 罪

アダムとエバの墮落によって、すべての人は墮落した状態になり、神から引き離され、肉体の死に支配される状態で生活するようになりました。しかし、わたしたちは、いわゆる「原罪」と呼ばれるものによって罪の宣告を受けているわけではありません。言い換えれば、エデンの園でのアダムの背きに対してわたしたちには責任がないのです。預言者ジョセフ・スミスはこのように語っています。「わたしたちは、人は自分の罪のゆえに罰せられ、アダムの背きのゆえには罰せられないことを信じる。」（信仰簡条1：2）

^{あがな}贖いを通して、救い主はエデンの園での背きに対する代価を支払われました（モーセ6：53参照）。わたしたちに復活の保証を、そして忠実であれば天の御父のもとへ帰り、永遠に御父の前に住むことができるという約束を与えてくださいました。

「墮落」も参照

けん 謙 **そん 遜**

^{けんそん}謙遜とは、自分が主に頼らなければならないことを、感謝の思いをもって認めること、すなわち自分が常に主の支えを必要としている

ることを理解することです。謙遜とは、自分の才能や能力が神から与えられた賜物であることを認めることです。それは弱さ、臆病、恐れを表すものではなく、真の力の源がどこにあるかを自分が知っているということを示すものです。謙遜でありながら恐れを知らない者となることができます。謙遜でありながら勇敢な者となることができます。

イエス・キリストは最も偉大な謙遜の模範です。この世で教導の業に携わっていたとき、イエス・キリストは、御自身の力が御父に頼ることで得られるものであることを常に認めておられました。イエス・キリストはこう語っておられます。「わたしは、自分から何事もすることができない。……わたし自身の考えでするのではなく、わたしをつかわされたかたの、み^おを求めているからである。」（ヨハネ5：30）

主は御自分の前にへりくだる人を強めてくださいます。ヤコブは次のように教えています。『「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う。」……主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。」（ヤコブの手紙4：6，10）

その他の参照聖句——マタイ18：4；23：12；26：39；ルカ22：42；1ペテロ5：5-6；モーサヤ4：11-12；15：6-7；アルマ5：27-28；ヒラマン3：33-35；エテル12：27；教義と聖約12：8；67：10；112：10；136：32-33

高価な真珠（「聖文」参照）

幸福

神の「永遠の目的」について証し^{あかし}、預言者リーハイはこう教えました。「人が存在するのは喜びを得るためである。」（2ニーファイ2：15，25）

天の御父はわたしたちが永続的な真の幸福を見いだせるようにと望んでおられます。福音の教え、戒め、神権の儀式、家族関係、預言者、神殿、美しい創造物、さらには逆境を経験する機会もそうですが、御父のお与えになる祝福はすべてわたしたちの幸福を目的としています。わたしたちに救いを得させる御父の計画は、しばしば

コーヒー

「偉大な幸福の計画」と呼ばれます（アルマ42：8）。御父は^{あがな}贖いの業を成就するために愛する御子を遣わされました。それはわたしたちが現世で幸福になり、永遠の世界で満ちみちる喜びを受けることができるようになるためです。

多くの人々は幸福と充実感を主の戒めに反する活動の中に見いだそうとします。彼らは自分たちのために立てられた神の計画を無視し、真の幸福をもたらす唯一の源泉を拒み、「自分のように惨めになることを求めている」悪魔に屈します（2ニーファイ2：27）。そして最終的にはアルマがその息子コリアントンに与えた警告が真実であることを悟るのです。「悪事は決して幸福を生じることがない。」（アルマ41：10）

楽しい人生を送りたいだけの人々もいます。このような目標を第1にする人々は、一時的な快樂に気を取られて永続的な幸福に注意が向かなくなります。霊的成長、奉仕、勤勉からもたらされる尽きることのない喜びを、自ら奪い取ってしまうのです。

幸福になろうと努力するときに、真の幸福に至る唯一の道は福音に従った生活を送ることだということを覚えておいてください。戒めを守り、強くなれるよう祈り求め、罪を悔い改め、健全な活動に参加し、有意義な奉仕を行おうと努力するときに、安らかで永遠に続く幸福を見いだすことでしょう。愛ある天の御父が定められた境界を越えることなく楽しい時間を過ごすことができるようになるでしょう。

幸福には周囲の人も幸せにする力があります。ほかの人々も、あなたを観察するうちに、あなたの喜びの源が何なのか知りたいと思うかもしれません。それが分かれば、彼らもイエス・キリストの福音に従った生活を送ることから得られる幸福を経験できるのです。

その他の参照聖句——詩篇35：9；2ニーファイ5：27；モーサヤ2：41；3ニーファイ17：18-20；4ニーファイ1：15-16；教義と聖約18：10-16

「伝道活動」；「救いの計画」；「奉仕」も参照

コーヒー（「知恵の言葉」参照）

個人の啓示（「啓示」参照）

祭 司（「アロン神権」；「教会の管理」；「神権」参照）

サタン

敵対者あるいは悪魔とも呼ばれるサタンは、義の敵であり、また神に従おうと努める人々の敵です。サタンはかつては「神の前で権威を持っていた」天使であった、神の霊の息子です（教義と聖約76：25。イザヤ14：12；教義と聖約76：26-27も参照）。しかし、前世での天上の会議で、サタン、当時の呼び方をすればルシフェルは、天の御父と救いの計画に対して反乱を起こしました。神に対するこの反乱で、サタンは「人の選択の自由を損なおうとし」ました（モーセ4：3）。そして、こう言いました。「わたしは全人類^{あがな}を贖って、一人も失われないようにしましょう。必ずわたしはそうします。ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。」（モーセ4：1）

サタンは「天の衆群の3分の1」を説きつけ、御父に背かせました（教義と聖約29：36）。この反乱の結果、サタンとサタンに従った霊は神のもとから絶たれ、肉体を受ける祝福を失いました（黙示12：9参照）。また栄光の王国を受け継ぐ機会もすべて失いました。

天の御父は、現世の経験の一部として、サタンとサタンに従う霊がわたしたちを誘惑するのを許しておられます（2ニーファイ2：11-14；教義と聖約29：39参照）。サタンは「すべての人が自分のように惨めになることを求めている」ので（2ニーファイ2：27）、自分に従う霊とともに人を義から引き離そうとします。サタンは天の御父の幸福の計画の中でも最も大切な部分に対して、最も激しい攻撃を加えてきます。例えば、救い主と神権の権威を失墜させ、贖いの効力に疑いを投げかけ、啓示を偽造し、真理から目をそらさせ、個人の責任を否定しようとし、サタンは家族を弱体化させるために、性差を混乱させ、婚外交渉を奨励し、結婚をあざけり、本来であれば子供を義にかなって育てるはずの既婚成人に育児を思いとどまらせようとし、

サタンの誘惑に屈服する必要はありません。わたしたちには心の

産児制限

中に善悪を識別する力があり、祈りを通して常に主の助けを願い求めることができます（「誘惑」の項，00〔174〕－00〔176〕参照）。

その他の参照聖句——イザヤ14：12－17；1ニーファイ15：23－24；2ニーファイ2：16－18；モロナイ7：12；教義と聖約10：5；29：36－40，46－47；76：25－29

「選択の自由」；「罪」；「誘惑」も参照

産児制限

結婚している夫婦は、肉体的に能力があれば、天の御父の霊の子供たちに死すべき体をもたらす特権に恵まれます。夫婦は偉大な幸福の計画の中で一つの役割を果たします。神の子供たちに肉体を得て、現世での生活を経験させるという役割です。

あなたが結婚しているのであれば、この世に子供を招き、義にかなった形で彼らを養い育てる神聖な責任について伴侶とともに話し合うべきです。そうするときに、命の尊厳と意味について考えてください。子供のいる家庭にもたらされる喜びについて深く考えてください。義にかなった子孫に恵まれることからもちたされる永遠の祝福について考えてください。これらの原則に対して証を持つときに、あなたは伴侶とともに子供を何人もうけるか、いつもうけるかを祈りの気持ちで決定する備えができます。そのような決定はあなたが二人と主との間で下すべきものです。

このような神聖な事柄について話し合うときに、神は結婚生活の中での性的な関係を認めておられるということを忘れないでください。これらの関係が目的とすることの一つは、神の子供たちに肉体を提供するということであり、もう一つは互いに対する愛を表現し合うということ、忠実、貞潔、配慮、共通の目的といった点に関し夫と妻を一つに結び合わせることです。

死（肉体の）

肉体の死とは死すべき肉体から霊が分離することです。アダムの墮落によって肉体の死がこの世にもたらされました（モーセ6：48参

照）。

死は天の御父の救いの計画に不可欠な要素です（2ニーファイ9：6 参照）。永遠の御父のようになるために、わたしたちは死を経験し、その後で完全な復活体を受けなければなりません。

肉体が減んでも、霊は生き続けます。霊界で、義人の霊は「パラダイスと呼ばれる幸福な状態、すなわち安息の状態、平安な状態に迎え入れられ、彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる不安と憂いを離れて休〔みます。〕」（アルマ40：12）霊の獄と呼ばれる場所は「真理を知らずに罪のうちに死んだ者や、預言者たちを拒んで背きのうちに死んだ者」のために取っておかれます（教義と聖約138：32）。霊の獄にいる霊たちは「神を信じる信仰、罪の悔い改め、罪の赦しのための身代わりのバプテスマ、^{あんしゆ}按手による^{たまもの}聖霊の賜物について教えを受け……知っておく必要のある、福音のすべての原則が教えられ〔まし〕た。」（教義と聖約138：33-34）福音の原則を受け入れ、罪を悔い改め、神殿で行われる身代わりの儀式を受け入れるならば、パラダイスに来ることを^{あがな}歓迎されます。

イエス・キリストの贖いと復活によって、肉体の死は一時的なものとなりました。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」（1コリント15：22）すべての人が復活します。つまりすべての人の霊が肉体と再結合され、「本来の完全な造りに回復され〔て、〕」もはや死ぬことはあり得ないということです（アルマ40：23。アルマ11：44-45も参照）。

家族の一員や友人の死に伴う苦痛を恐らくあなたも経験したことがあるでしょう。そのようなときに悲しみを感じるのは自然なことです。実際、人の死に直面したときに感じる悲しみは最も深い愛の表現方法の一つなのです。主はこうおっしゃいました。「死ぬ者を失うことで涙を流すほどに……ともに愛をもって生活するようにしなければならない。」（教義と聖約42：45）もし、人の死に際して悲しみを感じなくなったら、人生において愛を感じることもできなくなるでしょう。

愛する人の死に直面して嘆き悲しむときですら、復活の約束と、

死（霊の）

家族が永遠にともにいられることに対する確信に慰めを見いだすことができます。わたしたちは、「悲しみの大きな原因と喜びの大きな原因についても分か〔ります〕。悲しみは人々の中の死と滅亡のために生じ、喜びは命に至るキリストの光のために生じるので〔す〕。」（アルマ28：14。9-13節も参照）

愛する人が亡くなったときに慰めを受けるだけでなく、自分自身もゆくゆくは死ぬという知識に平安を感じることができます。福音に従った生活を送るときに、主の約束を思い出すことができます。「わたしにあって死ぬ者は死を味わわないであろう。死は彼らにとって甘いからである。」（教義と聖約42：46）

その他の参照聖句——イザヤ25：8；1コリント15：51-58；2ニーファイ9：6-15；モーサヤ16：6-8

「イエス・キリストの贖い」^{あがな}；「パラダイス」；「救いの計画」；「復活」も参照

死（霊の）

霊の死とは神から離れることを意味します。聖文には霊の死の原因が二つ記されています。一つは墮落であり、もう一つはわたしたち自身の不従順です。

モルモン書の預言者サムエルはこう教えています。「全人類は、アダムが墮落したことによって主の御前^{みまへ}から絶たれているので、現世の事柄に関しても霊的な事柄に関しても、ともに死んだと考えられているからである。」（ヒラマン14：16）この地上で、わたしたちは神のもとから離れて生活します。贖罪^{しよくざい}を通して、イエス・キリストは全人類を霊の死から贖われ^{あがな}ます。サムエルは、救い主の復活は「第一の死、すなわちあの霊の死から全人類を贖〔い、〕……キリストの復活は人類、まことに全人類を贖って主の御前に連れ戻す」と証^{あかし}しました（ヒラマン14：16-17）。預言者リーハイは、贖罪のゆえに「人は皆、神のみもと^{きよ}に来る。そのため、彼らは神の御前に立ち、神の内にある真理と聖さによって裁かれる」と教えています（2ニーファイ2：10）。

もう一つの霊の死はわたしたち自身の不従順の結果としてもたられます。わたしたちは罪のために汚れ、神のもとに住むことができなくなっています（ローマ3：23；アルマ12：12-16、32；ヒラマン14：18；モーセ6：57参照）。イエス・キリストは贖罪しよくざいを通してこの霊の死からわたしたちを贖あがなってくださいますが、それはわたしたちがイエス・キリストに対する信仰を行使し、罪を悔い改め、福音の原則と儀式に従うことを条件としています（アルマ13：27-30；ヒラマン14：19；信仰箇条1：3参照）。

その他の参照聖句——1ニーファイ15：33-35；アルマ40：26；42：23

「イエス・キリストの贖あがない」；「信仰」；「墮落」；「従順」；「悔い改め」；「罪」も参照

慈 愛

慈愛は「キリストの純粋な愛」あるいは「永遠の愛」です（モロナイ7：47；8：17）。預言者モルモンは次のように教えています。「慈愛は長く堪え忍び、親切であり、ねたまず、誇らず、自分の利益を求めず、容易に怒らず、悪事を少しも考えず、罪惡を喜ばないで真実を喜び、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」（モロナイ7：45。1コリント13：4-7も参照）

イエス・キリストは慈愛の完全な模範を示してくださいました。地上で教え導いておられたとき、イエス・キリストはいつも、福音を教え、貧しい人、苦しんでいる人、落胆している人に心からの哀れみを示し、「よい働きをしながら……巡回されました。」（マタイ4：23；マルコ6：6；使徒10：38参照）イエス・キリストの示された慈愛の頂点を成すのは、その無限の贖あがないです。主は言われました。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」（ヨハネ15：13）それは他に類を見ない忍耐と思いやり、無私の行為でした。尽きることのない救い主の愛を理解すれば、主が罪を赦し、福音に従った生活を送ろうと努力している人を強めてくださることに確信が持て、その結果、信仰を行使して自分の罪を悔い改めることができます。

慈愛

救い主は御自身の愛をあなたに受けてほしいと望んでおられます。またその愛を周囲の人々と分かち合っていてほしいと望んでおられます。救い主は弟子たちにこう宣言されました。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13：34-35) 家族や周囲の人々との関係において、救い主を模範としてください。救い主が愛されたように尽きることのない思いやりと忍耐、そして憐れみ^{あわ}を胸に、愛そうと努力してください。

救い主の完全な愛を絶えず受け、キリストのような愛をほかの人々に示すときに、あなたは自分の愛が深くなっていくのに気づくことでしょう。主に仕える喜びを経験することでしょう。聖霊は常にあなたの伴侶^{はんりょ}となり、奉仕の業においても周囲の人々との関係においても導いてくださることでしょう。裁きの日に主に会う備えができ、主の業にどれほど熱心だったかに応じて主から報いを受けることでしょう。モルモンは次のように教えています。

「もしあなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは何の価値もない。慈愛はいつまでも絶えることがないからである。したがって、最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。すべてのものは必ず絶えてしまうからである。

しかし、この慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。

したがって、わたしの愛する同胞^{ほらから}よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となれるように、熱意を込めて御父に祈りなさい。また、御子が御自身を現されるときに、わたしたちはありのままの御姿^{みすがた}の御子にまみえるので、御子に似た者となれるように、またわたしたちがこの希望を持てるように、さらにわたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モルモン7：46-48)

その他の参照聖句——マタイ25：31-46；1ヨハネ4：18；エテル12：33-34；教義と聖約12：8；34：3；121：45

「愛」；「奉仕」も参照

シオン

教義と聖約には、主が聖徒に次のように命じられた聖文が数多く記されています。「シオンの大義を起こして確立するように努めなさい。」（教義と聖約6：6。教義と聖約11：6；12：6；14：6も参照）

「シオン」という言葉には、聖文の中で様々な意味があります。この言葉の最も一般的な定義は「心の清い者」です（教義と聖約97：21）。「シオン」はしばしばこのような意味で用いられ、主の民、あるいは教会やステークを指します（教義と聖約82：14参照）。

この神権時代の初期に、教会の指導者は中心地に移り住むことによってシオンを建設するようにと会員たちに勧告しました。^{こんにち}今日の指導者は、どこであれ、自分たちの住んでいる所にシオンを建設するよう勧告しています。教会の会員は、母国に残り、そこで教会を確立するように勧められているのです。現在、多くの神殿が建設されているのは、全世界の末日聖徒が神殿の祝福を受けられるようにするためです。

「シオン」という言葉が以下のような具体的な地理上の場所を指すこともあります。

⌚ エノクの町（モーセ7：18-21参照）。

⌚ 古代のエルサレムの町（サムエル下5：6-7；列王上8：1；列王下9：28参照）。

⌚ ミズーリ州ジャクソン群に建てられる新エルサレム（教義と聖約45：66-67；57：1-3；信仰簡条1：10参照）。

その他の参照聖句——イザヤ2：2-3；1ニーファイ13：37；教義と聖約35：24；39：13；45：68-71；59：3-4；64：41-43；90：36-37；97：18-28；101：16-18；105：5；115：5-6；136：31

地獄

地 獄

末日の啓示では、地獄という言葉は少なくとも二つの意味で用いられています。一つは、霊の獄、すなわち「真理を知らずに罪のうちに死んだ者や、預言者たちを拒んで背きのうちに死んだ」者が行く死後の世界（教義と聖約138：32）、霊界にある一つの場所を指します。これは霊たちが福音を教えられ、悔い改め、神殿で彼らに代わって行われる救いの儀式を受け入れる機会にあずかる一時的な状態です（教義と聖約138：30－35参照）。福音を受け入れた霊たちは復活の時までパラダイスに住むことができます。復活し裁きを受けた霊たちは、自分にふさわしい栄光の階級を受けることになります。悔い改めないながらも、滅びの子とはならない者は、福千年が終わるまで霊の獄にとどまります。そして福千年後、彼らは地獄と罰から解放され星の栄えの栄光に復活します（教義と聖約76：81－85参照）。

もう一つの「地獄」という言葉は、外の暗闇^{くらやみ}を指すのに用いられます。ここは悪魔とその使い、ならびに滅びの子が住む場所です（教義と聖約29：36－38；76：28－33参照）。滅びの子については「この世でも来るべき世でも救^{ゆる}されることはない……聖なる御霊^{みたま}を受けた後にそれを否定したため、また御父の独り子を否定したため、また独り子を自ら十字架につけて公に辱めたためである」と記されています（教義と聖約76：34－35。31－33、36－37も参照）。そのような人たちは、いかなる栄光の王国も受け継ぎません。彼らはいつまでも地獄の状態にとどまります（教義と聖約76：38；88：24，32参照）。

「栄光の王国」；「サタン」も参照

七十人（「教会の管理」参照）

七十人定員会（「教会の管理」参照）

私 通（「純潔」参照）

十 戒

十戒はわたしたちの昇栄に必要な永遠の福音の原則です。主は古代においてこれらの戒めをモーセに明らかにされ（出エジプト20：1－17参照）、末日の啓示でも繰り返されました（教義と聖約42：18－29；59：5－13；63：61－62参照）。十戒は福音の核心です。これらの戒めに従うことにより、ほかの福音の原則に従う備えができます。

十戒に関する以下の概説には、これらの戒めを、^{こんにち}今日の生活に応用する方法について簡単な説明が述べられています。

1. 「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。」（出エジプト20：3）わたしたちは「神の栄光にひたすら目を向けてすべてのことを」なすべきです（教義と聖約82：19）。また、心を尽くし、勢力と思いと力を尽くして主を愛し、主に仕えるべきです（申命6：5；教義と聖約59：5参照）。
2. 「あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。」（出エジプト20：4）この戒めで、主は偶像礼拝を非難しておられます。偶像は様々な形を取って現れます。刻まれた像に頭を垂れてはいないかもしれませんが、その代わりに、生ける神を金銭、世俗的な所有物、思想、あるいは名声といった偶像に置き換えている人々がいます。そのような人々の生活では、「富が彼らの神となって」おり、それらの神は「彼らとともに滅びるので」す（2ニーファイ9：30）。
3. 「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。」（出エジプト20：7）この戒めの説明に関しては、「不敬」の項、00〔128〕－00〔129〕を参照してください。
4. 「安息日^{にち}を覚えて、これを聖とせよ。」（出エジプト20：8）この戒めの説明に関しては、「安息日」の項、00〔145〕－00〔147〕を参照してください。
5. 「あなたの父と母を敬え。」（出エジプト20：12）この戒めは成人になっても有効です。わたしたちは常に両親を敬う方法に

十戒

ついて模索すべきです。

6. 「あなたは殺してはならない。」（出エジプト20：13）戦争に行くよう求められた人々にこの戒めがどのように応用されるかの説明に関しては、「戦争」の項，00〔183〕－00〔184〕を参照してください。
7. 「あなたは姦淫^{かんいん}してはならない。」（出エジプト20：14）末日の啓示の中で、主は姦淫だけでなく、「これに類すること」も非難しておられます（教義と聖約59：6）。私通，同性愛，そのほかの性的な罪は，第7番目の戒めに対する違背です。追加の説明に関しては、「純潔」の項，00〔29〕－00〔33〕を参照してください。
8. 「あなたは盗んではならない。」（出エジプト20：15）盗みは一種の不正直です。正直の説明に関しては，00〔84〕ページを参照してください。
9. 「あなたは隣人について，偽証してはならない。」（出エジプト20：16）偽証は形を変えた不正直です。正直の説明に関しては，00〔84〕ページを参照してください。
10. 「あなたは……むさぼってはならない。」（出エジプト20：17）むさぼり，あるいは他人の所有物に対する嫉妬^{しつと}はわたしたちの霊を傷つけます。むさぼりの気持ちがあると，わたしたちの思いは破壊され，絶え間ない不幸と不満に悩まされます。しばしばそのほかの罪や財政的負債の原因となります。

十戒のほとんどはわたしたちがすべきでないことを列挙していますが，すべきことも記されています。救い主は十戒を二つの原則で要約されました。主に対する愛と同胞^{ほらから}に対する愛です。

『心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な，第一のいましめである。

第二もこれと同様である，『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』（マタイ22：37－39）

その他の参照聖句——モーサヤ12：33-36；13：11-24

「選択の自由」；「純潔」；「正直」；「従順」；「不敬」；「敬虔^{けいけん}」；「安息日」；「戦争」；「礼拝」も参照

執 事（「アロン神権」；「神権」参照）

使 徒（「教会の管理」；「預言者」参照）

借 金

預言者ジョセフ・スミスを通して、主はかつて聖徒の一団に次のように命じられました。「わたしの思いは、あなたがたがすべての負債を返済することである。」（教義と聖約104：78）教会初期の時代から、主の預言者はわたしたちに繰り返し借金の束縛から逃れるようにと警告しています。

借金に伴う大きな危険性の一つは借金に付いてまわる利子です。クレジットカードのようなある種のローンは特に金利が高くなります。いったん借金をすると、利子には慈悲のひとかけりもないことに気づきます。借り手の状況など容赦せず、職があってもなくても、健康であっても病気でであっても利子は増え続けます。借金を完済するまで、利子がなくなることは決してありません。低い金利、あるいはある一定期間の無利子を約束され、ローンが魅力的に思われたとしても、ローン提供者の口車に乗らないようにしてください。

自分の財政状態に注意を払ってください。買い物をする際に自分自身を訓練し、自己返済能力を超えた借金は避けてください。ほとんどの場合、自分の所有するものを賢明に運用すれば、借金は避けられるのです。しかし、例えば、こじんまりした家を購入したり、学業を終えるために無理のない額の借金をすることになったとしても、できるかぎり早く返済し、束縛から自由になれるように働くことです。借金を支払い、ある程度の蓄えができたときに、将来自分たちの前に立ち足るかもしれない財政的な嵐^{あらし}に備えることができます。そのときに家族のための避けどころができ、心の平安がもたらされるはずです。

十字架の刑

その他の参照聖句——ルカ16：10－11；教義と聖約19：35

十字架の刑（「イエス・キリストの贖い」^{あがな}；「十字架」参照）

十 字 架

十字架は多くのキリスト教会で救い主の死と復活の象徴として、また心からの信仰の表現手段として用いられています。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちも、救い主の苦しみを敬虔な気持ちで思い起こします。しかし、救い主は生きておられるので、救い主の死の象徴をわたしたちの信仰の象徴として用いることはありません。

あなたの生活はあなたの信仰を表すものでなければなりません。バプテスマを受け、確認を受けたときに、イエス・キリストの御名を受けると聖約したことを忘れないでください。あなたと交わる人々があなたを観察するときに、救い主とその業に対するあなたの愛を感じ取れるようであればなりません。

教会員の中で唯一十字架の象徴を身に着けるのは末日聖徒の従軍牧師だけです。この人たちは軍服の上にこの象徴を身に着けます。それはキリスト教の従軍牧師だと周囲に分ってもらうためです。

「イエス・キリストの贖い」^{あがな}；「イエス・キリスト」；「復活」も参照

従 順

前世で、天の御父は天上の会議を管理されました。そこでわたしたちは人に救いをもたらす御父の計画について知りました。その計画にはこの地上において試練を受ける機会があることも含まれていました。「これらの者が住む地を造ろう。そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」（アブラハム3：24－25）人がこの地球に住んでいる理由の一つ、それは天の御父の戒めに自分が喜んで従うことを示すためです。

戒めは重荷であり、自由と個人的成長を制限するものだと感じている人が大勢います。しかし、救い主の教えによれば、真の自由は

救い主に従うことによってのみ得られるものです。「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ8:31-32) 神はわたしたちの益となるように戒めを与えられました。戒めは人に幸福と肉体的かつ霊的福利をもたらす愛に満ちた指示なのです。

預言者ジョセフ・スミスは、戒めに対する従順が神の祝福をもたらすことについて教え、次のように語っています。「創世の前に天において定められた不変の律法があり、すべての祝福はこれに基づいている。すなわち、神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。」(教義と聖約130:20-21) ベニヤミン王も次のような原則を教えています。「あなたがたは、神の戒めを守る者の祝福された幸福な状態についても考えてほしい。」ベニヤミン王は続けてこう助言しています。「見よ、これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける。そして、もし最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わらない幸福な状態で神とともに住めるのである。これらのことが真実であることを記憶にとどめ、覚えておきなさい。主なる神がこれを言われたからである。」(モーサヤ2:41)

戒めに対する従順は天の御父とイエス・キリストへの愛の表れです。救い主はこう語っておられます。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」(ヨハネ14:15) また後に次のように宣言されました。「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおると同じである。」(ヨハネ15:10)

その他の参照聖句——ヨシュア24:14-15; 伝道12:13; マタイ7:21; ヨハネ7:17; 1ニーファイ3:7; 教義と聖約58:21-22; 82:8-10

「選択の自由」; 「救いの計画」 も参照

十二使徒定員会 (「教会の管理」参照)

什分の一

じゅうぶん

什分の一

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員が得られる祝福の一つ、それは什分の一^{じゅうぶん}を納める特権です。什分の一の律法に従って生活することにより、この地上における神の王国の建設に参加することができます。

じゅうぶん

什分の一の定義と目的

完全に什分の一^{じゅうぶん}を納めるためには、収入の10分の1を、主の教会を通して主にささげます。什分の一は監督会または支部長会の一員に渡します（訳注——日本では会員直接献金制度が導入されているため、該当しない）。

地元の指導者は什分の一^{じゅうぶん}基金を直接、教会の本部に送金します。教会本部では、この神聖な基金の具体的な用途を評議会が決定します。この評議会は大管長会、十二使徒定員会、管理監督会から構成されます。啓示によって行動し、主の導きのままに決定を下します（教義と聖約120：1参照）。

什分の一^{じゅうぶん}基金は、常に主の目的に使われます。その一例として、神殿や集会所の建設と維持、伝道活動の支援、全世界における教会の業の推進などが挙げられます。

じゅうぶん

什分の一を完全に納める祝福

什分の一^{じゅうぶん}の律法には犠牲が求められますが、この律法に従う人は、自分が差し出したどんなものよりもはるかに勝る祝福を受けます。預言者マラキは次のように教えています。

「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」（マラキ3：10）

これらの祝福は、その金額のごくわずかであっても、収入の10パーセントを納めるすべての人々に与えられます。この律法に従う人に、主は霊的にも物質的にも祝福を授けてくださいます。

じゅうぶん

什分の一を納めようと決意する

じゅうぶん
什分の一を首尾一貫して納めるという姿勢がまだ確立していないとすれば、収入の10分の1を差し出しても大丈夫だと信じるのが難しいのかもしれませんが。しかし忠実な什分の一の納入者は什分の一を納めないと不安になるということを知っています。ほんとうに文字どおり不思議な方法で、天の窓が開かれ、あふれんばかりの祝福が注がれるからです。

じゅうぶん
什分の一がお金の問題というよりもむしろ信仰の問題だということを忘れないようにしてください。主に信頼を置いてください。主はわたしたちのためになるようにとこの戒めを与えられました。またこの戒めに伴う約束も与えられました。次のように語ったニーファイの信仰から力を得てください。「主の命令を忠実に守りましょう。まことに、主は全地にも増して力ある御方なのですから……。」(1ニーファイ4：1)

「断食と断食献金」も参照

祝福師の祝福

祝福師の祝福は聖任された祝福師がふさわしい教会員に授ける祝福です。祝福師の祝福は、イスラエルの家における血統を宣言し、それを受ける人に対する主の個人的な勧告を含んでいます。

祝福師の祝福を学び、そこに含まれる勧告に従うときに、導き、慰め、守りを受けることができます。祝福師の祝福を受ける方法について知りたい場合は、監督または支部長と相談してください。

血統の宣言

祝福師の祝福には、祝福を受けた人がアブラハムの子孫、つまりイスラエルの家の者であること、またヤコブの特定の部族に属することについて述べる血統の宣言が含まれます。多くの末日聖徒は、末日において主の業を導く第一の責任を与えられているエフライムの部族に属します。

わたしたちの中にはそれぞれ多くの血統が入り交じっているので、

祝福師の祝福

同じ家族であっても、イスラエルの異なる部族に属する者として血統を宣言されることがあります。

イスラエルの家における血統が文字どおりの血統によるものか、養子縁組によるものかは重要ではありません。教会員はだれもが、アブラハムの子孫であり、アブラハムの聖約（「アブラハムの聖約」の項、00〔5〕－00〔6〕参照）に含まれるすべての約束と祝福の相続人であると見なされるからです。

祝福師の祝福から学ぶこと

祝福師の祝福を受けたら、謙遜^{けんそん}に、祈りの気持ちで、また何度も読む必要があります。それはこの祝福を受ける人の長所と短所、永遠の可能性を御存じである天の御父からの個人的な啓示です。祝福師の祝福を通して、御父はその人が御父から何を期待されているか理解できるように助けてくださいます。この祝福の中には約束、訓戒、警告が含まれています。時の経過とともに、そこに込められた啓示の力を認めるようになるでしょう。

祝福に述べられている勧告に従うときに、失敗をしたり、惑わされたりする可能性は低くなります。しかし、勧告に従わなければ、約束された祝福を受けることはできません。

祝福師の祝福には靈感による勧告と約束が含まれていますが、すべての疑問に答えてくれる、あるいは一生のうちに起こるすべてのことを詳細に教えてくれると期待すべきではありません。たとえ専任宣教師としての務めや結婚といった大切な出来事について触れられていなくても、その機会にあずかることができないと思ひ込むべきではありません。

同様に、祝福師の祝福で述べられているすべてのことがこの現世で成就すると思ひ込むべきではありません。祝福師の祝福は永遠のものであり、そこで述べられている約束も永遠へと続く性質^{みこころ}のものです。その人がふさわしければ、すべての約束は主の御心にかかったときに成就することでしょう。この世で成就されなかった約束は次の世で成就するでしょう。

祝福師の祝福は神聖で個人的なものです。身近な家族の一員と分かち合っても差し支えありませんが、公の場で声に出して読んだり、ほかの人々が読んだり解釈したりすることを許可すべきではありません。祝福師や監督、支部長も解釈することはできません。

祝福師の祝福に述べられている貴重な言葉を心の中に大切に蓄えておいてください。その言葉の意味について深く思い巡らし、約束された祝福を現世と来世にわたって受ける資格ができるように生活してください。

主の御霊^{みたま}（「聖霊」；「キリストの光」参照）

純 潔

純潔とは性的な清さ、「神にとって喜ばしい」状態を意味します（モルモン書ヤコブ2：7）。純潔であるためには、思い、言葉、行いにおいて道徳的に清くなければなりません。法的に結婚するまでは決して性的な関係を持つてはなりません。結婚したら、夫または妻に対して完全な忠誠を誓わなければなりません。

夫婦間の肉体的な面での親密さは美しく神聖なものです。それは子供を創造し、結婚生活の中で愛を表現するために神が定められたものです。

今日^{こんにち}の世界において、多くの人々はサタンに誘惑され、婚姻関係になくても性的な親密さは認められると信じています。しかし、神の目から見れば、このような親密さは重大な罪です。生命を創造するために神から与えられた力を誤って用いていることになるからです。預言者アルマは、性的な罪は殺人や聖霊を否定することを除いて、どのような罪よりも重大な罪であると教えています（アルマ39：3-5参照）。

当事者同士が愛し合っていれば、婚姻関係になくても性的な親密さは認められるということを自分に納得させようとする人々がいます。これは間違っています。純潔の律法を破ったり、そうするように勧めたりすることは愛の表現ではありません。愛し合っている人たちが利^{せつ}己^な的で個人的な快樂のためにお互いの幸福や安全を危機に

純潔

さらすことは決してありません。

人が十分に思いやりを示し合い、純潔の律法を守るときに、愛と信頼、そしてきずなは深くなり、より大きな幸福と一致が生まれます。これとは対照的に、性的な不道德行為のうえに築かれた関係は長続きしません。性的な不道德行為を行う人の多くは恐れや罪悪感、羞恥心しゅうちを味わいます。かつて自分たちの関係に存在しつとしていたあらゆる肯定的な感情が、やがては苦々しい思いや嫉妬、憎悪に取って代わるからです。

天の御父はわたしたちを守るために純潔の律法を授けられました。この律法に対する従順は、個人的な平安と人格的な強さ、家庭の幸福にとって不可欠な要素です。自らの性的な清さを維持する人は、婚姻関係にない人と肉体的な関係を持つことにより必ず被る霊的かつ情緒的打撃を避けられます。聖霊から受ける導き、力、慰めと守りに対して敏感になり、神殿推薦状を受け、神殿の儀式に参加するために求められる重要条件を満たすことができます。

性的な罪

主と主の預言者は性的な不道德行為を非難しています。婚姻関係にない男女間の性的な関係はすべて純潔の律法に反するものです。このような関係を持つ人はだれでも肉体的かつ霊的な危険を犯していることになります。

十戒にもかんいん姦淫を犯してはならないという戒めが含まれています。かんいん姦淫とは結婚している男性と妻以外のだれか、または結婚している女性と夫以外のだれかとの間で行われる性的な交わりを指します（出エジプト20：14参照）。使徒パウロは、わたしたちが「不品行を慎〔む〕」ことは「神のみこころ」だと語っています（1テサロニケ4：3）。ここで言う不品行とは未婚の人とだれかほかの人との間で行われる性的な交わりのことです。末日の預言者は繰り返しこれらの罪や性的虐待という邪悪な習慣に断固として反対してきました。

純潔の律法に対するほかの違背と同様、同性愛的行為も重大な罪です。それは人間の性差に反する行為です（ローマ1：24－32参照）。

それは愛にあふれる関係をゆがめ、家庭生活や福音の救いの儀式に伴う祝福を受けられないように働きかけます。

しかし、主の個人的清さに関する標準からすると、婚姻関係にない状態での性的な交わりを避けるというだけでは不十分です。主は御自分の弟子たちに、思いと行いの両面における伴侶^{はんりよ}への完全な忠誠を含め、高い道徳的標準を求められました。山上の垂訓の中で、主はこう語られました。『『姦淫するな』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。』（マタイ5：27-28）末日に、主はこう語っておられます。「あなたは……姦淫をしてはならない。……これに類することをしてはならない。」（教義と聖約59：6）さらに主は山上の垂訓で教えられた原則をもう一度強調しておられます。「情欲を抱いて女を見る者は、すなわちだれか心の中で姦淫をするならば、彼らは御霊^{みたま}を持たなくなり、信仰を否定し、恐れるようになる。」（教義と聖約63：16）これらの警告は、婚姻関係のあるなしにかかわらず、すべての人に当てはまるものです。

もしすでに性的な罪を犯してしまっている場合には、悔い改めの過程で助けを受けられるように監督または支部長と相談してください（「悔い改め」000〔132-135〕参照）。

同性に引かれる気持ちを含め、性的な誘惑に苦しんでいる場合には、そのような誘惑に屈しないでください。そのような行為は絶対に避けようと決意してください。力を求めて祈り、この問題を克服しようと努力するときに主の助けを受けることができます。この決意と祈りと努力の過程の一部として、監督または支部長の助言を求める必要があります。そうすれば助けを得られるでしょう。

純潔の律法を守る

たとえどれほど強そうな誘惑であっても、主に従うことを選択すればその誘惑に抵抗できるよう主が助けてくださいます。使徒パウロはこう宣言しています。「あなたがたの会った試練で、世の常でな

純潔

いものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(1コリント10:13) 以下の勧告は今日の世界において頻繁に起こるあからさまな誘惑に打ち勝つための助けを与えてくれるでしょう。

純潔であらうと今決心する。この決心をするのは一度だけです。誘惑を受ける前、すなわち今決心してください。決して揺らぐことがないように確固として、また全身全霊を傾けて決心してください。婚姻関係にない状態で、結婚のきずなの中でしか表現してはならない強い感情を誘発するような行為は一切しないと今決心してください。ほかの人の体や自分の体に対して、そのような強い感情をかき立てることがあってはなりません。自分の伴侶^{はんりょ}に対して完全に忠実であらうと今決心してください。

思いを制御する。人はだれも一瞬にして性的な罪を犯すわけではありません。不道德な行為は不道德な思いから始まるのが常です。みだらなことや不道德なことについていつまでも思い巡らしている人は、不道德な行為への第一歩をすでに踏み出していることになります。罪に至るような状況からすぐに身を引いてください。誘惑に抵抗し、思いを制御する力がいつも自分とともにあるように祈ってください。そのような願いを日々の祈りに加えてください。

ポルノグラフィーに近寄らない。どのようなものであれ、性的な感情をあおるような形で人間の肉体や性的な行為を描写、あるいは表現しているものを見たり、読んだり、聞いたりしてはなりません。ポルノグラフィーは習慣性があり、破壊をもたらします。ポルノグラフィーは自尊心と人生の美しい面を感じ取る心を人から奪います。ポルノグラフィーは人を傷つけ、邪悪な思いと虐待行為に導きます。

独身でデートをする人は、デートの相手にいつも敬意をもって接する。デートの相手を決して肉欲を満たすための手段として扱ってはなりません。二人だけになってほかに何もすることがないということがないように、前向きで建設的な活動を慎重に計画してください。自分を容易にコントロールできる安全な場所にとどまってください。性的な感情に火をつけるような会話や活動に加わらないでく

ださい。情熱的なキスをしたり、相手と一緒に寝ころがったり、相手の上に体を横たえたり、衣類を着用しているかどうかにかかわらず、相手の体のプライベートで神聖な部分に触れたりしてはなりません。自分に対しても、相手にそのようなことを決してさせてはなりません。

結婚している人は、思いにおいても、言葉においても、また行いにおいても、^{はんりょ}伴侶に忠実である。主はこうおっしゃっています。「あなたは心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。情欲を抱いて女を見る者は、信仰を否定するのであり、^{みたま}御霊を受けることはない。もしも悔い改めなければ、彼は追い出されなければならない。」(教義と聖約42：22-23)

どのような形であれ、浮ついた行為は決してしないでください。できるかぎり、異性と二人だけになることは避けてください。もし自分の伴侶が自分の言葉や行いを知ったとしたら喜んでくれるだろうかと自問してください。「あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい」という使徒パウロの助言を忘れないでください(1テサロニケ5：22)。このような状況から遠ざかっていれば、誘惑が助長される機会はなくなります。

悔い改めるものに対する^{ゆる}赦し

最善の道は非の打ち所のない道徳的な清さです。後になって悔い改めればよいという考え方で性的な罪を犯すのは間違っています。主に対する、また主と交わした聖約に対するこのような不遜な態度そのものが罪です。しかしながら、すでに性的な罪を犯しているのであれば、主は悔い改めを条件に^{ゆる}赦しを与えてくださいます。

悔い改めは困難を伴いますが、可能です。もう一度清くなることのできるのです(イザヤ1：18参照)。罪のもたらす絶望感が^{ゆる}赦しという快い平安に取って代わるのです。悔い改めるために何をしなければならぬかを知るために、「悔い改め」の項、00 (132) - 00 (135) ページを参照してください。

昇栄

神殿に参入するふさわしさが身に付くまで努力し、詩篇の作者の言葉から導きを得てください。

「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。

手が清く、心のいさぎよい者。」（詩篇24：3—4）

その他の参照聖句——出エジプト20：14；1コリント6：18—20；アルマ38：12；3ニーファイ12：27—30

「結婚」；「ボルノグラフィー」も参照

昇 栄（「永遠の命」参照）

正 直

信仰箇条第13条には次のように述べられています。「わたしたちは、正直〔で〕あるべきこと……を信じる。」正直であるとは、いつでも誠実であり、真実を語り、うそをつかないということです。

あらゆる点で正直な人は、心が平穏で、自尊心を持ち続けることができます。人格的な強さをもって、神と人ともに奉仕することができますようになります。神と周囲の人々の目には、信頼に値する人として映ります。

一方、言葉と行いにおいて不正直な人は、自分自身だけでなく、時として多くの人々をも傷つけることになります。うそをついたり、盗んだり、だましたり、給与に見合った労働をきちんと提供しなければ、自尊心がなくなります。聖霊の導きが受けられなくなります。家族や友人との関係にひびが入ってしまい、人から信頼されなくなることもあります。

正直であろうとすると、勇気や犠牲を求められることがよくあります。特に、不正直な行為を正当化するよう周囲からの働きかけを受けるときがそうです。そのような状況に置かれたら、正直であることから得られる永続する心のやすらぎの方が、多数派に従うことで得られるつかの間の安心よりも価値があるということを忘れないでください。

その他の参照聖句——出エジプト20：16；2ニーファイ9：34；教義と聖約

ジョセフ・スミス

1820年の春、14歳のジョセフ・スミスは、イエス・キリストの真の教会を探し求めていたときに聖書のある一節を読みました。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」（ヤコブの手紙1：5。ジョセフ・スミス—歴史1：11–12も参照）単純でありながらも確固たる信仰を胸に、少年ジョセフはこの聖文の勧めに従いました。ジョセフは一人で森の中に入って行き、どの教会に入ればよいのかを知るために祈りをささげました。ジョセフの祈りにこたえ、父なる神とイエス・キリストが御姿を現されました。何よりも増して重要なのは、御二方が、その当時存在していたどの教会にも入らないようにとジョセフに告げられたことです（ジョセフ・スミス—歴史1：13–20参照）。

ジョセフ・スミスは、自らのふさわしさを証明し、神の預言者として働く神聖な使命を授かりました。ジョセフ・スミスを通して、主は偉大で驚嘆すべき業を成し遂げられました。その業の中には、モルモン書を世に出されたこと、神権を回復されたこと、貴い福音の真理を明らかにされたこと、イエス・キリストの真の教会を回復されたこと、神殿活動を確立されたことなどが含まれます。1844年6月27日、ジョセフとその兄ハイラムは武装した暴徒の襲撃を受け、殉教しました。彼らは、自らの血をもって自分の証^{あかし}を結び固めました。

回復された福音に関する証^{あかし}を完全なものとするためには、ジョセフ・スミスの神聖な使命に関して証を持たなければなりません。末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であるかどうかは、最初の示現ならびに主が預言者ジョセフにお与えになったほかの啓示が真実であるかどうかにかかっています。ジョン・テーラー第3代大管長が次のように書き残しています。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のい

しるし

かなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。」(教義と聖約135：3)

その他の参照聖句——イザヤ29：13-14；2ニーファイ3：3-15；教義と聖約5：9-10；135章；ジョセフ・スミス—歴史

「預言者」；「福音の回復」も参照

しるし

しるしは神の力を示す出来事または経験です。しるしは通常奇跡的です。救い主の降誕，死，再臨のように偉大な出来事を明らかにし、告げます。わたしたちと主の間に交わされた聖約を思い起こさせてくれます。しるしは神聖な召しについて証^{あかし}したり、主が承認されていないということを表すこともあります。

しるしを受けることができれば神と神の業を信じると主張する人々がいます。しかし主はこうおっしゃっています。「信仰はしるしによっては生じないが、信じる者にはしるしが伴う。」(教義と聖約63：9) しるしは忠実で従順な人々の信仰が強まるように与えられるものです。

その他の参照聖句——マタイ12：38-39；マルコ13：22-27；ルカ2：8-17；アルマ30：43-52；ヒラマン14章；3ニーファイ1：13-21；8：2-25；エテル12：6；教義と聖約63：7-12

「信仰」；「従順」；「イエス・キリストの再臨」も参照

神 会

信仰箇条第1条にこう記されています。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」これらの御三方は神会を構成されます。神会はこの世界と天の御父のほかの創造物すべてを管理されます。

神会にかかわる真の教義は、救い主の地上での教導の業と使徒の死に続く背教の中で失われました。この教義の回復は14歳のジョセフ・スミスが最初の示現を受けたときから始まりました（ジョセフ・スミス—歴史1：17参照）。預言者の最初の示現に関する記録や

そのほかの教えから、神会はそれぞれ独立した御三方から構成されているということが分かります。御父と御子は触れることのできる骨肉の体を持っておられ、聖霊は霊の御方です（教義と聖約130：22参照）。

神会の御三方は、別個の役割を持つ別個の御方ですが、目的と教義において一つです。御三方は、天の御父の神聖な救いの計画を実行するという点において完全に一致しておられます。

その他の参照聖句——マタイ3：13－17；ヨハネ14：6－10；17：6－23；使徒7：55－56；2ニーファイ31：18；モルモン7：5－7；教義と聖約76：20－24

「父なる神」；「聖霊」；「イエス・キリスト」も参照

神 権

神権とは神の永遠の力と権能です。神権を通じて、神は天地を創造されました。そして今天地を統治されています。この力を通じて、神はその子供たちを贖^{あがな}い、昇栄へと導き、「人の不死不滅と永遠の命」をもたらされます（モーセ1：39）。

地上で人に与えられる神権の権能

神は教会のふさわしい男性会員に神権の権能を授け、彼らが神の子供たちの救いのために神の御名^のによって業を行うことができるようにされます。神権者は福音を宣べ伝え、救いの儀式を執行し、地上における神の王国を統治する権能を受けることができます。

教会の男性会員は12歳になったときから神権を使つての奉仕を開始することができます。まず、アロン神権から始め、その後、ふさわしければメルキゼデク神権を授けられます。人生の異なる段階で、異なる責任を受ける備えができたときに、異なる神権の職を受けます。アロン神権の職には、執事、教師、または祭司があり、メルキゼデク神権の職には、長老、または大祭司があります（アロン神権およびメルキゼデク神権に関する詳しい情報については、00〔3〕－00〔4〕ならびに00〔101〕－00〔102〕参照）。

教会の男性会員が神権を持つためには、権能を持つ神権者により

神権

それを授けられ、その神権の職に聖任されなければなりません（ヘブル5：4；教義と聖約42：11；信仰箇条1：5参照）。

神権の権能は教会のふさわしい男性会員にのみ授けられますが、その神権の祝福はすべての人、すなわち男性も女性も子供も受けることができます。わたしたちはだれもが義にかなった神権指導者の影響から恵みを受けます。また、神権による救いの儀式を受ける特権があります。

神権と家族

神権を行使する最も大切な場所は家庭です。教会において、すべての夫そして父親はメルキゼデク神権を持つにふさわしくあるよう努力すべきです。対等のパートナーである妻とともに、義と愛をもって家庭を管理し、霊的な指導者として家族に奉仕します。定期的な祈りや聖文研究、家庭の夕べを通して家族を導きます。妻とともに子供を教え、救いの儀式を受ける備えができるように助けます（教義と聖約68：25-28参照）。導きや癒し、慰めを与えるための神権の祝福を授けます。

多くの教会員の家庭には忠実なメルキゼデク神権者がいません。しかし、ホームティーチャーや神権指導者の奉仕を通して、すべての教会員は日々の生活の中で神権の力による祝福を享受することができます。

神権定員会

神権定員会とは、同じ神権の職を持つ兄弟たちの組織です。定員会のおもな目的は、ほかの人に奉仕し、一致と兄弟愛をはぐくみ、互いに教義や原則、義務を教え合うことです。

定員会はあらゆるレベルの教会組織にあります。教会の大管長と二人の副管長は大管長会を構成します。十二使徒も定員会を構成します。中央幹部と地域幹部の両方から成る七十人は、それぞれ定員会に組織されます。各ステーク会長はステーク内の大祭司から成る大祭司定員会を管理します。各ワードまたは支部には、通常、長老

定員会、祭司定員会、教師定員会、執事定員会があります。大祭司もワード単位で組織され、大祭司グループの中で奉仕します。

ホームティーチング

神権者は教師の職に聖任されたときから、ホームティーチャーとして奉仕する機会と責任があります。この方法によって、神権者は「常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強める」という義務を果たすために働くことができます（教義と聖約20：53）。

ホームティーチャーには、個人と家族にとって教会における第一の助け手となる神聖な義務があります。ホームティーチャーは割り当てられた会員の家を最低月に1回訪問します。割り当てられた会員に奉仕し、その家を訪問することによって、両親が親としての責任を果たせるように援助し、家族の一人一人に福音を教え、彼らとの友情を培い、家族が神殿の儀式を受ける備えをし、福音の祝福にふさわしく生活できるように助けます。

ワードならびに支部の指導者は、各家族または個人に必ずホームティーチャーが割り当てられるようにします。各会員の物心両面における必要を満たす助けができるようにホームティーチャーを見守ります。

神権^{かき}の鍵

教会における神権の権能の行使は、その鍵^{かき}を持つ人々によって管理されます（教義と聖約65：2；124：123参照）。神権の鍵を持つ人々には、その権能の範囲内において教会を管理し導く権利があります。例えば、監督は自分のワードを管理する鍵を持っています。したがって、そのワードにバプテスマを受ける備えのできた子供がいる場合、その子供にバプテスマを施す人は監督から承認を受けなければなりません。

イエス・キリストは神権^{かき}のすべての鍵を持っておられます。主は使徒たちに、御自身の教会を治めるために必要な鍵を授けてくれました。前任使徒である教会の大管長だけが、教会全体を管理する

神権

ためにこれらの鍵を用いる（またはほかの人に行使することを承認する）ことができます（教義と聖約43：1-4；81：2；132：7参照）。

教会の大管長は、ほかの神権指導者に、彼らがそれぞれの責任の範囲内で管理することができるように神権の鍵^{かぎ}を委任します。神権の鍵は、神殿長、伝道部長、ステーク会長、地方部長、監督、支部長、そして定員会会長に与えられます。これらの役職のいずれかにある人は、解任されるまでという限定でその鍵を持ちます。補佐に召されている人たちは鍵は受けませんが、召しと割り当てとによる権能と責任の委任は受けます。

義にかなった神権の行使

あなたが神権者だとしたら、いつでも、どんな状況でも、神権が自分から切り離せないものであることを忘れないでください。自分の思いのままに脱いだり、着たりできるような洋服とは訳が違います。神権の職への聖任はいずれも生涯にわたる奉仕への召しです。この召しには、主の業を行えるように、主がその人を忠実さに応じてふさわしくされるという約束が伴います。

神権の力を受け行使するためにはふさわしくなければなりません。あなたの語る言葉、あなたの日々の行いが奉仕する能力に影響を与えます。公の場でのあなたの行いは、非の打ち所のないものでなければなりません。だれもいないところでの行いはさらに重要さを増します。預言者ジョセフ・スミスを通して、主は「神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており、天の力は義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできない」と宣言されました（教義と聖約121：36）。主は神権指導者に次のように警告しておられます。

「わたしたちが自分の罪を覆い隠そうとしたり、自分の高慢、自分のうぬぼれた野望を満たそうとしたり、あるいはいかなる程度の不義によってでも、人の子らを制御し、支配し、強制しようとしたりするとき、まことに、天は退き去り、主の御霊^{みたま}は深く悲しむ。そして、主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わり

である。まことに、その人は気がつかないうちに、一人放置され
「る。】」（教義と聖約121：37-38）

いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできません。
ただ「説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのな
い愛により、優しさと純粋な知識に「より、維持するのです。」これ
らは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるもので「す。】」
「聖霊に感じたとき」は、その人を責め、その後「あなたの責めた
人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示し「て
ください。」それは、あなたの誠実が死の縄目よりも強いことを、そ
の人が知るため「す。】」（教義と聖約121：41-43）

義と愛をもって神権を行使するときに、主の手に使われる器とし
て奉仕することに喜びを見いだすことでしょう。主はこう言ってお
られます。

「またあなたの心が、すべての人に対して、また信仰の家族に対し
て、慈愛で満たされるようにしなさい。絶えず徳でああなたの思いを
飾るようにしなさい。そうするとき、神の前においてあなたの自
信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであ
ろう。

聖霊は常にあなたの伴侶^{はんりょ}となり、あなたの^{しやく}筋は義と真理の不変の
筋となるであろう。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、そ
れは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込
むことであろう。」（教義と聖約121：45-46）

その他の参照聖句——ヨハネ15：16；使徒8：14-20；ヤコブの手紙5：14-
15；教義と聖約13章；20章；84章；107章；ジョセフ・スミス—歴史1：68-
73

「アロン神権」；「教会の管理」；「メルキゼデク神権」；「儀式」；「福音
の回復」も参照

神権の鍵^{かぎ}（「神権」参照）

信仰箇条

信仰箇条

信仰箇条は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員がよりどころとする13の基本的信条を概説したものです。預言者ジョセフ・スミスは、教会員の信条を知りたいと要請してきた新聞社の編集者ジョン・ウェントワース氏に答える書簡の中で最初にこれを記しました。この書簡は後に教会の定期刊行物の中で公にされました。信仰箇条は現在、聖文と見なされ、高価な真珠の中に収められています。

信 仰

使徒パウロは「信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである」と教えています（ヘブル11：1）。アルマも同じようなことを言っています。「もし信仰があれば、あなたがたはまだ見ていない真実のことを待ち望むのである。」（アルマ32：21）

信仰は行動と力の原則です。人はいつでも価値ある目標に向かって努力するときには信仰を行使します。まだ目で見ることのできない物事に対する望みを表すのです。

主イエス・キリストに対する信仰

あなたを救いへと導く信仰は、主イエス・キリストを中心に置くものでなければなりません（使徒4：10－12；モーサヤ3：17；モロナイ7：24－26；信仰箇条1：4参照）。主が実在の御方だということに対する確信、主の属性に関する正しい理解、自分は主の御心みこころに添った生活を送ろうと努力しているという知識があるときに、キリストに対する信仰を行使することができます。

イエス・キリストに信仰を持つとは、イエス・キリストを完全に頼る、その無限の力、英知、愛に信頼を置くということを意味します。その中にはイエス・キリストの教えを信じるということも含まれます。また自分にはすべてのことが理解できなくても、イエス・キリストは理解されていると信じることを意味します。イエス・キリストはあなたの痛み、悲しみ、弱さをすべて経験しておられ、あ

あなたが日々の困難な状況から立ち上がるのを、どのように助ければよいのかも御存じだということを覚えておいてください（アルマ7：11-12；教義と聖約122：8参照）。イエス・キリストは「すでに世に勝って」いて（ヨハネ16：33），あなたが永遠の命を得られるように道を準備しておられます。「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない」という主の嘆願を（教義と聖約6：36）あなたが忘れないなら，主はいつでも必ずあなたを助けてくださいます。

信仰によって生きる

信仰は行動の伴わない信念をはるかに超えるものです。自分に信仰があるかどうかは自分の行動，生き方を通して表します。

救い主は次のように約束されました。「あなたがたはわたしを信じるならば，わたしの心にかなうことを何事でも行う力を持つであろう。」（モロナイ7：33）人はイエス・キリストに対する信仰が動機となってイエス・キリストの完全な模範に従いたいと思うようになります（ヨハネ14：12参照）。信仰によって人は善い行いをします。戒めを守り，自分の犯した罪を悔い改めます（ヤコブの手紙2：18；1ニーフアイ3：7；アルマ34：17参照）。信仰の助けを借りて人は誘惑に打ち勝つことができます。アルマは息子のヒラマンに次のような助言を与えています。「主イエス・キリストを信じる信仰をもって，悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい。」（アルマ37：33）

主はあなたの信仰に応じて，あなたの人生に大きな奇跡を起こしてくださいます（2ニーフアイ26：13参照）。イエス・キリストに対する信仰は，主の贖いを通して霊的，肉体的な癒しを受けるうえで助けとなります（3ニーフアイ9：13-14参照）。試練に見舞われたときに，人は信仰によって力を与えられ，その結果，前進し，苦難に勇気をもって立ち向かうことができるようになります。未来が不確かなときですら，救い主への信仰によって平安を得ることができます（ローマ5：1；ヒラマン5：47参照）。

信仰

信仰を強める

信仰は神からの賜物^{たまもの}ですが、強い信仰を持ち続けるためには信仰を養い育てていかなければなりません。信仰は腕の筋肉のようなものです。腕は使えば強くなりますが、三角巾で固定し、そのまま放置しておくとな弱くなってしまう。

信仰^{たまもの}の賜物はイエス・キリストの御名^{みな}により天の御父に祈ることによって養い育てることができます。御父に感謝の気持ちを述べ、自分とほかの人々が必要としている祝福を願い求めるときに、御父に近づくことができます。憐れみ^{あわれみ}を願い求めることができるように罪^{あがな}を贖^{あがな}ってくださった救い主に近づくことができます（アルマ33：11参照）。さらには聖霊の静かな導きを感じることができるようになります。

戒めを守ることによって信仰を強めることができます。神のあらゆる祝福と同様に、信仰は一人一人が従順で義にかなった行いをするることにより手にし、さらに強めていくことができるものです。信仰を可能な限り最高のレベルにまで高めたいと望むならば、主と交わした聖約を守らなければなりません。

聖文と末日の預言者の言葉を研究することによって信仰をはぐくむこともできます。預言者アルマは神の言葉^{みことば}によって信仰を強めることができると教えました。アルマは御言葉^{みことば}を種にたとえ、「信じようとする望み」を持つならば、あなたは「心の中に場所を設けて」御言葉を「そこに植える」ことができるようになると語っています。そうすればあなたは御言葉を良いものだと感じるでしょう。なぜならそれはあなたの心を広げ、あなたの理解力に光を注ぎ始めるからです。それはあなたの信仰を強めます。「非常に熱意と、忍耐を〔もって〕その実を期待しながら」あなたが心の中で絶えず御言葉に養いを与えるならば、「それは根付くで〔しょ〕う。そして……，それは生長して永遠の命をもたらす木になるで〔しょ〕う。」（アルマ32：26－43参照）

その他の参照聖句——ヘブル11章；ヤコブの手紙1：5－6；2：14－26；エテル12：4－27；モロナイ7：20－48；教義と聖約63：7－11；90：24

「バプテスマ」；「父なる神」；「イエス・キリスト」；「悔い改め」も参照

神 殿

神殿は文字どおり主の宮です。そこは主が訪れられる神聖な礼拝の場所です。神殿の神聖さに匹敵するのは家庭だけです。

過去の歴史を通じて、主はその民に神殿を築くよう命じてされました。今日、教会は、全世界に神殿を築くようにという主の呼びかけにこたえ、神殿の祝福が天の御父の多くの子供たちにとってより身近なものとなるように働いています。

生者のための儀式

神殿のおもな目的は、人が日の栄えの王国で昇栄するために必要な儀式を施すことです。神殿の儀式は、イエス・キリストの贖い^{あがな}を通して得られる最大の祝福に通じるものです。教会で行うことのすべて、集会、活動、伝道の働き、教えるレッスン、歌う賛美歌、すべてが救い主と聖なる神殿で行う業に向けられる必要があります。

神殿で受ける儀式の一つがエンダウメントです。「エンダウメント」は「賜物」^{たまもの}を意味する言葉です。したがって神殿のエンダウメントとは文字どおり神からの賜物です。この儀式は一連の教えから成っています。また義にかなった生活を送り、福音の求める条件を満たすために交わす聖約が含まれています。エンダウメントを通して、救い主、天の御父の計画における救い主の役割、救い主に従う決意に心を集中させることができます。

もう一つの神殿の儀式は、夫と妻が互いに永遠に結び固められる日の栄えの結婚です。神殿で行われる結び固めは、夫と妻が自分たちの交わした聖約に忠実であるならば、永遠に続くものです。

神殿で結び固められた両親のもとに生まれてくる子供は聖約の子となります。このような子供たちは自動的に永遠の家族に組み込まれます。聖約の子でない子供たちも、実父母または養父母にお互い結び固められた時点で永遠の家族に組み込まれます。子供を両親に結び固める儀式は神殿で執行されます。

神殿

神殿の儀式を受けたら、いつも自分が交わした聖約を忘れないでください。神殿にはできるかぎり頻繁に参入してください。父親、または母親の場合、子供たちに神殿の大切さを教えてください。彼らが自らを備え、ふさわしい状態で神殿に参入できるよう助けてください。

まだ神殿の儀式を受けていないのであれば、今から準備を始めてください。状況が許せば、死者のためのバプテスマや確認の儀式を受けるために神殿に参入してください。

死者のための儀式

救いに不可欠な福音の儀式を受けずに亡くなった人々も、神殿で実施される業を通して、それらの儀式を受けることができます。あなたは自分の先祖やすでに亡くなった人々に代わってこの業を行うことができます。彼らの身代わりとして、バプテスマと確認の儀式、エンダウメントを受け、夫と妻、子供と両親の結び固めに臨むことができますのです。

亡くなった先祖のために神殿の業を執行することができるように、彼らの記録を積極的に探究してください。

死者のための神殿の業と家族歴史活動についてもっと情報が欲しい人は、「家族歴史活動と系図」00〔61〕-00〔64〕を参照してください。

神殿に参入するためのふさわしさ

神殿に参入するには、ふさわしくなければなりません。あなたは二つの面接を通してふさわしさを証明します。一つは監督会の一員または支部長との面接、もう一つはステーク会長会の一員または伝道部長との面接です。神権指導者はこれらの面接を個人的かつ内密に行います。どちらの面接でも、神権指導者はあなたの個人的な行い^{あがな}やふさわしさについて質問します。天の御父とイエス・キリストの贖いに関するあなたの証^{あかし}について質問されます。中央および地元の教会の指導者を支持しているかどうか質問されます。道徳的に清

いこと、知恵の言葉を守り、^{じゅうぶん} 十分の一を完全に納め、教会の教えに調和した生活を送り、背教的なグループと関係を持ったり、そのようなグループに同情を寄せたりしていないことを確認するために質問されます。

面接での質問に対して然るべき^{しか} 返答をした場合、またあなたと神権指導者がともに、あなたのことを神殿に参入するにふさわしいと確信できた場合、神殿推薦状を受けます。神殿推薦状にはあなたと神権指導者の二人が署名します。この神殿推薦状があれば、ふさわしいかぎり、次の2年間、神殿に入ることを許可されます。

神殿推薦状のための面接は、自分のふさわしさとどのような生活を送っているかを吟味するすばらしい機会を提供してくれます。自分の生活に何かが欠けている場合は、神殿推薦状のための面接に先立って監督または支部長と十分に相談ができるような機会を作ってください。神殿推薦状を受けるにふさわしくなる準備ができるように助けてくれるはずです。

神殿の衣装

神殿に参入するときには、教会に出席するときと同様、最良の服装で臨むべきです。神殿の中に入ると、白い神殿着に着替えます。着替えは更衣室でしますが、更衣室ではロッカーまたは着替えのための個人用スペースを使用します。神殿では、慎み深さを保つよう十分に心を配ります。

自分の衣類をロッカーに入れると同時に、この世的な煩い事はすべて置いて行くことができます。白い衣装を身にまとうと、神殿内にいるほかの人々と一つであり、平等であるという気持ちを抱くことができます。周囲の人々が皆、あなたと同じ衣装を着ているからです。

神殿のガーメントを着る

一度エンダウメントを受けると、生涯にわたって神殿のガーメントを身に着けるという祝福にあずかります。ガーメントは神殿で与

神殿

えられる指示どおりに着なければなりません。この神聖な特権にかかわる祝福は、あなたのふさわしさと神殿の聖約を守る忠実さに懸かっているということを忘れないようにしてください。

ガーメントはあなたが神殿で交わした聖約を絶えず思い起こさせてくれます。ガーメントはいつも敬意をもって取り扱うべきです。その意味を理解できない人々の目にさらしたり、様々なスタイルの服に合わせてそれを調節したりすべきではありません。ガーメントは適切に身に着けると、誘惑や悪から身を守ってくれます。ガーメントを身に着けるという行為は、救い主に従う内面的な決意を外面的に表現したものとと言えます。

神殿参入から得られる祝福

神殿は神聖な神権の儀式が執り行われる場所というだけにとどまりません。そこは平安と啓示が得られる場所です。不安を感じたり、重大な決定が大きな負担となったりすることがあります。そのようなときには心配事を神殿に持って行き、そこで霊的な導きを受けることができます。

時として、様々な問題や手のかかる多くの事柄があまりにも重く心にのしかかり、明瞭に物事を考えられないと覚えることがあるかもしれません。しかし神殿では、世の煩い事めいりようは消え去り、霧やもやが晴れるように視界が開けてきます。そしてそれまで理解していなかったことが理解できるようになるのです。自分が直面している試練に対処するための新たな方法を見つけることができるのです。

主はあなたが神殿での神聖な儀式の業に励むときに祝福を与えてくださいます。また主が与えてくださる祝福は神殿にいる間だけに限定されません。主は人生のあらゆる面であなたを祝福して下さいます。神殿で熱心に働くことによって霊的に強められ、清められます。

その他の参照聖句——イザヤ2：1-3；教義と聖約88：119；109-110章；124：39-41

「聖約」；「家族歴史活動と系図」；「結婚」；「儀式」；「救いの計画」も

参照

真理の御霊^{みたま}（「聖霊」参照）

救 い

ほかの宗派に属するクリスチャンとの会話の中で、次のように聞かれることがあるかもしれません。「あなたは救われていますか。」こう質問をする人たちは、ほとんどの場合、あなたはイエス・キリストを自らの個人的な主、救い主として受け入れたことを心から告白、あるいは宣言したかと尋ねているのです。この質問をする人たちは、使徒パウロが語った次の言葉を信じていることになります。

「自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。」（ローマ10：9-10）

「あなたは救われていますか」という質問に答える

ローマ人への手紙第10章9節から10節で用いられている「救われる」という言葉は、イエス・キリストとの聖約関係を意味します。この聖約関係を通して、従順であるならば、罪のもたらす永遠の結果から救われることを保証されます。この意味で忠実な末日聖徒はすべて救われています。わたしたちは回復された福音に改宗しました。バプテスマの儀式を通して、救い主と聖約を交わし、救い主の御名を受けているのです。また、聖餐^{せいさん}を受けることによってバプテスマの聖約を更新します。

「救い」という言葉の様々な意味

末日聖徒イエス・キリスト教会の教義の中で、「救われる」あるいは「救い」という言葉には、様々な意味があります。これらの意味に応じて、「あなたは救われていますか」という質問に対し、「はい」と答えることもあるでしょうし、「はい、でも条件があります」と答

救い

えることもあるでしょう。以下の説明は、「救い」という言葉の持つ6つの異なる意味について概説したものです。

肉体の死からの救い。すべての人はいずれ死にます。しかし、イエス・キリストの贖いと復活を通して、すべての人は復活します。肉体の死から救われます。パウロはこう証しています。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」(1コリント15：22)

罪からの救い。救い主の贖い^{あがな}を通して罪から清められるためには、イエス・キリストに対する信仰を働かせ、悔い改め、バプテスマを受け、聖霊^{たまもの}の賜物を授けられなければなりません(使徒2：37-38参照)。正しい神権の権能を通してバプテスマを受け、聖霊を受けているのであれば、条件付きではありますが、すでに罪から救われていることになります。しかし、罪から完全に救われるためには、最後まで忠実に堪え忍び、現世での生涯を終わらなければなりません。

罪のあるままでは救われないということに注目してください。これは残りの全生涯を、罪を犯さずに過ごすことなど到底できないと分かっているにもかかわらず、ただ単にキリストに対する信仰を宣言するだけで無条件に救いを受けることはできないということです(アルマ11：36-37参照)。神の恵みによって、人は**罪から**救われます(ヒラマン5：10-11参照)。この祝福にあずかるには、イエス・キリストに対する信仰を働かせ、神の戒めを守ろうと努力し、罪を捨て、聖餐^{せいさん}の儀式を通して悔い改めと清めを更新しなければなりません。

再び生まれる。再び生まれたかと尋ねられることがあるかもしれません。霊的再生の原則は聖文の中にしばしば登場します。新約聖書には、わたしたちは「新しく生れ^{うま}」なければならない、「水と霊とから生れなければならない、神の国にはいることはできない」というイエスの教えが記されています(ヨハネ3：3, 5)。この教えはモルモン書の中で再確認されています。「全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語の民、民族が再び生まれなければならないことを不思議に思ってはならない。まことに、人は神から生まれ、肉欲^{あがな}にふける堕落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神

の息子や娘にならなければならない。このようにして、彼らは新たな者となる。このようにならないかぎり、決して神の王国を受け継ぐことはできない。」（モーサヤ27：25-26）

この再生は、バプテスマを受け、聖霊の賜物^{たまものみこころ}を受けた人が踏む過程です。自ら進んで「残りの全生涯、神の御心を行い、神から命じられるすべてのことについて神の戒めに従うという聖約を交わし」た結果生じるものです（モーサヤ5：5）。それからわたしたちは、「キリストの御名^{みな}を信じて心が改ま〔ります。〕だから、〔わたしたち〕はキリストから生まれ……たので」す（モーサヤ5：7）。すでにバプテスマと聖霊の賜物を受け、イエス・キリストの御名を受けるといふ聖約を交わしていれば、その人は新たに生まれているということになります。また、この再生は毎週の安息日^{にち}に聖餐^{せいさん}を受けることによって更新することができます。

無知からの救い。回復された福音の光を知らないばかりに、暗闇^{くらやみ}の中で生活している人が大勢います。彼らは「見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにいる」のです（教義と聖約123：12）。主の教会の会員は、このような状況から救われています。父なる神、イエス・キリスト、人生の目的、救いの計画、人の永遠の可能性に関する知識があるからです。わたしたちは「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」と宣言された救い主の弟子として生活することができます（ヨハネ8：12）。

第二の死からの救い。聖文には、ところどころに、第二の死からの救いについて触れた箇所があります。第二の死とは、義から断ち切られ、どの栄光の王国にも入ることのできない最終的な霊の死です（アルマ12：32；教義と聖約88：24参照）。この第二の死は最後の裁きの時まで取っておかれますが、ごくわずかな人々しか受けません（教義と聖約76：31-37参照）。この世にかつて住んだほとんどすべての人々は、第二の死からの救いを保証されています（教義と聖約76：40-45参照）。

永遠の命、あるいは昇栄。聖文で用いられる「救われる」「救い」という言葉は、永遠の命、あるいは昇栄を指すことがよくあります

救いの計画

(アブラハム2：11参照)。永遠の命とは、天の御父とイエス・キリストを知り、ともに永遠に住むこと、すなわち日の栄えの王国の最高の階級に席を得ることを意味します（ヨハネ17：3；教義と聖約131：1-4；132：21-24参照）。この偉大な賜物^{たまもの}を受けるには、罪を悔い改め、バプテスマを受け、適切な神権の権能によって確認を受けるというだけでは不十分です。男性の場合は、メルキゼデク神権を受けなければなりません。またすべての会員は神殿で永遠の結婚を含む神聖な聖約を交わし、守らなければなりません。

「救い」という言葉を永遠の命の意味で用いるならば、この現世ではだれ一人として救われていないということになります。この栄光^{たまたもの}に満ちた賜物は最後の裁きの後で初めて得られるもののなのです。

その他の参照聖句——マタイ10：22；マルコ16：16；エペソ2：8-10；ヤコブの手紙2：14-18；2ニーファイ25：23，26；モーサヤ5：8-15；3ニーファイ9：21-22；モロナイ10：32-33；信仰箇条1：3

「イエス・キリストの贖い^{あがな}」；「バプテスマ」；「永遠の命」；「恵み」；「栄光の王国」；「救いの計画」も参照

救いの計画

前世で、天の御父はわたしたちが御父に似た者となり、満ちみちる喜びを享受することができるよう一つの計画を立てられました。この計画は聖文の中で「救いの計画」（アルマ24：14；モーセ6：62），「偉大な幸福の計画」（アルマ42：8），「贖い^{あがな}の計画」（モルモン書ヤコブ6：8；アルマ12：30），「憐れみ^{あわ}の計画」（アルマ42：15）と呼ばれています。

救いの計画は完全な福音です。その中には、創造や墮落、イエス・キリストの贖い^{あがな}、ならびにすべての福音の律法と儀式と教義が含まれています。道徳的な選択の自由、すなわち選択し自分自身で行動する能力も天の御父の計画では不可欠です。この計画によって、わたしたちは贖いを通して完全となり、満ちみちる喜びを受け、神の前で永遠に住むことができます。わたしたちの家族関係が永遠に続くのもこの計画があるからです。

あなたも天の御父の計画に参加しているのです。永遠にわたって続くあなたの経験は、おもに3つの部分に分けることができます。前世、現世、そして死後の世界です。この計画を理解するにつれて、多くの人々が尋ねる質問「わたしたちはどこから来たのか」「なぜここにいるのか」「死んだ後どこへ行くのか」という質問に対する答えを見いだせます。

前世

この地上に生まれる前に、あなたは天の御父の霊の子供として御父のもとに住んでいました。この前世で、あなたは天の御父のほかの霊の子供たちとともにある会議に臨みました。この会議で、天の御父は偉大な幸福の計画を紹介されました（アブラハム3：22-26参照）。

幸福の計画に従い、御父の霊の長子であった前世のイエス・キリストは、救い主となることを聖約されました（モーセ4：2；アブラハム3：27参照）。天の御父とイエス・キリストに従った霊は、この地上に生まれ、現世の生活を経験し、永遠の命を目指して進歩することを許されました。神のもう一人の霊の子であったルシフェルはこの計画に反対し、「人の選択の自由を損なおうとし」ました（モーセ4：3）。ルシフェルはサタンとなり、サタンとサタンに従った霊は天から投げ落されました。そして、肉体を受けて現世の生活を経験するという特権を失いました（モーセ4：4；アブラハム3：27-28参照）。

前世の期間を通して、あなたは自分の個性をはぐくみ、霊的な資質を伸ばしました。選択の自由という賜物に恵まれて、例えば、天の御父の計画に従うときの決定のように、多くの大切な決定を下しました。これらの決定が前世と現世でのあなたの生活に影響を与えました。あなたの英知は増し加えられ、真理を愛することができるようになり、さらに進歩し続けることができるこの地上に来る備えができました。

救いの計画

現世の生活

今、あなたは現世の生活を経験しています。あなたの霊は肉体と結合し、前世では不可能だった方法で成長し、進歩する機会が与えられています。永遠の存在であるあなたにとって、この段階は学びの時、自分自身を証明し、キリストのもとに来ることを選択し、永遠の命を受けるにふさわしい人となるよう備える時です。また同時に、周囲の人々が真理を見いだし、救いの計画^{あかし}に関する証を得られるように助ける時でもあります。

死後の生活

あなたが死ぬと、あなたの霊は霊界に行き、復活を待ちます。復活すると、霊と肉体が再び結合し、裁かれ、栄光の王国のいずれかに受け入れられます。どの栄光を受け継ぐかは、あなたの改心の深さと主の戒めに対する従順の度合いによって決まります（「栄光の王国」の項、00〔92〕－00〔95〕参照）。またどのように「イエスの証^{あかし}を受け入れ」たかによって決まります（教義と聖約76：51。74，79，101節も参照）。

救いの計画を知ることによって得られる祝福

救いの計画について証^{あかし}があると、人生の試練に希望と目的をもって取り組むことができます。自分が神の子であり、この地上に生を受ける前に神のもとに住んでいたという知識があると慰められます。死すべき世での行いが永遠の行く末を左右することに気づくと、現在の生活に意味を見いだすことができます。このような知識があると、移ろいやすい日々の状況ではなく永遠の真理に基づいて大切な決定を下すことができます。家族との関係を絶えず改善し、家族が永遠に続くという約束に喜びを感じることができます。「義の業を行う者はその報いを受ける、すなわち、この世において平和を、また来るべき世^{きた}において永遠の命を受けるといこと」を知ると、贖い^{あがな}や主の戒め、儀式、聖約、教義についての証に喜びを見いだせます（教義と聖約59：23）。

その他の参照聖句——2ニーファイ2：5-30；10：23-25；アルマ12：24-37；22：12-14；42章；モーセ6：47-62

「選択の自由」；「イエス・キリストの贖い^{あがな}」；「創造」；「死（肉体の）」；「死（霊の）」；「墮落」；「父なる神」；「福音」；「天」；「地獄」；「イエス・キリスト」；「栄光の王国」；「パラダイス」；「復活」も参照

救われる（「救い」参照）

ステーク（「教会の管理」参照）

スミス, ジョセフ, ジュニア（「ジョセフ・スミス」参照）

正義

正義は行動に結果をもたらす不変の律法です。正義の律法があるからこそ、人は神の戒めを守ることによって祝福を受けます（教義と聖約130：21-22参照）。同時に、正義の律法は犯した罪のすべてに対して代償としての罰を受けるよう要求します。正義の律法があるために、清くない者は神とともに住むことができません（1ニーファイ10：21参照）。

贖い^{あがな}の業を成し遂げるに当たって、救い主は御自分の身にわたしたちの罪を引き受けてくださいました。救い主は「律法の目的を達する」ことがおできになりました（2ニーファイ2：7）。なぜなら、わたしたちの罪に対する代償として律法が要求する罰を救い主は御自身の身に引き受けられたからです。そうすることによって、救い主は「正義の要求を満た^{あわ}」し、悔い改めて救い主に従うすべての人々に憐れみを施されたのです（モーサヤ15：9；アルマ34：14-16参照）。救い主が罪の代価を支払ってくださったので、人は悔い改めて条件に罰を受けなくてもよくなりました（教義と聖約19：15-20参照）。

その他の参照聖句——2ニーファイ9：26；アルマ42章

「イエス・キリストの贖い^{あがな}」；「憐れみ^{あわ}」；「悔い改めて」も参照

聖餐

聖餐

イエス・キリストは十字架にかけられる前日の夜、使徒たちと集会を持たれ、^{せいさん}聖餐を確立されました。「パンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。』食事ののち、^{さかずき}杯も同じ様にして言われた、『この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。』」（ルカ22：19-20）復活の後、イエス・キリストはニーフアイ人を訪れ、そこでも聖餐を確立されました（3ニーフアイ18：1-11 参照）。

^{こんにち}今日、わたしたちはイエス・キリストの^{あがな}贖いの犠牲を記念してパンと水を取ります。この儀式はわたしたちの礼拝と霊的成長にとって不可欠の要素です。^{せいさん}聖餐の意味は深く考えれば考えるほど、その神聖さが増します。

救い主とその^{あがな}贖いを覚える

^{せいさん}聖餐は、神の御子の生涯と使命、そして^{あがな}贖いについて思い出し感謝する機会を与えてくれます。

裂かれたパンは、イエス・キリストの体の記念です。主の肉体的な苦しみ、特に十字架上的の苦しみに思いをはせることができます。イエス・キリストの^{あわ}憐れみと恵みによって、すべての人々が復活し、神とともに永遠に住む機会を与えられます。

小さなカップに入った水は、救い主がゲツセマネの園に始まる激しい霊的な苦悶の中で流された血の記念です。ゲツセマネの園で主はこう言われました。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。」（マタイ26：38）。御父の^{みこころ}御心に従うために、主はわたしたちの理解を超えた苦しみを受けられました。「御自分の民の悪事と忌まわしい行いのためにこの御方が受けられる苦しみは非常に激しく、あらゆる毛穴から血が流れ出るほど〔でした。〕」（モーサヤ3：7）イエス・キリストが御自分の血を流されたことにより、あなたを含むすべての人々を、聖文で用いられている表現に従えば、アダムの背きによ

る「原罪」から救われたことを記念することができます（モーセ6：54）。また、救い主が御父のすべての子供たちの罪と悲しみと苦痛を受けられ、悔い改めて福音に従った生活を送る人々に罪の赦しを与えることを記念することができます（2ニーファイ9：21-23参照）。

聖約と約束された祝福を更新する

わたしたちは聖餐せいさんを受けるときに、神の御子を記念する自分たちの行為が、この神聖な儀式の行われる短い時間を超えて続くことを神に証明します。いつも御子を覚えることを約束します。進んで御子の御名みなを受けること、御子の戒めを守ることを証明します。聖餐を取り、これらのことを決意するときに、バプテスマの聖約を更新します（モーサヤ18：8-10；教義と聖約20：37参照）。

バプテスマの聖約を守るとすばらしい祝福が与えられます。この聖約を更新すると、主も約束した罪の赦しゆるを更新していただきます。罪から清められると、「いつも御子の御霊みたまを受けられるように」なります（教義と聖約20：77）。いつも御霊を受けられるということは、現世で得られる最大の賜物たまものの一つです。御霊は人が義と平安の道、天の御父とイエス・キリストとの永遠の生活へと続く道を歩むときに導き手として働きます。

ふさわしい状態で取る

毎週、聖餐せいさんに備えて、自分の生活を吟味し、罪を悔い改めるための時間を取ってください。聖餐を受けるために完全である必要はありませんが、心の中にへりくだり悔い改める気持ちがなくてはなりません。毎週、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって聖餐を受けられるように備える必要があります（3ニーファイ9：20参照）。

敬虔けいけんかつ厳肅な態度で臨むに値する聖餐せいさんですが、そのような態度で臨むならば、聖餐は週に1度の、内省と悔い改めの機会となり、自らをささげようという決意を新たにする機会となります。力の源、救い主の贖いあがなを絶えず思い出させてくれるきっかけとなるのです。

その他の参照聖句——1コリント11：23-29；モロナイ4-5章；教義と聖約

聖餐会

20：75－79；27：2

「イエス・キリストの贖い^{あがな}」；「聖約」も参照

聖餐^{せいさん}会（「安息日」；「聖餐^{せいさん}」；「犠牲」参照）

聖書（「聖文」参照）

性的不道徳（「純潔」参照）

政 府（「市民の政府と法律」参照）

聖文

神の聖なる人々が聖霊の力によって書いたり、語ったりした言葉は「聖文となり、主の心となり、主の思いとなり、主の言葉となり、主の声となり、救いを得させる神の力とな〔ります。〕」（教義と聖約68：4）。教会が公式の聖典として認めている聖文は、しばしば標準聖典と呼ばれますが、それらは聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠です。これらの聖典については00〔156〕－00〔159〕に記されています。

日々の聖文研究の大切さ

聖文のおもな目的は、キリストについて証^{あかし}すること、キリストのもとに来て、永遠の命を受けられるように人を助けることです（ヨハネ5：39；20：31；1ニーファイ6：4；モーサヤ13：33－35参照）。預言者モルモンはこう証しています。

「望む者はだれでも、神の言葉を手に入れることができる……。この神の言葉は生きていて力があり、悪魔の悪知恵とわなと策略をことごとく断つ。また、悪人をのみ込むために備えられている、あの不幸の永遠の淵を横切る狭くて細い道にあって、キリストの人を導き、

また彼らを、まことに彼らの不滅の霊を天の王国におられる神の右に至らせ、もはや外に出されることなく、アブラハム、イサク、ヤコブ、およびわたしたちのすべての聖なる先祖とともに座に着か

せるものである。」(ヒラマン3：29-30)

末日の預言者は、個人としても、家族としても、聖文を毎日研究するようにという勧告を与えています。ニーファイが兄弟たちに勧めたように、聖文を自分たちになぞらえ、神聖な古代の記録を今日こんにちの自分の生活にどのように当てはめればよいか考えるように勧めています(1ニーファイ19：23-24参照)。「聖文を調べ」(欽定訳ヨハネ5：39から和訳)、「キリストの言葉をよく味わう」(2ニーファイ32：3)ように勧告しています。

この勧告に従えば多くの恵みを受けることができます。日々、有意義な聖文を研究することにより、聖霊のささやきに対して敏感になることができます。信仰を築き、誘惑に対する防備を固め、天の御父とその愛する御子に近づくことができます。

聖文の個人学習計画を立ててください。毎日ある程度の時間を割いて聖文を研究することについて検討してください。その時間を使って、聖文を熟読し、御霊みたまの導きに耳を傾けてください。天の御父が自分に学び、実行してほしいと思っておられることを理解できるように御父に尋ねてください。

生涯にわたって聖文、特にモルモン書を読み続けてください。人生の様々な段階で聖文を学ぶときに、そこに秘められた宝を幾度となく再発見し、新たな意味と応用の仕方を見いだすことでしょう。

結婚している場合には、毎日、家族として聖文を読むための時間を取ってください。このような努力を続けるのは難しいことかもしれませんが、すばらしい永遠の結果をもたらします。御霊みたまの導きの下で、自分の家族の必要を満たす聖文研究計画を立ててください。幼い子供たちに聖文を読んで聞かせることをためらわないでください。神聖な記録の言葉には、幼い子供たちをも感動させる力があるからです。

聖書

聖書は旧約聖書と新約聖書の二つの部分から成っています。旧約聖書は聖地における聖約の民に対する神の導きについての神聖な記

聖文

録です。この記録にはモーセ、ヨシュア、イザヤ、エレミヤ、ダニエルといった預言者の教えが記されています。そして新約聖書には、救い主の降誕、地上での教導の業、贖い^{あがな}について記録されています。救い主に従った弟子たちの働きについても記されています。

聖書は何回も翻訳されているため、様々な版で印刷されています。英語の場合は、欽定訳聖書が教会の聖典として受け入れられています。

末日聖徒イエス・キリスト教会では、聖書とそこに記された神聖な教えを尊んでいます。神のその民に対する導きに関する聖書の記録から、わたしたちは力と慰めを受けることができます。

モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証^{あかし}

モルモン書は主の御心^{みこころ}によってこの神権時代に出現しました。それは古代アメリカ大陸の住民に対する神の導きの記録です。主の預言者は元の記録を金板に記しました。主御自身が、モルモン書の中には「イエス・キリストの完全な福音」が記されていると宣言されました（教義と聖約20：9。教義と聖約42：12も参照）。

1827年9月22日、モルモン書最後の預言者であったモロナイという名の天使が、預言者ジョセフ・スミスにこれらの記録を託しました。神の賜物^{たまもの}と力によって、預言者ジョセフはこの記録を英語に翻訳しました。それ以来、モルモン書はほかの多くの言語に翻訳されています。

モルモン書のおもな目的は、すべての人々に「イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されること」を確信させることです（モルモン書、タイトルページ）。モルモン書はすべての人が「救い主のみもとに來なければならず、そうしなければ救われないこと」を教えてください（1ニーファイ13：40）。ジョセフ・スミスは、モルモン書は「わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」と語っています（モルモン書、序文）。

モルモン書は聖書で教えられている真理についてのもう一つの証^{あかし}です。それは翻訳の誤りによって聖書から失われた、あるいは「主の正しい道を曲げ……る」目的で「取り去〔られ〕」た「分かりやすくて貴い」真理を回復するものでもあります（1ニーファイ13：24－27、38－41参照）。聖書とモルモン書は「一つに合わされて、偽りの教義を打ち破り、争いを鎮め、……平和を確立し」ます（2ニーファイ3：12）。

モルモン書の終わりの方で、預言者モロナイは、この書物が真実であることをどのようにして知ることができるか教えています。「この記録を受けるとき、これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。」（モロナイ10：4。3節と5節も参照）。

教義と聖約

教義と聖約には、預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示が収められています。そこには、末日におけるほかの預言者に与えられた啓示も幾つか含まれています。この聖典は、古代の文書の翻訳ではないという点で、特異な聖典です。それは主がその選ばれた末日の預言者たちに与えられた啓示を集めたものです。

預言者ジョセフ・スミスは、教義と聖約は「この終わりの時ににおける教会の基であり、世に益をもたらしものであって、わたしたちの救い主の王国の奥義の鍵^{かぎ}が再び人に託されたことを示すものである」と語っています（教義と聖約70章前書き）。

高価な真珠

高価な真珠にはモーセ書、アブラハム書、マタイによる福音書第24章のジョセフ・スミス靈感訳、ならびにジョセフ・スミスの幾つかの著作が含まれています。

モーセ書は聖書のジョセフ・スミス靈感訳からの短い抜粋です。

聖約

それは旧約聖書の創世記の冒頭にあるモーセの書いたものよりも完全な記録です。そこには、聖書から失われた多くの教義と教えが収められ、救いの計画、地球の創造、アダムとエノクに対する主の導きについてのさらなる情報が記されています。

アブラハム書は、パピルスに記され、1835年に教会の所有となった古代の記録の翻訳です。預言者ジョセフ・スミスはこの記録を啓示によって翻訳しました。この書物には、天上の会議、地球の創造、神の属性、神権についての真理が含まれています。

ジョセフ・スミスマタイは、救い主の再臨に関する救い主御自身の教えについて、わたしたちの知識を増し加える^{あらわ}るものです。

高価な真珠に収められているジョセフ・スミスが著した聖文には以下のものが含まれます。

「ジョセフ・スミス—歴史は預言者が書いた教会の歴史からの抜粋です。それは最初の示現、預言者ジョセフへのモロナイの訪れ、金版の入手、アロン神権の回復を含め教会の回復に至るまでの一連の出来事を記したものです。

「信仰簡条は、預言者ジョセフ・スミスが教会の基本的な信条と教義について記したものです。

その他の参照聖句——ローマ15：4；2テモテ3：15-17；2ニーファイ25：26；アルマ17：2-3；3ニーファイ23：1-5；教義と聖約18：33-36；信仰簡条1：8

「預言者」；「福音の回復」；「啓示」も参照

聖 約

聖約とは神と人または一団の人々との間で交わされる神聖な合意のことです。神は特定の条件を定めて、人がその条件に従うならば祝福を与えると約束されています。戒めを守らなければ、祝福を受けることはできず、場合によっては不従順の結果としての罰を受けます。

人に救いを得させるすべての神権の儀式には必ず聖約が伴います。

例えば、あなたはバプテスマを受けたときに聖約を交わし、^{せいさん}聖餐を受ける度にこの聖約を更新します（モーサヤ18：8-10；教義と聖約20：37，77，79参照）。メルキゼデク神権を受けているのならば、神権の誓詞と聖約を結んだはずで（教義と聖約84：33-44参照）。神殿のエンダウメントと結び固めの儀式にも神聖な聖約が含まれています。

いつも主と交わした聖約を覚え、尊んでください。そうすれば、何をするにも命令されるという必要はなくなることでしょう（教義と聖約58：26-28参照）。聖霊から霊的な促しを受け、キリストのような行いが自分の性質の一部となることでしょう。主が約束されているように、「啓示の上に啓示を、知識の上に知識を受けて、数々の奥義と平和をもたらす事柄、すなわち喜びをもたらす永遠の命をもたらすものを知ることができるようになるで〔しよ〕う。」（教義と聖約42：61）あなたにとって最大の希望は、この神聖な導き^{きよ}からもたらされる聖めを享受することであり、最大の恐怖はこれらの祝福を取り上げられることであるべきです。

その他の参照聖句——エレミヤ31：31-34；モーサヤ5章；モロナイ10：33；教義と聖約82：10；97：8；98：13-15

「アブラハムの聖約」；「バプテスマ」；「結婚」；「儀式」；「神権」；^{せいさん}「聖餐」；「神殿」も参照

聖 霊

聖霊は神会の第三の御方です。霊の御方であり、骨肉の体は持っておられません（教義と聖約130：22参照）。聖霊はしばしば^{みたま}御霊、聖なる御霊、神の御霊、主の御霊、あるいは慰め主と呼ばれます。

聖霊の役割

聖霊は天の御父、イエス・キリストと完全に一致して働き、人が義になかった生活を送り、福音の祝福を受けられるように幾つかの役割を果たされます。

聖霊は「御父と御子について証^{あかし}をされ」ます（2ニーファイ31：18）。

聖霊

また、「すべてのことの真理」を明らかにし、お教えになります（モロナイ10：5）。聖霊の力によらずに天の御父とイエス・キリストについての確かな証を得ることはできません。聖霊から人の霊に伝えられる情報は、肉体的な感覚を通して得られるいかなる情報よりもはるかに深い確信をもたらします。

人が永遠の命に至る道にとどまろうと努力するときに、聖霊は「あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示され」ます（2ニーファイ32：1-5参照）。人が決定を下すときに聖霊は人を導き、肉体的、霊的な危険から守ることがおできになります。

聖霊を通して、人は自分と自分の愛し仕える人に恵みをもたらす御霊^{み たま たまもの}の賜物を受けることができます（教義と聖約46：9-11参照）。

聖霊は慰め主です（ヨハネ14：26）。愛にあふれる親の優しい声が泣く子をなだめるように、御霊^{み たま}のささやきは恐れを静め、心をさいなむ人生の不安を解消し、悲しむときに慰めを与えてくれます。聖霊は人の心を「希望と完全な愛」で満たし、「平和をもたらす事柄をあなたに教え」てくださいます（モロナイ8：26；教義と聖約36：2）。

悔い改め、バプテスマと確認の儀式を受け、聖約を続けて守るときに、人は聖霊の力を通して聖め^{きよ}られます（モーサヤ5：1-6；3ニーファイ27：20；モーセ6：64-68参照）。

聖霊は約束の聖なる御霊^{み たま}です（エペソ1：13；教義と聖約132：7、18-19、26参照）。この力によって聖霊は、施された神権の儀式と交わされた聖約が神に承認されるように結び固めてくださいます。あなたが忠実であるかぎり、この承認は効力があります。

聖霊^{たまもの}の賜物

真理を真心から求める人はだれでも、イエス・キリストとその福音に人々を導く聖霊の影響力を感じることができます。しかし、聖霊を通して授けられる満ちみちる祝福を受けることができるのは、聖霊^{たまもの}の賜物を受け、常にふさわしい生活をする人だけです。

末日聖徒イエス・キリスト教会に入るためのバプテスマを受けた後に、一人またはそれ以上のメルキゼデク神権者がその人の頭に手

を置き、聖なる神権の儀式の中で、その人を教会の会員に確認します。確認と呼ばれるこの儀式の一部として、聖霊の賜物が授けられます。

聖霊の賜物は聖霊の影響力とは異なります。人はバプテスマを受ける前に、聖霊の影響力を感じることがあります。この影響力を通して、真理に関する証を得ることができるのです。しかし、聖霊の賜物を授けられた人は、戒めを守っているかぎり、神会の御一方である聖霊を常に伴侶とする権利を有します。

聖霊の賜物を十分に享受することには、啓示と慰めを受けること、御霊の賜物を用いて人に奉仕し、祝福をもたらすこと、罪から聖められ、日の栄えの王国に昇栄するふさわしさを得ることが含まれます。これらの祝福を受けられるかどうかはその人のふさわしさに懸かっています。またこれらの祝福はその人に備えができたときに少しずつ与えられるものです。人がその生活を神の御心に調和させるにつれて、徐々にではありますが豊かに聖霊を受けるようになります。預言者ジョセフ・スミスは神の王国の奥義について「神を愛し、神の前に自らを清くする者に神が授けてくださる聖なる御霊の力によってのみ、目にし、理解することのできるもの」と宣言しています（教義と聖約76：114－116参照）。

「主の御霊は清くない宮にはとどまらない」ということを忘れないでください（ヒラマン4：24）。たとえ聖霊の賜物を受けたとしても、御霊がとどまるのはその人が戒めを守っているときだけです。神への冒瀆、道徳的に清くないこと、不従順、反抗、あるいはそのほかの罪によって聖霊を汚すならば、聖霊は退いてしまわれます。いつも清くあってください。常に聖霊を伴侶とするふさわしさを維持できるように、日々の生活を善なるもので満たしてください。

その他の参照聖句——マタイ3：11；ヨハネ15：26；16：13；使徒2：38；8：12－17；19：1－6；1コリント2：9－14；12：3；ガラテヤ5：22－23；1ニーファイ10：17－19；2ニーファイ31：17；教義と聖約8：2－3；39：20－24；68：25－28；121：46；信仰簡条1：4

「バプテスマ」；「神会」；「^{あんしゅ}按手」；「啓示」；「^{たまもの}霊的な賜物」も参照

聖霊の賜物

聖霊^{たまもの}の賜物（「聖霊」参照）

前 世（「救いの計画」参照）

戦 争

主は、終わりの時には「戦争と戦争のうわさが聞かれ、全地が混乱し、人々は気落ちするであろう」とおっしゃっています（教義と聖約45：26）。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちは平和を愛する民です。平和の君である救い主に従います。主の統治される福千年を心待ちにしています。そのときには戦争はやみ、地上に平和が回復されるからです（イザヤ2：4参照）。しかしながら、この世界では、政府の指導者が自分たちの国と理想を守るため、戦地に派兵することも事実です。

軍務に就いている末日聖徒は国と神の間で板挟みになって迷う必要はありません。教会では、「わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律を守り、尊び、支えるべきことを信じ」ています（信仰箇条1：12）。軍務に就くことはこの原則に対する献身を表すのです。

末日聖徒で戦地に赴くよう要請された場合に、モルモン書に登場する偉大な軍の指導者、司令官モロナイの模範^{なら}に倣うことができます。モロナイは勢いのある戦士でしたが、「流血を喜ばない」人でした（アルマ48：11）。また「確固としてキリストを信じた」人であり、戦う唯一の理由は「自分の民と、自分の権利と、自分の国と、自分の宗教を守る」ためでした（アルマ48：13）。末日聖徒であって戦地に赴かなければならない場合には、善を行う望みを持ち、真理と正義の精神を掲げて出て行くべきです。敵側も含め、神のすべての子供たちに対する愛を胸に抱いて出て行くべきです。たとえ相手の血を流すよう求められることがあったとしても、その行為は罪と見なされません。

「国の政府と法律」；「平和」も参照

選択の自由

天の御父は人に選択の自由、自分自身で選び行動する能力をお授けになりました。選択の自由は救いの計画に不可欠な要素です。選択の自由がなければ、学習することも、進歩することも、救い主に従うこともできなくなります。選択の自由があるので、人は「すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に应じて束縛と死を選ぶことも自由」なのです(2ニーファイ2：27)。

選択する力は、生まれるはるか以前から人に備わっていました。前世において開かれた天上の会議で、天の御父は御自身の計画を明らかにされました。その計画の中に選択の自由の原則も含まれていました。ルシフェルは反乱を起こし、「人の選択の自由を損なおうとし」ました(モーセ4：3)。その結果、ルシフェルと彼に従ったすべての霊は現世で肉体を受ける特権を剥奪はくだつされました。あなたがこの地上に存在することは、あなたが自らの選択の自由を行使して天の御父の計画に従ったことを確認するものです。

現世でも、あなたは選択の自由を持ち続けます。そしてこの賜物たまものの使い方次第で、現世と来世におけるあなたの幸不幸が決定します。選択し行動するのは自由ですが、行動の結果を自由に選ぶことはできません。即座に結果は出ないかもしれませんが、後から必ず出ます。善と正義を選べば幸福、平安、そして永遠の命を得ますが、罪と悪を選べば最終的には苦悩に満ちた悲惨な生活が待っています。

あなたは自分の下す様々な決定に対して責任があります。自分の選びで神の戒めに従わない場合、それを環境や家族、友人のせいにすることはできません。あなたは誘惑に打ち勝つ偉大な力を秘めた神の子なのです。どのような環境にあったとしても正義と幸福を選ぶ能力が備わっているのです。

天の御父から授かった能力と才能を伸ばすのもあなたの責任です。あなたは自分に与えられた能力を使って何をしたか、自分に与えられた時間をどのように使ったか御父に報告する義務があります。時間を無駄に過ごさないでください。自分から進んで一生懸命努力し

創造

てください。自由意志を使って多くの善いことを行ってください。

その他の参照聖句——申命11：26-28；30：15-20；ヨシュア24：14-15；2
ニーファイ2章；ヒラマン14：30-31；教義と聖約58：26-28；101：78

「従順」；「救いの計画」；「誘惑」も参照

創 造

天の御父の指示の下に、イエス・キリストは天と地を創造されました（モーサヤ3：8；モーセ2：1参照）。預言者ジョセフ・スミスを通して啓示された聖文から、創造の業において、主はすでに存在していた元素を組織されたことが知らされています（アブラハム3：24参照）。一部の人たちが信じているように、主は「無から」世界を創造されたものではありません。

聖文はアダムが「すべての人の最初の者」であることも教えてくれます（モーセ1：34）。神はアダムとエバを御自分と独り子の形に創造されました（モーセ2：26-27参照）。

創造は天の御父の救いの計画に不可欠の要素です。創造によってわたしたち一人一人が地球に来て、肉体を授かり、選択の自由を行使する機会に恵まれるからです。前世で開かれた神々の会議で、次の宣言が発表されました。「あそこに空間があるので、わたしたちは降^{くだ}って行こう。そして、これらの材料を取って、これらの者が住む地を造ろう。そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」（アブラハム3：24-25）

あなたは神の霊の子供であり、あなたの肉体は神の形に創造されたものです。これらの祝福に対する感謝の気持ちを表すには、知恵の言葉やそのほかの霊と肉体の健康に関連した戒めに従うことによって、自分の体を大切にすることです（教義と聖約89章参照。教義と聖約88：124も参照）。またほかの人々を神の子供として尊敬することもできます。

創造からもたらされるあらゆる美の恵みを受けている者として、地球を大切にし、将来の世代のために良い状態に保つ手助けができ

ます。

その他の参照聖句——創世1-2章；ヘブル1：1-2；1ニーファイ17：36；教義と聖約38：1-3；59：16-20；モーセ1-3章；アブラハム4-5章

「父なる神」；「イエス・キリスト」；「救いの計画」も参照

大管長会（「教会の管理」；「預言者」参照）

墮胎

今日の社会において、墮胎はまやかしの議論に擁護され一般的に広く容認されています。この件に関して問題に直面したときには、啓示された主の御心みこころに従うことで確信を得ることができます。末日の預言者たちは「あなたは……殺してはならない。これに類することをしてはならない」という主の宣言に基づいて墮胎に公然と反対してきました（教義と聖約59：6）。この件に関する預言者たちの勧告にあいまいな点は一切ありません。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は墮胎手術を受けたり、実施したり、勧めたり、費用を支払ったり、手配したりしてはなりません。どのような方法であれ、墮胎を勧める人は、教会宗紀上の処置そうかんを受けることになるでしょう。

教会の指導者は例えば、近親相姦や暴行による妊娠の場合、母体の生命や健康が重大な危機にさらされていると資格ある医療機関によって判断された場合、あるいは胎児に重大な障害があって誕生後も生き延びる可能性がないと資格ある医療機関によって確認された場合など、幾つかの例外的な状況を除いて、墮胎は正当化できないと語っています。しかし、これらの例外的な状況であっても、墮胎が自動的に正当化されるわけではありません。たとえこのような状況に直面している人であっても、地元の教会の指導者と相談し、熱心な祈りを通して神からの確認を得てからでなければ、墮胎を考えるべきではありません。

結婚生活によらず妊娠した場合、最良の選択は子供の親同士が結婚し、永遠の家族関係を確立するために努力することです。しかし、実りある結婚生活を築ける可能性が薄い場合、できれば末日聖徒社

たばこ

会福祉課を通して、子供を養子に出すべきです（「養子」[7-8] 参照）。

たばこ（「知恵の言葉」参照）

魂

聖文では、「魂」という言葉は二つの意味で用いられています。第1に、死すべき状態であれ、復活後であれ、肉体と結合されている霊を魂と呼びます（教義と聖約88：15-16参照）。第2に、わたしたちの霊を魂と呼ぶことがあります（アルマ40：15-18；アブラハム3：23参照）

「救いの計画」；「復活」；「霊」も参照

墮落

エデンの園で、神はこう命じられました。「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし、善悪を知る木からは取って食べてはならない。それでも、あなたは自分で選ぶことができる。それはあなたに任されているからである。しかし、わたしがそれを禁じたことを覚えておきなさい。あなたはそれを食べる日に、必ず死ぬからである。」（モーセ3：16-17）アダムとエバはこの戒めに背き、善悪を知る木の実を食べたので、主のもとから追い出されました（教義と聖約29：40-41参照）。言い換えれば、霊の死を経験したのです。また彼らは死すべき状態、すなわち肉体の死に支配される者となりました。この霊と肉体の死を墮落と呼びます。

わたしたちの墮落した状態

アダムとエバの子孫であるわたしたちは、現世の期間、墮落した状態を受け継いでいます（アルマ42：5-9，14参照）。わたしたちは主のもとから絶たれ、肉体の死に支配される者となりました。また反対のものが存在する状態に置かれ、人生の苦難とサタンの誘惑によって試されます（2ニーファイ2：11-14；教義と聖約29：39；モ

一セ6：48-49参照)。

この墮落した状態で、わたしたちは心の葛藤^{かつとう}を経験します。わたしたちは神の霊の子供であり、「神の性質にあずかる者」となる可能性を秘めています(2ペテロ1：4)。しかし、「わたしたち〔は神〕の御前^{みまへ}に取るに足りない者で……す。墮落のために、わたしたちの性質は絶えず悪くなっています。」(エテル3：2) わたしたちは邪悪な熱情や欲望に打ち勝つ努力を続ける必要があります。

天使の言葉を反復し、ベニヤミン王はこう語りました。「生まれながらの人は神の敵であり、アダムの墮落以来それで〔した。〕」ベニヤミン王は、人がこの生まれながらの、すなわち墮落した状態にとどまるなら、皆、永遠に神の敵になるであろう、と警告^{しよくさい}しました。「人〔が〕、聖なる御霊^{みたま}の勧めに従い、主なるキリストの贖罪^{しよくざい}により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和^{けんそん}で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従わないかぎり」そうなる、と語ったのです。(モーサヤ3：19)

墮落からもたらされた恵み

墮落は天の御父の救いの計画にとって不可欠の要素です(2ニーファイ2：15-16；9：6参照)。墮落には二つの方向性があります。下向きと上向きです。墮落によって肉体と霊の死だけでなく、この世に生を受け、学び、進歩する機会が与えられました。選択の自由を義になかった形で行使し、罪を犯したときに心から悔い改めることによって、わたしたちはキリストのもとに来て、キリストの贖い^{あがな}によって永遠の命の賜物^{たまもの}を受ける備えができます。預言者リーハイは次のように教えています。

「アダムがもし背かなかったならば、彼は墮落をせずにそのままエデンの園にいたであろう。そして創造されたすべてのものは、創造された後の状態そのままで存続したに違いない。また、すべてのものはとこしえに存続し、終わりがなかったに違いない。

墮落

そして、アダムとエバは子供を持たなかったであろう。また、不幸を知らないので喜びもなく、罪を知らないので善も行わず、罪のない状態にとどまっていたであろう。

しかし見よ、すべての物事は、万事を御存じである御方の知恵によって行われてきた。

アダムが墮落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るためである。

そして時が満ちると、人の子らを墮落から贖^{あがな}うためにメシヤが来られる。」(2ニーファイ2：22-26。19-21，27節も参照)

アダムとエバは墮落の結果もたらされた祝福に対する感謝の気持ちを次のように表現しています。

「アダムは神をたたえ、満たされて、地のすべての氏族について預言し始めて言った。『神の御名^{みな}がたたえられるように。わたしの背きのゆえに、わたしの目は開かれた。わたしはこの世で喜びを受け、再び肉体にあって神にまみえるであろう。』

彼の妻エバは、これらすべてのことを聞き、喜びながら言った。『わたしたちの背きがなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、贖^{あがな}いの喜びも、神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命も、決して知ることはなかったでしょう。』」(モーセ5：10-11)

墮落からの贖^{あがな}い

墮落し死すべき状態と個人の罪のために、わたしたちの唯一の希望は、イエス・キリストと贖^{あがな}いの計画の中にあります。

イエス・キリストの贖^{あがな}いを通して、すべての人が墮落の影響から贖われます。わたしたちは復活し、主のもとに戻り、裁きを受けます(2ニーファイ2：5-10；アルマ11：42-45；ヒラマン14：15-17参照)。

救い主はわたしたちを普遍的な墮落の影響から贖^{あがな}うだけでなく、わたしたち個人の罪から贖う力も持っておられます。墮落した状態で、わたしたちは罪を犯し、主から自分自身を遠ざけ、自分自身で

霊の死を招いています。使徒パウロが語ったように、「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって〔います。〕」（ローマ3：23）わたしたちは罪の中にとどまっているならば、神の前に住むことができません。なぜなら「清くない者は……神の前に住むことができない」からです（モーセ6：57）。ありがたいことに、贖いは「悔い改めの条件を果たし」（ヒラマン14：18）、わたしたちが罪の赦しを受け、神の前に住むことを可能にしてくれるのです。アルマはこう教えています。「人が悔い改めることができるように、猶予期間が与えられた。したがって、この世の生涯は試しの状態、すなわち神にお会いする用意をする時期、わたしたちが前に語った死者の復活後に訪れるあの無窮の状態に対して用意をする時期となった。」（アルマ12：24）

救い主の^{あがな}贖いの犠牲に対する感謝

空腹になるまでは食物を望む気持ちがありません。のどが乾くまでは飲み物を望む気持ちがありません。同様に、救い主の必要性を認識するまでは永遠の救いを望む気持ちがありません。墮落を理解するようになると、その必要性を認識するようになるのです。預言者リーハイはこのように^{あがな}教えています。「すべての人類は、迷い墮落した状態にあり、この贖い主に頼らなければいつまでも同じ状態にある……。」（1ニーファイ10：6）

その他の参照聖句——創世3章；モルモン9：12－14；モーセ4章

「選択の自由」；「イエス・キリストの^{あがな}贖い」；「原罪」；「救いの計画」；「罪」も参照

断食と断食献金

断食とは自分の意志で、ある一定の期間、食べ物と飲み物を取らないことを言います。心からの祈りを伴うときに、あなたの断食は神の祝福を受けられるように自分自身と周囲の人々を備える助けとなります。

断食の目的

あるとき、救い主は一人の子供から悪魔を追い払い、その経験を通して弟子たちに祈りと断食の力について教えられました。弟子たちは次のように救い主に尋ねました。「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか。」イエスは答えられました。「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかって『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう。〔しかし、このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない。〕」（マタイ17：14-21参照）

この話は、神権の祝福を与える人およびそれを受ける人が祈りと断食により力を増し加えられることを教えてくれます。またこの話は福音に従った生活を送ろうとするあなたの個人的な努力にも応用できます。自分に弱点や罪があり、その弱点や罪を克服しようと懸命に努力している場合、自分が求めている助けや赦しを受けるために断食し祈る必要があるかもしれません。キリストが追い出された悪魔のように、あなたの問題も祈りと断食を通してのみ解決する性質のものかもしれません。

断食は様々な目的で行うことができます。断食は神を礼拝し、神に感謝を表す方法の一つです（ルカ2：37；アルマ45：1参照）。病人や苦しんでいる人を祝福してくださるよう天の御父に祈り求めるときに断食をすることができます（マタイ17：14-21参照）。断食はあなたとあなたの愛する人々が個人的な啓示を受け、真理に改宗するのに役立ちます（アルマ5：46；6：6参照）。断食を通して、誘惑に打ち勝つ力を得ることができます（イザヤ58：6参照）。神の前にへりくだり、イエス・キリストに対する信仰を行使しようと懸命に努力するとき断食をすることができます（オムナイ1：26；ヒラマン3：35参照）。福音を分かち合い、教会の召しを尊んで大いなるものとするための導きを受けるために断食をすることができます（使徒13：2-3；アルマ17：3，9；3ニーファイ27：1-2参照）。断食は義

にかなった悲しみや嘆きを伴うことがあります（アルマ28：4-6；30：1-2参照）。

断食日曜日

教会は、通常第1日曜日ですが、毎月1回の日曜日を断食の日と定めています。断食日の正しい守り方には、続けて2食分の食べ物と飲み物を断つこと、断食証会^{だんじきあかしかい}に出席すること、助けの必要な人の世話をするために役立つ断食献金をささげることが含まれます。

断食献金は少なくとも断食した2食分に相当する金額とすべきです。可能ならば、惜しみなくさらにこの額以上を差し出してください。

教会の指導者によって設けられた断食日を守ることに加えて、自分自身の必要や周囲の人々の必要に応じて、ほかの日にも断食することができます。しかし、あまりにも頻繁に、あるいは長期間にわたって度を越えた断食をすべきではありません。

真の断食

山上の垂訓で、イエスは真の断食について教えられました。「断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しく」して断食をする偽善者を責められたのです。これ見よがしに義人であるかのように振る舞うよりもむしろ「隠れた所においてになるあなたの父に知られるため〔断食すべきです。〕そうすれば、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さ〔います。〕」（マタイ6：16-18）。

預言者イザヤも断食の真の精神について教えました。「わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。」（イザヤ58：6-7）

さらにイザヤは断食の律法を守るときにもたらされる祝福について

地域幹部七十人

でも証あかししました。「そうすれば、あなたの光が暁あかつきのようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。もし、あなたの中からくびきを除き、指をさすこと、悪い事を語ることを除き、飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のようになる。主は常にあなたを導き、良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ、あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように、水の絶えない泉のようになる。」（イザヤ58：8－11）

その他の参照聖句——3ニーファイ13：16－18；教義と聖約59：12－14；88：76，119

「祈り」も参照

地域幹部七十人（「教会の管理」参照）

知恵の言葉

知恵の言葉は肉体と霊のために主から啓示された健康の律法です。教義と聖約第89章に記録されているこの啓示の中で、主はわたしたちに、どのような種類の食物が体に良いのか、どのような物質がわたしたちの体に良くないのかを教えておられます。主は知恵の言葉に従う人に霊的また肉体的な祝福を約束しておられます。

知恵の言葉の中で、主は以下の物質を体内に摂取しないようにと命じておられます。

；アルコール性飲料（教義と聖約89：5－7参照）。

；たばこ（教義と聖約89：8参照）。

；茶とコーヒー（教義と聖約89：9参照。末日の預言者はこの「熱い飲み物」とは茶、コーヒーを指すと教えている）。

人が意図的に体内に取り入れるいかなる有害な物質も、知恵の言

薬とは調和しません。特に、依存症になった人々を破滅させる違法な薬物の場合がそうです。これらの物に決して近寄らないでください。試してみようと思わないでください。処方薬の乱用も破壊的な依存症に結びつきます。

主は以下の食物は体のためになると宣言しておられます。

；「思慮分別と感謝をもって」用いるべきものである野菜と果物（教義と聖約89：10－11参照）。

；「獣の肉と空の鳥の肉……これらは控えめに用いなければならぬ。」（教義と聖約89：12－13参照）

；「命の糧」である小麦，米，大麦のような穀物（教義と聖約89：14－17参照）。

知恵の言葉を守ることによる祝福

知恵の言葉を守る人々に対して、主は次のように約束しておられます。

「これらの言葉を守って行うことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、そのへそに健康を受け、その骨に髓を受けるであろう。

また、知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。

また、走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない。

また、主なるわたしは彼らに一つの約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを過ぎ越して、彼らを殺すことはない。」（教義と聖約89：18－21）

常習癖を克服する

最善策は、主が知恵の言葉で禁じられた物質を完全に避けるという方法です。しかしたとえこれらの物質のいずれかに対してすでに常習癖があったとしても、その常習癖から抜け出すことができます。個人的な努力、主の恵みによりもたらされる、不可能を可能にする

父なる神

力、家族と友人の助け、教会の指導者の導きによって常習癖を克服することができます。

助けを祈り求めてください。常習癖から来る誘惑に打ち勝つことができるように全力を尽くしてください。天の御父は知恵の言葉を守ることによってもたらされる祝福を受けてほしいと思っておられ、心から知恵の言葉を守ろうと努力する人を強めてくださいます。

その他の参照聖句——教義と聖約49：19－21；59：15－20；88：124；89：1－4

「従順」；「誘惑」も参照

父なる神

父なる神はわたしたちが信じ、礼拝する至高の御方です。父なる神は、究極的な創造者、統治者、万物の保護者であります。完全で、あらゆる力を持ち、あらゆることを御存じです。父なる神は「人間の体と同じように触れることのできる骨肉の体を持っておられ[ます。]」（教義と聖約130：22）

天の御父は裁き、力、知識、権力の神でありますが、同時に、まったく憐れみ深く、思いやりと慈愛にあふれた神でもあります。わたしたちは「すべてのことの意味を知っているわけではありません」が、神がわたしたちを愛しておられるという確かな知識があるおかげで、心穏やかになります（1ニーファイ11：17参照）。

わたしたちの霊の父

人生最大の質問の一つ、それは「わたしは何者なのだろう」という質問です。しかし、初等協会で親しまれている歌の一つを歌えば、小さな子供たちですらこの質問に答えることができます。わたしたちは「神の子です。わたしやあなた」と歌います。わたしたちが神の子供であるという知識はわたしたちに力と慰め、希望を与えてくれます。

あなたは文字どおり神の子供であり、前世で霊として生まれましました。神の子供であるあなたは、自分が神から受け継いでいる永遠に

続く可能性を秘めていること、その可能性を最大限にまで伸ばそうと努力するときに神が助けてくださることを確信できるのです。

至高の創造者

天の御父は至高の創造者であります。イエス・キリストを通して、神は天と地、そこにある万物を創造されました（モーセ2：1参照）。アルマはこう語っています。「万物は神がましますことを示している。まことに、大地も、大地の面にある万物も、大地の運動も、また各々整然と運行しているすべての惑星^{あかし}も、それらのすべてが至高全権の創造主がましますことを証している。」（アルマ30：44）

折に触れて、木、花、山、海の波、生まれたばかりの赤ちゃんなど創造の業の美しさについて思い巡らしてください。時間を取って空を眺めてください。そこに浮かぶ星や惑星の運行は「尊厳と力をもって進む神」の存在を証明するものです（教義と聖約88：41-47参照）。

永遠の救いの源

天の御父はわたしたちが御自身とともに永遠に住むことを望んでおられます。御父の業と栄光とは「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」です（モーセ1：39）。その実現のために、御父は救いの計画を備えられました。御父は、死の縄目を解き世の罪^{あがな}を贖うために、その愛する御子イエス・キリストを送られました。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子^{みこ}を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネ3：16）この犠牲は御父のわたしたちに対する愛を最も的確に示すものです。

父なる神を知るようになる

神の子供であるわたしたちは御父と特別な関係にあります。この特別な関係のためにわたしたちは御父のほかのすべての創造物に比べて際立った存在となっています。天の御父を知ろうと努めてくだ

茶

さい。御父はあなたを愛し、祈りを通して御自身に近づく貴重な機会をあなたに与えておられます。謙遜に心を込めてささげるあなたの祈りは御父の耳に届き、こたえられます。

御父の愛する御子について学び、その福音を自分の生活に応用することによって御父を知るという方法もあります。救い主は弟子たちに教えられました。「もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。……わたしを見た者は、父を見たのである。」(ヨハネ14:7, 9)

聖文と末日の預言者の言葉を研究し、奉仕することによって父なる神に近づくことができます。神の御心^{みこころ}に従い、神が望んでおられる生活を送るときに、さらに御父と御子に似た者となることができます。神のもとに帰り、神とともに住むために自分自身を備えてください。

その他の参照聖句——ヨハネ14:6, 21-24; 17:3; モーサヤ4:9; 教義と聖約132:22-24; 信仰箇条1:1

「創造」; 「神会」; 「救いの計画」も参照

茶 (「知恵の言葉」参照)

中央幹部 (「教会の管理」参照)

中毒 (「ギャンブル」; 「ポルノグラフィー」; 「知恵の言葉」参照)

長老 (「メルキゼデク神権」; 「神権」参照)

月の栄えの王国 (「栄光の王国」参照)

慎み深さ

慎み深さとは服装、身だしなみ、言葉遣い、行動に現れる謙遜^{けんそん}で上品な態度を指します。慎み深い人は必要以上に注目を浴びようとはしません。その代わりに、「自分の全身全霊で、神の栄光をあらわそうとします (欽定訳1コリント6:20から和訳。19節も参照)。

自分の服装や身だしなみが慎み深いかどうかよく分からないときは、「主の前に出てもおかしくない外見だろうか」と自問してください。自分の言葉遣いや行動に関しても、同じように自問することができるでしょう。「主がおられてもこのような言葉遣いをしたり、このような活動に参加したりするだろうか。」これらの質問に対して正直に答えるときに、人生で大切な変化を遂げるための導きを受けることができるでしょう。以下の情報は慎み深くあろうとするとときに役立つことでしょう。

服装と身だしなみ

預言者はいつもわたしたちに慎み深い服装をするよう勧告してきました。この勧告は人の肉体が神の神聖な創造物であるという真理に根ざしています。神から授かった賜物である自分の肉体を尊んでください。服装や外見を通して、あなたは、自分の肉体がいかに貴いのかを知っていることを、神に示すことができます。

あなたの服装によって人柄が示されます。それはあなたについてのメッセージを伝え、自分や周囲の人々の行いに影響を与えます。適切な身だしなみや慎み深い服装をしていれば、御霊が常にとどまり、周囲の人々に良い影響を与えることができます。

慎み深くあるようにという戒めの中心は、この世に子供をもたらし能力、生殖の神聖な力を理解することにあります。この力は夫婦の間でしか用いることができません。ショートパンツや丈の短いスカート、体にぴったりとした服、おなかを露出したシャツなど、肌があらわになり性的感情をあおるような衣装には、主が与えられた純潔の律法を破ろうとする欲望や行動を刺激する力があります。

肌があらわになる衣服を避けるだけでなく、極端な服、外見、整髪は避けるようにするようにしましょう。いつも身だしなみを整えて清潔にし、だらしく不適切にカジュアルな服や身だしなみ、態度は避けるようにしましょう。入れ墨やボディーピアスで自分自身を傷つけてはなりません。女性が耳にピアスをしたいと思うのであれば、控えめなイヤリング（訳注——耳に付けるピアスを含む）を

罪

一組だけするようにしてください。

どのような場合にも慎み深さに関して高い標準を維持するようにしてください。自分の体に人の注意を引いたり、周囲の人々から認められようとして自分の標準を下げるようなことがあってはなりません。イエス・キリストの真の弟子は、現代のファッションや周囲の圧力に関係なく主の標準を維持します。

言葉遣いと行動

服装や身だしなみと同様、言葉遣いと行動にも人柄が現れます。あなたの言葉と行動はあなた自身と周囲の人々に深い影響を与えます。清く、肯定的で、人を高める言葉使いと周囲の人々に幸福をもたらす行動とを通して自分を表現してください。慎み深い言葉と行いを心がける人は、聖霊からもっと多くの導きと慰めを受けられるようになります。

世の中では当り前みとなっていますが、下品な言葉遣いやなれなれしい不敬な主の御名の乱用は避けてください。極端な行動あるいは不適切な行動に巻き込もうとするいかなる誘惑にも屈しないでください。敬虔けいけんとは相いれないような言葉遣いや行動は、聖霊の静かな促しにこたえる能力を損ないます。

その他の参照聖句——教義と聖約42：40-41；信仰箇条1：13

「ボディーピアス」；「純潔」；「冒ぼうとく」；「入れ墨」も参照

罪

意図的に神の戒めを破るときに、わたしたちは罪を犯していることとなります。また真理に関する知識がありながら、義にかなったことを行わないときにも罪を犯していることとなります（ヤコブの手紙4：17参照）。

主は「ほんのわずかでも罪を見過ごしにすることはない」と語っておられます（教義と聖約1：31）。罪の結果として、聖霊が退き去られ、永遠に天の御父のもとに住むことができません。なぜなら「清くない者は神とともに住むことができない」からです（1ニ

一ファイ10：21)。

わたしたちは、だれもが戒めを破り、あるいは真理の知識に従わずに行動しています。使徒パウロは次のように教えています。「もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、〔イエス・キリスト〕は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。」(1ヨハネ1：8-9) イエス・キリストの^{あがな}贖いを通して、わたしたちは悔い改め、罪の^{ゆる}赦しを受けることができます。

その他の参照聖句——ローマ3：23；6：23；アルマ5：41-42；11：37；ヒラマン5：10-11；教義と聖約82：1-3；88：34-35

「イエス・キリストの^{あがな}贖い」；「死（霊の）」；「^{ゆる}赦し」；「正義」；「^{あわ}憐れみ」；「従順」；「悔い改め」；「誘惑」も参照

定員会（「神権」参照）

天

聖文では、「天」という言葉は二つの意味で用いられています。一つは、神の住んでおられるところを指します（モーサヤ2：41参照）。そこは、忠実な人々が最終的にたどり着く故郷です。もう一つは、地球を取り巻く広大な空間を指します（創世1：1参照）。

その他の参照聖句——詩篇11：4；マタイ6：9；1ニーファイ1：8；モーサヤ3：8；教義と聖約20：17

「栄光の王国」も参照

天上の会議（「救いの計画」参照）

伝道活動

福音に従った生活のもたらす祝福を経験すると、当然のことながら、それらの祝福をほかの人々とも分かち合いたいと思うようになります。福音を分かち合う生活に注がれる喜びについて主は次のよ

伝道活動

うに語っておられます。

「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18：15-16)

各会員の宣教師としての務め

伝道はすべての末日聖徒に課せられた責任であると、主は宣言されました(教義と聖約88：81参照)。主の教会の会員は、自らの善良な生活と強い証^{あかし}によって、自分の家族、友人、知人が専任宣教師と会えるように備えさせることができます。

最も強力な伝道のメッセージは、末日聖徒自身が送る幸福な生活の模範を通して人々に伝わります。人は自分が学んだ福音の原則だけを理由に教会に入るわけではありません。霊的な必要を満たすきっかけとなる何かを感じるから教会に加わるのです。友人として誠実な態度で接する会員の証と幸福な生活に、周囲の人々は御霊を感じる^{あかし}ことができます。

良い模範を示すことに加えて、「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意」もできます(1ペテロ3：15)。回復された福音についてほかの人々に伝える機会に恵まれるように祈ることができます。そうすることによって、周囲に気を配り、その時を識別できるようになります。なぜなら、切なる思いで真理を求めている人は大勢いるからです。

専任宣教師として奉仕する

復活の後、主は弟子たちに「行って、すべての国民を教え、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施」すように命じられました(欽定訳マタイ28：19から和訳)。この命令に従い、専任宣

教師として奉仕するために、教会の有能な青年は霊的、肉体的、情緒的に自らを備える義務があります。独身の女性や円熟した夫婦も専任宣教師として奉仕する機会があります。専任宣教師として奉仕したい場合は、監督または支部長に相談するとよいでしょう。

新会員のために奉仕する

伝道活動には、教会に加わった人を助け、支援することも含まれます。この責任について思い巡らすときに、教会に加わったその時点から試練に直面する新会員がいるということを忘れてはなりません。新会員は、新たな決意をすることで、古い習慣を捨て、古い友人や交流のある相手と別れる必要に迫られることがよくあります。さらに、教会の方でも異質で厳しそうに見える生活の仕方が紹介されます。

新会員一人一人に必要なものが3つあります。友人、責任、そして「神の善い言葉」による養いです（モロナイ6：4）。各会員も新会員にこのような助けを提供する働き的一端を担うことができます。いつでも友人になることができます。公式な教会の召しや責任を与える立場にはいなくても、奉仕活動を行うに当たって新会員とともに働くことができます。神の言葉を新会員に伝える機会を求めることもできます。

その他の参照聖句——マルコ16：15；アルマ26：1－16；教義と聖約4章；60：2；84：88；123：12

天の御父（「父なる神」参照）

同性愛（「純潔」参照）

慰め主（「聖霊」参照）

日曜日（「安息日」；「礼拝」参照）

背 教

背教

個人としてまたは団体として福音の原則に背くとき、その人たちは背教していることになります。

全教會的な背教の時代は世界の歴史を通じて存在しました。邪惡な時代は義にかなった時代の後に度々訪れました。その一つの例が救い主による教會設立後に起こった大背教です。救い主と使徒の死後、福音の原則はゆがめられ、教會の組織と神權の儀式に独斷的な変更が加えられました。こうして惡が広範囲にわたってはびこったため、主は神權の權能をこの地上から取り去られました。

大背教の間、人類は生ける預言者を通して天からの導きを受けることができませんでした。多くの教會が設立されましたが、父なる神とイエス・キリストに関する真の知識に人を導く神權の力がありませんでした。聖文の中にはゆがめられたり、取り去られたりした箇所があり、聖靈の賜物^{たまもの}を受ける權能を持つ人やそのほかの神權の儀式を執行できる人が一人もいませんでした。この背教は、1820年に天の御父とその愛する御子がジョセフ・スミスを訪れ、完全な福音の回復を開始されるまで続きました。

わたしたちは今、イエス・キリストの福音が回復された時代に生きています。過去の教會とは違って、末日聖徒イエス・キリスト教會が全教會的な背教に打ち負かされることはありません。聖文に、教會は決して再び滅ぼされることはない^{あかし}と記されているからです（教義と聖約138：44参照。ダニエル2：44も参照）。

真理からの全教會的な背教は二度とありませんが、わたしたち一人一人が個人的な背教から身を守らなければなりません。自らを個人的な背教から守るためには、聖約を守り、戒めに従い、教會の指導者に従い、聖餐^{せいさん}を受け、日々の聖文学習、祈り、奉仕を通して常に証を強めていかなければなりません。

その他の参照聖句——イザヤ24：5；アモス8：11-12；マタイ24：4-14；使徒20：28-30；2テモテ3：1-5，14-15；4：3-4；1ニーファイ13：24-29；モルモン1：13-14；教義と聖約1：15-17；ジョセフ・スミス—歴史1：17-19

「教會の管理」；「神權」；「福音の回復」も参照

バプテスマ

モルモン書には福音を学び、「モルモン」と呼ばれる場所でバプテスマを受けたある民についての物語が記されています。バプテスマを受けたときから、この民は「モルモン」を麗しい場所と見なしました。なぜならこの「モルモン」で「自分たちの贖い主を知るようになった」からです（モーサヤ18：30）。彼らは自分たちの証とバプテスマの聖約によって強められ、たとえ厳しい試練の時でも変わらず主に忠実でした（モーサヤ23－24章参照）。

このモルモン書の記録に出てくる民と同様、自らが交わしたバプテスマの聖約とそれに伴う主の約束を記憶にとどめるならば喜びを得ることができます。バプテスマを最近受けたか、何年も前に受けたかにかかわらず、バプテスマの儀式に力を見いだすことができます。

永遠の命に至る道に入る

バプテスマは福音の第一の救いの儀式です（信仰箇条1：4参照）。神権の権能によって執り行われるバプテスマと確認の儀式を通して、あなたは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となります。

バプテスマを受けたときに、あなたは救い主の模範に喜んで従うことを約束しました。主御自身も罪のない御方でありながらバプテスマを受けられました。バプテスマのヨハネに語られたように、主は「すべての正しいことを成就する」ためにバプテスマをお受けになる必要があったのです（マタイ3：13－17参照）。

永遠の命を得たいと願うすべての人々は、救い主の模範に倣ってバプテスマを受け、聖霊の賜物を受けなければなりません。預言者ニーファイはこう語っています。「〔救い主は、わたしたち〕が入らなければならない門を〔示してくださった。わたしたち〕が入らなければならない門とは、悔い改めと、水によるバプテスマである。そうすれば、火と聖霊によって罪の赦しが与えられ……そのとき、〔わたしたち〕は、永遠の命に至る細くて狭い道にいることになる。」（2ニーファイ31：17－18）わたしたちは聖約を守り、そのほかの救

バプテスマ

いの儀式を受け、最後まで堪え忍ぶならば永遠の命を受けることができます。

主の方法によるバプテスマ

救い主は預言者ジョセフ・スミスに正しいバプテスマの方法を啓示して、儀式は神権の権能を授けられている人が執行しなければならないこと、完全に水に沈めるバプテスマでなければならないことを明らかにされました。

「すなわち、神から召され、イエス・キリストからバプテスマを施す権能を授けられている人は、バプテスマのために出頭した人とともに水の中に降りて行き、彼または彼女の名を呼んで、次のように言わなければならない。『わたしはイエス・キリストより権能を受けたので、御父と御子と聖霊の御名によって、あなたにバプテスマを施します。アーメン。』

その後、その人は、彼または彼女を水中に沈め、そして再び水から出て来なければならない。」（教義と聖約20：73-74）

完全に水に沈めるということは、罪深い生活に対する死と、神と神の子供たちのために献身的に奉仕する霊的な生活への再生を象徴しています。それはまた死と復活の象徴でもあります（ローマ6：3-6参照）。

幼児とバプテスマ

末日の啓示により、幼児はイエス・キリストの憐れみによって贖^{あがな}われていることをわたしたちは知っています。主はこうおっしゃいました。「彼らは罪を犯さない。彼らがわたしの前に責任を負うようになるまで、サタンには幼い子供たちを誘惑する力が与えられないからである。」（教義と聖約29：46-47参照）幼児は責任を取ることのできる年齢、主の啓示によれば8歳に達するまでバプテスマを受ける必要がありません（教義と聖約68：27；ジョセフ・スミス訳創世17：11参照）。だれであれ、幼児もバプテスマが必要であると主張する人は「キリストの憐れみを否定し、キリストの贖罪^{しよくざい}とキリストの

贖いの力を軽んじる者で〔す。〕」（モロナイ8：20。8-19, 21-24節も参照）

バプテスマの聖約

あなたはバプテスマを受けたときに神と聖約を結びました。イエス・キリストの御名を受け、主の戒めを守り、最後まで主に仕える
と約束しました（モーサヤ18：8-10；教義と聖約20：37参照）。また聖餐を受ける度にこの聖約を更新します（教義と聖約20：77, 79参照）。

イエス・キリストの御名を受ける。イエス・キリストの御名を受けるときに、あなたは主のものとなります。自分の生活で主と主の業を優先します。自分が望んでいること、あるいはこの世が自分に望むよう教えていることよりもむしろ主が望んでおられることを追
い求めます。

モルモン書の中で、ベニヤミン王は救い主の御名を受けることがなぜ大切かを説明しています。

「救いをもたらす名はほかに与えられていない。だから、キリストの御名を受けて、神と聖約を交わしたあなたがたは皆、生涯の最後まで従順であってほしい。

そして、このとおりにする者はだれでも、自分がどのような名で呼ばれるか分かるので、神の右に見いだされるであろう。なぜならば、キリストの御名で呼ばれるからである。

そして、キリストの御名を受けない者はだれでも、何かほかの名で呼ばれる。それゆえ、神の左にいる自分に気づくであろう。」（モーサヤ5：8-10）

戒めを守る。バプテスマの聖約とは神の王国に入り、この世を離れ、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても」神の証人になる決意です（モーサヤ18：9）。神の証人になる努力にはあなたのあらゆる言動が含まれます。常に主の戒めを覚え、守るよう努力してください。あなたの思い、言葉、行動を清く保ってください。映画、テレビ、インターネット、音楽、本、雑誌、新聞な

バプテスマ

どの娯楽を求めるときに、精神を高揚させるものだけを見、聞き、読むように注意してください。慎み深い服装を心がけてください。あなたが永遠の目標に到達できるよう励ましてくれる友人を選んでください。不道德なこと、ポルノグラフィ、かけ事、たばこ、アルコール、違法薬物に近づかないでください。神殿に入るふさわしさを保ってください。

主に仕える。この世的な事柄から離れるという戒めの意味は、周囲の人々から孤立するということではありません。バプテスマの聖約の一つに主に仕えるということがありますが、主に仕える最善の方法は同胞^{ほらから}に仕えることです。預言者アルマはバプテスマの聖約について教えたときに、わたしたちは「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み……悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望」むべきだと語っています（モーサヤ18：8-9）。すべての人々に親切にし、敬意を払ってください。イエス・キリストの模範^{なら}に倣ってほかの人々に接してください。

約束されたバプテスマの祝福

バプテスマのときに交わした聖約を守るときに、主はあなたの忠実さに対して祝福を与えてくださいます。あなたに与えられる祝福の中に、聖霊を常に伴侶^{はんりよ}とすること、罪が赦^{ゆる}されること、そして霊の再生の特権にあずかることがあります。

聖霊を常に伴侶^{はんりよ}とする。バプテスマを受けた後で、メルキゼデク神権の権能を授けられている一人または二人以上の人が手をあなたの頭の上に置いて、あなたに聖霊の賜物^{たまもの}を授けます。この賜物を通してあなたはふさわしいかぎり聖霊を常に伴侶とする権利を授かります。御霊を常に伴侶とすることは、この現世で受けることのできる最大の賜物の一つです。御霊は義と平和の道を歩むときにあなたを導き、永遠の命へとあなたを導いてくれます。

罪^{ゆる}が赦される。バプテスマを受けると、罪の赦^{あわ}しを受けることができます。言い換えれば、救い主の憐れみによって赦されるということです。この祝福によって、最終的には御父の前に住むことを許

されるのです。

罪の赦しを受けるためには、イエス・キリストに対する信仰を行使し、心から悔い改め、常に戒めを守ろうと努力しなければなりません。預言者モルモンは次のように教えています。「悔い改めの最初の実はバプテスマである。バプテスマは信仰によって行われ、戒めを守ることである。そして、戒めを守るとは罪の赦しを生じ〔るのである。〕」(モロナイ8：25) 絶えず、神の前にへりくだり、日々の祈りの中で神を呼び求め、確固とした信仰を持ち、助けの必要な人に仕えるときに、あなたは「罪の赦しを保てるで〔しょう。〕」(モーサヤ4：11-12, 26参照)

再び生まれる。バプテスマと確認の儀式を通して、あなたは生まれ変わり、新しい生活を始めました。救い主はニコデモにこう言われました。「だれでも、水と霊とから^{うま}生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3：5) ^{おさなご}幼子が誕生と同時に新しい生活を始めるように、あなたはバプテスマの聖約を結んだときに新しい生活を始めました。あなたはバプテスマの聖約を守り、聖約を更新するために聖餐^{せいさん}を取り、罪を悔い改めることによって霊的に成長し、さらに救い主のようになることができます。使徒パウロは、バプテスマを受けるとわたしたちは「新しいいのちに生きる」べきであると教えています(ローマ6：4)。

最後まで堪え忍ぶ

今やバプテスマを受け、聖霊^{たまもの}の賜物を授かったあなたは義にかなった生活を続けていかなければなりません。なぜならこれらの儀式は再び天の御父とともに住むための帰途の旅の始まりにすぎないからです。預言者ニーファイは次のように教えています。

「あなたがたがこの細くて狭い道に入ったならば、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではないと言う。もしキリストを信じる確固とした信仰をもってキリストの言葉に従い、人を救う力を備えておられるこの御方の功德にひたすら頼らなかったならば、あなたがたは、ここまで進んで来ることさえできなかったから

パラダイス

である。

したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。』（2ニーファイ31：19-20）

その他の参照聖句——使徒2：37-38；2ニーファイ31：4-13；アルマ7：14-16；3ニーファイ11：18-41；27：13-22；教義と聖約39：5-6，10；76：50-53

「信仰」；「聖霊」；「従順」；「神権」；「悔い改め」；「^{せいさん}聖餐」も参照

パラダイス

「パラダイス」という言葉は聖文の中で、様々なことを意味する言葉として用いられています。まず第1に、バプテスマを受けて終わりまで忠実だった人々のために用意されている霊界での平安で幸福な状態を指します（アルマ40：12；モロナイ10：34参照）。霊の獄にとらわれている人々もイエス・キリストの福音を学び、罪を悔い改め、神殿で行われる業を通してバプテスマと確認の儀式を受ける機会にあずかります（教義と聖約138：30-35参照）。それが終われば、パラダイスに入ることを許されます。

「パラダイス」という言葉のもう一つの用い方は、救い主が十字架におかかりになったときのことに関するルカの記録の中に見いだすことができます。十字架上のイエスに、同じように十字架にかけられていた盗人^{ぬすびと}の一人がこう言いました。「イエスよ、あなたが御国^{みくに}の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください。」（ルカ23：42）ルカによる福音書第23章43節には、主が次のように答えられたと記されています。「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう。」預言者ジョセフ・スミスは、この部分は誤訳であると述べています。主は実際には盗人に、霊界で御自分とともにいるであろうと言われたのです。

「パラダイス」という言葉はコリント人への第二の手紙第12章4節

にも出てきますが、ここでは日の栄えの王国を指していると思われます。信仰箇条第10条に出てくる「樂園の」という言葉が福音千年における地球の栄光を表す言葉だからです。

「死（肉体の）」；「救いの計画」；「復活」も参照

人を裁く

時として、どのような形であれ、人を裁くのは間違っていると感じることがあります。確かに、人を非難したり、不当に裁いたりしてはなりません、考え方や状況、人物に関しては生涯にわたって判断を下す必要があります。主はわたしたちに自分で判断しなければ守れない戒めを数多くお与えになりました。例えば、主はこう言われました。

「にせ預言者を警戒せよ。……あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。」（マタイ7：15-16）またこうも言われました。「あなたがたは悪人の中から出なさい。」（教義と聖約38：42）友人の選択、政府指導者への投票、永遠の伴侶^{はんりょう}の選択といった重要な決定を下す機会が人生には数多くありますが、その度にわたしたちは人を評価する必要に迫られます。

評価を下すのは、選択の自由を行使する重要な機会ですが、人の判断については特に細心の注意を払う必要があります。判断するときには必ず義にかなった標準に基づいて判断しなければなりません。人を最終的に裁くことができるのは、その人の心を熟知しておられる神だけだということを忘れてはなりません（黙示20：12；3ニーファイ27：14；教義と聖約137：9参照）。

主は人を裁くときに指針となる警告をわたしたちに与えられました。「あなたがたが裁くその裁きで、自分も裁かれ、あなたがたが量るそのはかりで、あなたがたも量られるからである。なぜ兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある梁^{はり}を認めないのか。自分の目には梁があるのに、どうして兄弟に向かって、『あなたの目からちりを取らせてください』と言えようか。見よ、自分の目の中に梁があるではないか。」（3ニーファイ14：2-5）

日の栄えの王国

この聖句で主は、わたしたちの欠点が目の中の巨大な梁^{はり}のようなものだと思えば、わたしたちに見えるほかの人の欠点は、目の中のごく小さなほこりのようなものであるということを教えておられます。時として人は自分自身の改善に努めるべきなのに、ほかの人の欠点にこだわる傾向があるということです。

人に対して義にかなった裁きをすれば、それがその人にとって必要な導きとなり、さらにある場合には、自分と自分の家族にとって守りとなります。そのような判断を下すに当たっては相手への心配りと思いやりを忘れないでください。できるかぎり、その人自身を裁くというよりはむしろ、その人の置かれた状況を裁くようにしてください。状況が許すかぎり、事実関係についての十分な情報を得るまでは、判断を差し控えてください。わたしたちの決定に導きを与えることがおできになる聖霊の促しにいつも敏感であってください。アルマは息子コリアントンに次のような助言を与えています。「同胞^{ほらから}に対して常に憐れみ^{あわ}深くありなさい。公正に振る舞い、義にかなって裁き、絶えず善を行いなさい。」(アルマ41：14)

その他の参照聖句——サムエル上16：7；モロナイ7：14－19；教義と聖約11：12

「慈愛」；「赦^{ゆる}し」；「愛」；「憐れみ^{あわ}」も参照

日の栄えの王国（「栄光の王国」参照）

標準聖典（「聖文」参照）

福音

福音は天の御父が作られた幸福の計画です。この福音の中心となっている教義はイエス・キリストの贖い^{あがな}です。

預言者ジョセフ・スミスは次のように語っています。「わたしたちは、福音の第一の原則と儀式とは、第1に主イエス・キリストを信じる信仰、第2に悔い改め^{ゆる}、第3に罪の赦^{ゆる}しのために水に沈めるバプテスマ、第4に聖霊の賜物^{たまもの}を授けるための按手^{あんしゅ}であることを信じる。」

(信仰箇条1:4) 完全な福音には、わたしたちが日の栄えの王国で昇栄を得るために必要なすべての教義、原則、律法、儀式、聖約が含まれています。救い主は最後まで堪え忍び、忠実に福音に従った生活を送るならば、最後の裁きの時に御父の前でわたしたちを罪のない者としようと約束されました(3ニーファイ27:16参照)。

完全な福音はいつの時代でも神の子供たちに備えができたときに^の宣べ伝えられました。末日の世、すなわち時満ちる神権時代に、福音が預言者ジョセフ・スミスを通して回復されました。

その他の参照聖句——ローマ1:16-17; 3ニーファイ27:13-22; 教義と聖約11:24; 39:5-6

「イエス・キリストの贖い^{あがな}」; 「バプテスマ」; 「信仰」; 「聖霊」; 「イエス・キリスト」; 「救いの計画」; 「悔い改め」; 「福音の回復」も参照

福音の回復

イエス・キリストはこの世におられたときに、イエスに従う人々の間に御自身の教会を確立されました。しかし、イエス・キリストが十字架にかけられ、使徒たちが亡くなった後に背教が広まったため、完全な福音はこの世から取り去られてしまいました(「背教」の項、00〔13〕-00〔14〕参照)。多くの人々が何世紀にもわたる大背教の時代に完全な福音の真理を探し求めましたが、見いだすことができませんでした。多くの人々が誠意を込めて救い主とその教えについて説きましたが、完全な真理を知り、神から神権の権能を授かっている人が一人もいませんでした。

大背教は霊的な暗黒の時代でしたが、今わたしたちは「キリストの栄光の福音の輝き」にあずかることのできる時代に住んでいます(2コリント4:4。教義と聖約45:28も参照)。完全な福音が回復され、イエス・キリストの真の教会が再び世にもたらされました。この教会に匹敵する組織はほかにありません。回復は、善意ある人々が変化をもたらそうと全力を尽くした改革の結果ではありません。イエス・キリストによって確立された教会が回復されたものなのです。天の御父とその愛する御子の業なのです。

福音の回復

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるあなたは、この世からおおよそ2,000年の間取り去られていた祝福を受けることができます。バプテスマと確認の儀式を通して、罪の赦しを受け、聖霊を常に伴侶とする祝福を享受することができます。完全に分かりやすい福音に従った生活を送ることができます。神会の属性、イエス・キリストの贖い、この地上における人生の目的や死後の生活が確かにあることについて理解することができます。現代における神の御心を教える生ける預言者によって、導きを受ける特権もあります。神殿の儀式を通して、導きと平安を受け、永遠の命に備え、永遠にわたって家族と結び固められ、亡くなった先祖のために救いの儀式を執行することができます。

回復にまつわる出来事

次の概説は、福音の回復と、主が「全地の面に唯一まことの生ける教会」と宣言された末日聖徒イエス・キリスト教会の確立に関する、幾つかの重大な出来事を要約したものです（教義と聖約1：30）。

1820年の早春。イエス・キリストの真の教会を探し求める14歳の少年ジョセフ・スミスは、ニューヨーク州パルマイラにある家の近くの森の中で祈った。ジョセフの謙遜な祈りにこたえて、天の御父とイエス・キリストが御姿を現し、その当時地上にあったどの教会にも加わらないようにと命じられた（ジョセフ・スミス—歴史1：11－19参照）。教会ではこの経験をジョセフ・スミスの最初の示現と呼んでいる。

1823年9月21日－9月22日。ジョセフ・スミスはモロナイという名の天使の訪れを受けた。モロナイは将来の出来事について預言し、金版に刻まれたモルモン書という記録についてジョセフに語った。この天使はジョセフに金版を見ることを許した。この金版はクモラの丘の近くに埋められていた（ジョセフ・スミス—歴史1：27－53参照）。

1827年9月22日。このときまでの4年間、毎年9月22日にモロナイと会って話をしたジョセフ・スミスは、クモラの丘でモロナイ

から金版を受け取った(ジョセフ・スミス—歴史1:53, 59参照)。

1829年5月15日。金版の翻訳に取り組んでいたときに、罪の赦し^{ゆる}のためのバプテスマについて読んだジョセフ・スミスとその筆記者のオリバー・カウドリは、人里離れた場所に入って行き、この件について主に尋ねた。ペンシルベニア州ハーモニー近くを流れるサスケハナ河畔で、二人は祈りの答えを受けた。バプテスマのヨハネが復活体を身にまとい「光の雲の中を降^{くだ}って来」た「天からの使者」として彼らの前に現れたのである。バプテスマのヨハネは彼らにアロン神権を授けた。その後、ジョセフとオリバーはバプテスマのヨハネの指示に従い、互いにバプテスマを施し、アロン神権に聖任し合った(ジョセフ・スミス—歴史1:68-72参照。教義と聖約13章も参照)。

1829年5月。古代の使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにメルキゼデク神権を授けた(教義と聖約128:20参照)。

1829年6月。「神の賜物と力によって」導かれ(教義と聖約135:3)、預言者ジョセフ・スミスはモルモン書の翻訳を完了した。

1830年3月26日。モルモン書の初版がニューヨーク州パルマイラで入手できるようになった。

1830年4月6日。教会がニューヨーク州フェイエット郡区で組織された。このときの教会員は6人であった。

1836年3月27日。この神権時代に建設された最初の神殿、カートランド神殿が奉獻された。預言者ジョセフ・スミスが奉獻の祈りをささげた。この奉獻の祈りは啓示によって与えられたものだった(教義と聖約109章参照)。

1836年4月3日。救い主がカートランド神殿でジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに御姿を現された。モーセ^{みすがた}、エライアス、エリヤも現れて、ジョセフとオリバーに神権の鍵^{かぎ}をゆだねた。エリヤは家族が永遠に結び固められるのを可能にする鍵を携えて来た(教義と聖約110章参照)。

福音を教える

教会の行く末

旧約聖書の預言者ダニエルは、神が「一つの国を立てられ」、それは「いつまでも滅びることがなく」「立って永遠に至る」と預言しました（ダニエル2：44）。この預言をしたときに、ダニエルは今日の地上における神の王国、末日聖徒イエス・キリスト教会について語っていたのです。組織されたとき、会員は6人だけでしたが、教会は成長し発展してきました。そして「全地に満ち」るまで発展し続けることでしょう（ダニエル2：35。教義と聖約65：2も参照）。毎年、数え切れないほど多くの人々がバプテスマを受けています。モルモン書は多くの言語に翻訳されています。神殿も全世界の至る所に建てられています。イエス・キリストを教会の頭^{かしら}として、この世に救い主の再臨の備えができるまで、生ける預言者が教会の発展を導いていくのです。

預言者ジョセフ・スミスは回復によってもたらされた祝福について次のように語っています。「さて、わたしたちの受けた福音について、何を聞くでしょうか。喜びの声です。天からの憐れみ^{あわ}の声、地からの真理の声、死者のための喜びのおとずれ、生者と死者のための喜びの声、胸躍る大いなる喜びのおとずれ。」（教義と聖約128：19）

その他の参照聖句——イザヤ2：1-3；29：13-14；使徒3：19-21；黙示14：6-7；2ニーファイ3：3-15；教義と聖約128：19-21；133：36-39，57-58；ジョセフ・スミス—歴史

「背教」；「ジョセフ・スミス」；「啓示」；「イエス・キリストの再臨」も参照

福音を教える

主は次のように宣言されました。「あなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。それは、理論において、原則において、教義において、福音の律法において、あなたがたが理解する必要のある神の王国に関するすべてのことにおいて、あなたがたがさらに完全に教えられ

るためである。」(教義と聖約88：77-78)

この戒めを与えることで、主はわたしたちに神聖な責任を与えておられます。また数え切れないほど多くの意義深い奉仕の機会へとわたしたちを導いておられます。周囲の人々が福音を学び、福音に従って生活できるように助ける経験ほど喜びに満ちたものはありません。

この教えるという戒めは、あなたにも当てはまります。たとえ教師として正式に召されていないとしてもです。家族の一員として、ホームティーチャーあるいは訪問教師として、さらには同僚、隣人、友人として、様々な立場で教える機会があります。前もって準備していた言葉を使って教えることもありますし、予期せぬ一瞬を利用して福音の真理を分かち合うこともあります。ほとんどの場合は、模範によって教えます。

救い主が教えられたように教える

福音を教えようとするときに、イエス・キリストを模範としてください。地上におけるイエス・キリストの教導の業に関する記録を研究し、イエス・キリストのように教える方法について考えてください。イエス・キリストは御自分が仕える人々に心からの愛と関心を示されました。一人一人が抱えるその人ならではの必要を満たすような形で福音の原則を教え、一人一人を強められました。何人かの人々の心に、福音を理解し、福音に従った生活を送りたいという望みを呼び起こされました。時折、学んだことを応用できるように質問をされました。救いをもたらし福音の真理を教え、永遠の命の賜物たまものを受けるためには何を知り、何を行い、どのような人物になる必要があるのか、聞いている人々が理解できるように助けられました。

救い主の模範に従うときに、あなたは自分が教えることによって、周囲の人々を養い、引き上げ、彼らの信仰を築き、人生のもろもろの困難に立ち向かう自信を与えることができます。罪を捨て、戒めに従うよう勇気づけることができます。キリストのもとに来て、キ

福音を教える

リストの愛のうちにとどまるよう助けることができます。

御霊^{みたま}によって教える

主は言われました。「御霊^{みたま}は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えてはならない。」（教義と聖約42：14）御霊、あるいは聖霊は神会の御一方です。御霊の目的の一つは、「すべてのことの真理を」「明らかに」することです（モロナイ10：4-5）。福音を教えるに当たって、御霊の影響を通してのみ、人を教化し、奮い立たせることができます。

福音の教師としてのあなたの特権は、聖霊が教え、^{あかし}証し、慰め、奮い立たせるために使われる道具となることです。預言者ニーファイは次のように教えています。「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝える……。」（2ニーファイ33：1）

霊的に備えるならば、聖霊の助けにより、教えるときに何を行い、何を語ればよいのかを理解することができます。よく祈り、聖文を研究し、福音に従った生活を送り、謙遜^{けんそん}になることによって自らを備えることができます。

教授法

教える場合、様々な種類の適切な方法を用いると、最も大きな効果を生み出します。例えば、人々の注意を引きつけ、福音の原則が日々の生活にどのように応用できるかを示すために、物語や実例を紹介することができます。聖文の物語や福音の原則の理解を深めるために写真や実物を利用することができます。音楽を通して、教える者と学ぶ者がともに聖霊の影響を受け、恐らくほかの方法では表現しにくい気持ちを表現することができます。深く考えさせられるような学習と話し合いを促す質問をしたり、個人的な経験を適切に発表し合えるような質問をしたりすることもできます。単純な活動であっても、学習者が注意を集中できるようにします。

特定の教授法を用いることについて考えている場合、次のように

自問してください。「この方法は御^み霊^{たま}の影響を受けることができるだろうか。今教えている原則の神聖さと調和するだろうか。教えを聞く人々を教化し、強めてくれるだろうか。」

福音の教師として、自分が主の代理を務^{けいけん}めていることを忘れないでください。自分の行動と発言がすべて敬虔^{みこころ}で、主の御心に一致したものとなるように心がけてください。

福音の教授に関する追加の提案は、以下の資料を参照してください。『教師、その大いなる召し』(36123 300)；『教師ガイドブック』(34595 300)『教会指導手引き、第2部 神権指導者および補助組織指導者』(35209 300)の第16章「福音の教授と指導」。

その他の参照聖句——モーサヤ18：19；アルマ1：26；17：2-3；31：5；教義と聖句11：21

福 祉

教会員一人一人には福祉に関連した基本的な責任が二つあります。自立する責任と、貧しい人々や助けの必要な人々に関心を示す責任です。

両親には物心両面にわたって子供たちの世話をする神聖な責任があります。子供たちは成長するに伴って、次第に、自分自身の福利に対して責任が持てるようになります。両親は子供たちに福利の基本原則について教え、自立するために備え、自分の将来の家族を養えるようになる必要があります。さらに両親は子供たちも貧しい人々と乏しい人々に関心を持てるよう助けることができます。

教会の成人会員であれば、以下の助言はすべて直接、自分に当てはまるはずです。若い男性、女性の場合でも、たとえまだ多くの点で両親に依存しているとしても、以下の助言のほとんどが自分に当てはまるはずです。

自立する

各人の社会面、情緒面、霊的面、肉体面、経済面における福利に対する責任は、第1に本人、第2に家族、そして第3に教会が負います。

主の靈感の下に、また自分自身の労働を通して、自分自身と自分の家族の霊的、物質的必要を満たすべきです。

自立すると自分自身と自分の家族の世話をする能力が増します。他人に依存することなく、逆境の時を乗り切る備えができます。

(1) 教育の機会を利用し、(2) 健全な栄養と衛生の原則を励行し、(3) 適切な雇用に備え、就職し、(4) 法律上許される範囲で食料と衣類を備蓄し、(5) 什分の一と断食献金^{じゅうぶん}を納め、負債を避けることを含めて、賢く自分の財産を管理し、(6) 霊的、情緒的、社会的能力の向上を図ることによって、自立することができます。

自立するためには、喜んで働かなければなりません。主はわたしたちに働くよう命じておられます（創世3：19；教義と聖約42：42参照）。ふさわしい職業は、幸福、自尊心、そして繁栄の原点となります。

自分自身の努力、あるいは家族の援助にもかかわらず、一時的に、基本的な必要を満たすことができない場合、教会から助けを受けることができます。このような状況において、教会は本人とその家族が再び自立できるように、しばしば生活支援のための手段を提供します。

貧しい人々と乏しい人々の世話をする

主はいつの時代にもその民に貧しい人々と乏しい人々の世話をするよう命じてられました。主はこう言っておられます。「あなたがたは貧しい者と乏しい者を訪れ、彼らに必要なものを与え……なければならぬ。」（教義と聖約44：6）また次のようにも命じておられます。「貧しい者と乏しい者、病気の者と苦しんでいる者を、すべてのことにおいて思い起こしなさい。これらのことを行わない者は、わたしの弟子ではないからである。」（教義と聖約52：40）

様々な方法を用いて、貧しい人々と乏しい人々の世話をすることができます。その一つが、断食と断食献金による方法です。断食献金は、監督または支部長が、貧困や病気、そのほかの苦難に悩むワードまたは支部の会員を援助するために用います。自分の時間をさ

さげ、自分の才能を提供することもできます。家のない人々、障害のある人々、夫に先立たれた人々、近所や地域社会に住む人々に奉仕することもできます。

困っている人々に対して提供される地元レベル、個人レベルでの世話に加えて、教会は世界的な規模で、自然災害、貧困、病気、そのほかの危機に見舞われ苦しんでいる人々に、宗教の枠を越えて援助の手を差し伸べています。教会は家族と個人が立ち直り、自立を目指して働けるように救済物資を提供しています。「教会永代教育基金」への献金により、恵まれない境遇にある末日聖徒がより高い教育を受けられるような手段を提供しています。教会奉仕宣教師は、読み書きの能力を向上させ、健康を促進し、訓練を提供するために自分の時間と資源をささげています。

その他の参照聖句——ヤコブの手紙1：27；モルモン書ヤコブ2：17-19；教義と聖約42：31；104：15-18

「断食と断食献金」；「奉仕」も参照

福千年

福千年は1,000年の期間です。教会で「福千年」と言うときには、救い主の再臨に続く1,000年間のことを指します（黙示20：4；教義と聖約29：11参照）。福千年の間、「キリストが自ら地上を統治されます（信仰簡条1：10）。

福千年の間、地上に正義と平和が訪れます。主は次のような啓示を与えられました。「その日、人の敵意、もろもろの生き物の敵意、すなわちすべての肉なるものの敵意が、わたしの前からなくなる。」（教義と聖約101：26。イザヤ11：6-9も参照）。サタンは「縛られて、人の子らの心の中に決して場所を得られ」なくなります（教義と聖約45：55。黙示20：1-3も参照）。

福千年の間、地上に住むすべての人々は善良で正しい人々です。しかし、まだ完全な福音を受け入れていない人々が大勢います。そのために、教会員が伝道の業に携わります。

福千年には、教会員は神殿活動にも携わります。聖徒たちは引き

不敬

続き神殿を建設し、亡くなった親族に代わって儀式を受けます。啓示に導かれ、アダムとエバにさかのぼるまで先祖の記録を作成します。

完全な正義と平和がこの1,000年が終わるまで続きます。福千年が終わると、サタンが「しばしの間解放されて、自分の軍勢を集めます。サタンの軍勢がミカエル、すなわちアダムに率いられた天の衆群に対して戦いを挑みます。サタンとその使いたちは敗北し、永遠に投げ出されます（教義と聖約88：111－115参照）。

その他の参照聖句——教義と聖約45：55－59；101：22－34；133：25

「イエス・キリストの再臨」も参照

不 敬

不敬とは神聖なものを尊ばないこと、あるいは軽視することです。その中には、神会の御方の御名を軽々しく、敬虔な思いを持たずに用いることが含まれます。また下品で低俗な話し方や行為も含まれます。

天の御父、イエス・キリスト、そして聖霊の御名を、いつも敬虔に、また尊敬の念をもって用いてください。この方々の御名を誤用することは罪に当たります。不敬で、低俗な、あるいは軽率な言葉遣いやジェスチャーは、みだらな冗談と同様、主と周囲の人々を傷つけます。

下品な言葉遣いはあなたを霊的に損ない、墮落させます。周りの人々に影響されて下品な言葉を用いることがないようにしてください。その代わりに、周囲の人々を高揚し、教化するような清い言葉を用いてください。丁寧な言葉遣いをする友人を選んでください。模範を示し、周囲の人々が清い言葉を用いるように促してください。友人や知人が不敬な言葉遣いをしたら、ほかの言葉を使うように優しく励ましてください。それでもやめない場合には、失礼のないようにその場を立ち去るか、話題を変えてください。

神の御名をみだりに唱える習慣ができてしまっている、その習慣を捨てることができます。まず自分の言葉遣いを変えようと決心

してください。助けを祈り求めてください。不敬な言葉を用いたいという気持ちに駆られたときには、口を閉じるか、別の表現で言い換えてください。

その他の参照聖句——レビ19：12；教義と聖約63：60－64

「慎み深さ」；「誘惑」も参照

扶助協会

扶助協会は、1842年3月17日にイリノイ州ノーブーにおいて預言者ジョセフ・スミスにより設立されました。扶助協会には、設立されたときに、貧しい人々と乏しい人々に慰めを与え、魂を救うという二つの大きな目的がありました。扶助協会の組織は今日でも存続し、設立当初の指導原則を忠実に守り続けています。世界中で、扶助協会の姉妹たちは神権指導者とともに働き、教会の使命を推進しています。彼らは互いに支え合うために、

祈りと聖文の研究を通して、イエス・キリストへの証^{あかし}を増し加えます。

聖霊の導きに従うことにより、霊的な強さを求めます。

結婚生活や家族、家庭を堅固なものとするために、自らをささげます。

母親としての務めに気高さを、女性としての務めに喜びを見いだします。

奉仕と善に喜びを見いだします。

人生と学問を愛します。

真理と義を守ります。

神権を地上における神の権能として支持します。

神殿の祝福を喜びます。

自分たちの神聖な行く末を理解し、昇栄に向かって努力します。

再び生まれる

あなたが扶助協会に属している場合、この組織の使命に貢献する方法の一つは、訪問教師として奉仕する割り当てを受け入れることです。割り当てられた姉妹たちを訪問し、彼女たちに奉仕するときに、時間をかけて福音を教え、友情をはぐくんでください。個々の姉妹に奉仕することができるだけでなく、家族を強めるために重要な役割を果たすことができます。

ワードや支部の指導者は、18歳以上の姉妹一人一人に必ず訪問教師が割り当てられるようにしてください。神権指導者と扶助協会の指導者は訪問教師を見守り、それぞれの姉妹の物心両面における必要が満たされるよう援助します。

扶助協会の姉妹であるあなたは、イエス・キリストへの献身という点で結ばれる世界的規模の婦人団体の一員です。あなたは、信仰、徳、ビジョン、慈愛を持つ女性として、また人生には意味や目的、目標があるのだという確信をもって、神のほかの娘たちと団結します。扶助協会への参加を通して、姉妹間の友情や交わりを経験し、有意義な奉仕を行い、自分の証や才能を分かち合い、霊的に成長する機会があります。

再び生まれる（「バプテスマ」；「改心」；「救い」参照）

復 活

アダムとエバの墮落によって、わたしたちは霊と肉体が分離する肉体の死を受けます。しかし、イエス・キリストの贖いを通して、すべての人が肉体の死から救われ、復活します（1コリント15：22参照）。復活とは、霊と肉体が完全かつ朽ちることのない状態で再び結合され、病氣や死に支配されなくなることです（アルマ11：42-45参照）。

救い主はこの地上で復活された最初の御方です。新約聖書には救い主が墓からよみがえられたことについて証する記録が幾つか残っています（マタイ28：1-8；マルコ16：1-14；ルカ24：1-48；ヨハネ20：1-29；1コリント15：1-8；2ペテロ1：16-17参照）。

復活した主は使徒に御姿を現されたときに、御自身が骨肉の体を

持っておられることを使徒たちが理解できるようになりました。主はこう言われました「わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしののだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。」(ルカ24：39)。また復活後、ニーファイ人にも御姿を現されました(3ニーファイ11：10-17参照)。

復活すると、わたしたちは「自分の行いに応じて裁かれ〔ます。〕……わたしたちは今持っている知識を保ったまま、神の御前^{みまへ}に連れ出されて立ち、自分のすべての罪をはっきりと思い出す」のです(アルマ11：41, 43)。わたしたちが受ける永遠の栄光は、わたしたちの忠実さに懸かっています。すべての人は復活しますが、キリストのもとに来て完全な福音を受け入れた人のみが日の栄えの王国において昇栄を受け継ぐことになります。

人生の様々な困難、試練、成功を経験するときに、復活について理解し証^{あかし}を持っていれば、希望と展望を持つことができます。救い主が生きておられ、その贖い^{あがな}を通して、「キリストは死の縄目を断ち、墓は勝利を得ず、死のとげは栄光の望みの中にのみ込まれてしまう」という確信に慰めを見いだすことができます(アルマ22：14)。

その他の参照聖句——イザヤ25：8；26：19；ヨハネ5：25-29；11：25-26；1コリント15章；エノス1：27；アルマ40：23-26；41章；モルモン9：12-14；教義と聖約88：15-16；93：33-34；モーセ1：39

「イエス・キリストの贖い^{あがな}」；「死(肉体の)」；「栄光の王国」；「救いの計画」；「救い」；「魂」も参照

平 安

多くの人々は平安とは戦争のない状態と考えています。しかし、戦争のさなかでも平安を感じることはできますし、戦争が起きていなくても、平安を感じられないことがあります。争いがないというだけで、心に平安を感じるわけではありません。平安は福音を通して得られます。イエス・キリストの贖い^{あがな}、聖霊の働きかけ、自らの義にかなった生活、心からの悔い改め、勤勉な奉仕を通して得られ

平安

るものなのです。

世の中が至る所で混乱に巻き込まれていても、内なる平安という祝福を受けることができます。この祝福は、福音の証にいつも忠実な人、天の御父とイエス・キリストが自分を愛し、見守ってくださることを忘れない人のうえに絶え間なく注がれます。

自分自身で平安を感じるだけでなく、家族、地域社会、世界の平和をつくり出すための影響力となることができます。戒めを守り、奉仕をし、家族や隣人の世話をし、福音を分かち合うことによって、平和をつくり出すために努めることができます。いつでも周囲の人々の苦しみを和らげるために援助の手を差し伸べることによって、平和をつくり出すために努めることができます。

救い主の次の言葉は、福音のもたらす平安を感じるための方法について教えてくれます。

「助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであろう。

わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」（ヨハネ 14：26－27）

「息子たちよ、善を行うのを恐れてはならない。あなたがたは、何であろうとまいたものをまた刈り入れるからである。それゆえ、あなたがたは善をまけば、報いとしてまた善を刈り入れることになる。

それゆえ、小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対して連合させなさい。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができないからである。

見よ、わたしはあなたがたを罪に定めない。あなたがたの道を行き、これからはもう罪を犯さないようにしなさい。わたしがあなたがたに命じた業をまじめに行いなさい。

あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。

わたしのわきを突き刺した傷跡と、わたしの手と足にある釘^{くぎ}の跡を見なさい。忠実であり、わたしの戒めを守りなさい。そうすれば、あなたがたは天の王国を受け継ぐであろう。」(教義と聖約6：33-37)

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ16：33)

救い主を覚え、救い主に従うときに、ほんとうの意味で勇気が出、元気になります。永続する真の平安を常に感じる事ができるので。復活後、救い主が弟子たちに告げられた最初の言葉に希望を見いだすことができるでしょう。「安かれ。」(ヨハネ20：19)

その他の参照聖句——教義と聖約59：23

「慈愛」；「聖霊」；「希望」；「イエス・キリスト」；「愛」；「奉仕」；「戦争」も参照

奉 仕

イエス・キリストの真の弟子は周囲の人々に奉仕したいと望みます。救い主は言われました。「互^{たがい}に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13：35)

バプテスマを受けたとき、あなたはイエス・キリストの御名^{みな}を受けることを聖約しました。預言者アルマはバプテスマを受けたいと望んだ新しい改宗者の一団にこの聖約について説明しました。アルマは、「神の羊の群れに入」りたいという改宗者たちの望みには、「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合〔い〕」、「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰める」という意義深い奉仕を進んで行おうとする望みも含まれると語りました(モーサヤ18：8-9)。

周囲の人々に奉仕しようと努力するときに、救い主を模範としてください。神の御子として地上に来たにもかかわらず、救い主は御自分の周りにいるすべての人々に謙遜^{けんそん}な態度で奉仕されました。救い主はこう言っておられます。「わたしはあなたがたの中で、給仕す

る者のようにしている。」(ルカ22:27)

救い主はたとえを用いて奉仕の大切さを教えられました。このたとえの中で、救い主は栄光をもって地上に戻り、悪人と義人を分けられます。義人に向かってこう言われます。「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国^{みくに}を受けつぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。」(マタイ25:34-36)

義人はこの宣言に戸惑い、次のように尋ねます。「主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。」(マタイ25:37-39)

そのときに、主はこう答えられます。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40)

救い主は、自分自身を献身的にささげてほかの人々に奉仕するようにと勧めておられます。奉仕する機会は限りなくあります。毎日、どうしたら周囲の人々の心を喜ばせ、親切な言葉を投げかけ、彼らが一人ではできない仕事を助け、福音を分かち合うことができるか考えてください。奉仕をするようにと促す御霊^{みたま}のささやきに敏感であってください。そうすれば、幸福になるための真^{まこと}の鍵はほかの人々の幸福のために働くことだと気づくでしょう。

その他の参照聖句——マタイ22:35-40; 25:41-46; ルカ10:25-37; ガラテヤ5:13-14; モーサヤ2:17

「慈愛」; 「愛」も参照

ほう とく
冒 瀆 (「不敬」参照)

訪問教師（「扶助協会」参照）

ホームティーチング（「神権」参照）

星の栄えの王国（「栄光の王国」参照）

ボディーパース

末日の預言者は医学的な目的がある場合を除いて、ボディーパースはつけないようにと強く勧めています。少女や女性が耳にピアスをしたいと思うのであれば、慎重なイヤリングを一組だけするのがよいでしょう。

自分の選んでこの助言を無視する人は、自分自身と神への敬意が欠如していることを自ら示していることになります。そのような人はいつの日か自分の下した決定を後悔することになるでしょう。

使徒パウロは肉体の大切さと意図的に肉体を損なうことの危険性について教えました。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊^{みたま}が自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」（1コリント3：16－17）

「慎重」；「入れ墨」も参照

ポルノグラフィー

ポルノグラフィーとは、どのようなものであれ、性的な感情をおおるような形で人間の肉体や性的な行為を描写、あるいは表現しているものを指します。ポルノグラフィーは雑誌、本、テレビ、映画、音楽、そしてインターネットを含む様々な媒体を通して行き渡ります。それはたばこ、アルコール、薬物などと同様に有害なものです。どのような形であれ、ポルノグラフィーの要素が入っているものにかかわる人は神の戒めを破ることになります。「あなたは……姦淫をしてはならない……これに類することをしてはならない。」（教義と聖約59：6）ポルノグラフィーは重大な罪の引き金になることもあり

御霊の賜物

ます。教会員はどのような形であれポルノグラフィーを避け、その製作、販売、利用に反対すべきです。

ポルノグラフィーは悲惨な常習癖を引き起こします。ほかの常習癖と同様、ポルノグラフィーも、試しにやってみるという段階から始まって、次第により強い刺激を求めるようになります。実験のつもりで始めたのが、ポルノグラフィーのわなにはまり、そのまま放っておくと、破壊的な打撃を受け、頭も、心も、霊も墮落してしまいます。自尊心と人生の美しい面を感じ取る心を人から奪います。ポルノグラフィーは人を破壊し、邪悪な思いと、恐らく不道德な行為にも導きます。家族との関係に恐ろしい被害をもたらします。

ポルノグラフィーには常習癖を引き起こし、肉体と霊に害を与える力があるため、神に仕える歴代の僕たちは繰り返しそれを避けるように警告してきました。ポルノグラフィーのわなにかかったら、すぐにやめ、助けを求めてください。悔い改めを通して、赦しを受け、福音の中に喜びを見いだすという方法があるからです。問題を克服する方法について助言を受けるために監督または支部長のところへ行き、イエス・キリストの贖いを通して与えられる癒しを求めてください。悲惨な常習癖を克服する力を頂けるように主に願い求めてください。

その他の参照聖句——マタイ5：27-28；ローマ6：12；アルマ39：9；教義と聖約42：23

「純潔」；「誘惑」も参照

み たま たまもの
御霊の賜物（「霊的な賜物」参照）

恵 み

聖文で用いられている「恵み」という言葉は、おもにわたしたちが主イエス・キリストの贖い^{あがな}を通じて受ける神聖な助けと力を指します。使徒パウロは、わたしたちは「わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かにな〔る〕」べきであると教えています（2ペテロ3：18）。

恵みによる救い

墮落のために、すべての人は肉体の死を経験します。救い主の贖^{あがな}いの犠牲によって与えられる恵みを通して、すべての人が復活し、不死不滅を受けることができます（2ニーファイ9：6-13参照）。しかし、復活だけで神とともに住む永遠の命を受ける資格ができるわけではありません。わたしたちは罪のために汚れており、神とともに住む資格がないので、「最善を尽くした後」清められて完全な者になるには神の恵みが必要となります（2ニーファイ25：23）。

「最善を尽くした後」という言葉は、主の満ちみちる恵みを受け、神とともに住むふさわしさを得るためにわたしたちも努力する必要がありますということを教えています。主はわたしたちに福音に従うようにと命じられました。この命令には主に対する信仰を持ち、罪を悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜物を授かり、最後まで堪え忍ぶことが含まれます（ヨハネ3：3-5；3ニーファイ27：16-20；信仰簡条1：3-4参照）。預言者モロナイはわたしたちが救い主のもとに来て、その教えに従うときに受ける恵みについて次のように記しています。

「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心^{みこころ}に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力^{ちから}と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。そしてあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になれば、決して神の力を否定することができない。

さらにあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になり、神の力を否定しなければ、神の恵みによりキリストによって聖^{きよ}められる。それはキリストの血が流されたことによるものである。キリストの血が流されたのは、あなたがたの罪の赦^{ゆる}しのために御父が聖約されたことによるものであり、それによってあなたがたは染みのない清い者となるのである。」（モロナイ10：32-33）

メルキゼデク神権

一生を通じて恵みを受ける

最終的な救いを得るために恵みが必要なだけでなく、日々の生活の中でも救いを可能にする恵みの力が必要です。熱心に、謙遜^{けんそん}に、また柔和な心で天の御父に近づこうとするとときに、天の御父はその恵みを通してあなたを引き上げ、強めてくださいます（箴言3：34；1ペテロ5：5；教義と聖約88：78；106：7-8参照）。神の恵みに頼ることにより義にかなった形で進歩成長することができます。イエス御自身は「最初から完全は受けず、恵みに恵みを受け続け、ついに完全を受けられ〔まし〕た。」（教義と聖約93：13）恵みにより、神の王国建設の一端を担う力、自分の能力や手段だけでは不可能な奉仕をする力を得ることができます（ヨハネ15：5；ピリピ4：13；ヘブル12：28；モルモン書ヤコブ4：6-7参照）。

落胆したり、福音に従った生活を続けることに無力感を覚えたりしても、この救いを可能にする恵みの力を通して与えられる強さを忘れないでください。主の次の言葉に、あなたは慰めと確信を見いだすでしょう。「わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」（エテル12：27）

その他の参照聖句——使徒15：11；ローマ5：2；2ニーファイ10：24；11：5

「イエス・キリストの贖い^{あがな}」；「復活」；「救い」も参照

メルキゼデク神権

「教会には二つの神権、すなわち、メルキゼデク神権と、……アロン神権があ〔ります。〕」（教義と聖約107：1）メルキゼデク神権は、「神の御子の位に従う」大神権であり（教義と聖約107：3）、「管理する権利を有し、教会におけるすべての職を管理〔する〕力と権能を持つ」神権です（教義と聖約107：8）。この神権は「教会のすべての霊的な祝福の鍵^{かぎ}」も有しています（教義と聖約107：18）。また、預言者アブラハムの時代に生きていた偉大な大祭司メルキゼデクにち

なんで、メルキゼデク神権と呼ばれています（教義と聖約107：2-4 参照。アルマ13：14-19も参照）。

メルキゼデク神権の権能を通して、教会の指導者は教会を導き、全世界で福音を宣べ伝える業を指揮しています。このメルキゼデク神権の儀式によって「神性の力が現れ〔ます。〕」（教義と聖約84：20）

この大神権はアダムに与えられ、主が御自身の福音をお授けになったときには常にこの地上に存在していました。大神権は大背教の時代に地上から取り去られましたが、1829年5月に回復されました。そのとき、使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに大神権を授けました。

メルキゼデク神権には、使徒、七十人、祝福師、大祭司、長老の職があります。大神権の長が教会の大管長です（教義と聖約107：64-66参照）。

男性会員の場合、神殿のエンダウメントを受け、永遠に家族と結び固められるには、ふさわしいメルキゼデク神権者でなければなりません。メルキゼデク神権者は、病人に癒しの儀式を施し、家族やそのほかの人々に特別な祝福を与える権能を持っています。管理の立場にある神権指導者から委任を受け、メルキゼデク神権者は、聖霊の賜物を受けたり、ほかのふさわしい男性をアロン神権およびメルキゼデク神権の様々な職に聖任したりすることができます。

メルキゼデク神権を受けた男性は、神権の誓詞と聖約を受け入れることになります。忠実であること、召しを尊んで大いなるものとする、こと、「永遠の命の言葉を熱心に心に留める」こと、また「神の口から出る一つ一つの言葉に従って生き」ることを聖約します。この聖約を守る人々は、御霊によって聖められ、「父が持つておられるすべて」を受けます（教義と聖約84：33-44参照）。

「アロン神権」；「神権」も参照

モルモン書（「聖文」参照）

薬物（「知恵の言葉」参照）

誘 惑

使徒パウロが預言したように、末日は「苦難の時代」です（2テモテ3：1）。敵対者の影響は広範囲に渡り、人を魅了します。しかしサタンに打ち勝ち、その誘惑を克服することができます。天の御父が選択の自由という賜物、つまり悪よりも善を選ぶ力をお与えになったからです。あなたは「主の御前^{たまもの}にへりくだり、主の聖なる御名を呼び、自分が耐えられないような誘惑を受けないように、目を覚ましていて絶えず祈」ることができます（アルマ13：28）。喜んで戒めに従う人を、天の御父は誘惑に耐えられるよう力づけてくださいます。

次の助言は誘惑を克服するのに役立つでしょう。

救い主を中心とした生活を送る。 預言者ヒラマンは息子たちに次のような助言を与えています。「覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風^{あがな}を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹^{ひょう}と大風^{おお}があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵^{おち}にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」（ヒラマン5：12）

力を求めて祈る。 復活した救い主は、ニーファイ人を訪れたとき、群衆を前にして次のように教えられました。「あなたがたは誘惑に陥らないように、常に目を覚ましていて祈らなければならない。サタンはあなたがたを小麦のようにふるいにかけることを願っているからである。だからあなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならない。」（3ニーファイ18：18-19）。末日にもこれと同様の助言を与えておられます。「勝利者となるために、まことに、サタンに打ち勝つために、またサタンの業を支えるサタンの手下どもの手から逃れるために、常に祈りなさい。」（教義と聖約10：5）

毎日聖文を研究する。 福音の真理を研究し、実生活に応用する人に、主は誘惑に打ち勝つ力を祝福として与えてくださいます。ニー

ファイはこう教えています。「だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはない……。」(1ニーファイ15：24。ヒラマン3：29-30も参照)

生活を善なるもので満たす。この世には、善なるものが有り余るほどたくさんあり、その中から選択できるので、悪にかかわる必要はありません。生活を善なるもので満たせば、ほかのものの入る余地はなくなります。

誘惑を受けやすい場所や状況を避ける。誘惑を完全に避けることはできませんが、誘惑されやすい場所や状況を避けることはできます。また雑誌、本、テレビ、映画、音楽やインターネット上に出てくる不適切な内容を避けることもできます。

ほかの人々に善なる影響を与えようと努力する。ゲツセマネの園で苦しむほんの少し前に、救い主は弟子たちのために祈られました。「わたしが世のものでないように、彼らも世のものでは〔ありません。〕わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです。わたしが世のものでないように、彼らも世のものではありません。真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言^{みことば}は真理であります。あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。」(ヨハネ17：14-18) イエス・キリストに従う末日の弟子として、たとえ世の中にあっても、「世のもの」とならないようにすることはできます。自分自身、誘惑を避けるにとどまらず、周囲の人々も健全で善なる生活を送るように影響を与えることができます。義にかなった模範を示し、良き友人となり、地域の奉仕活動に参加し、必要に応じて、道德的価値観を擁護するために声を上げることもできます。

誘惑と闘う決意をし、決して躊躇^{ちゅうちよ}しない。「数々の誘惑に遭われたが、それらを少しも心に留められなかった」救い主の模範に従うよう努めてください(教義と聖約20：22)。サタンから荒れ野で誘惑を受けたときに、主は決してひるむことはなさいませんでした。主は即座^{きぜん}に毅然として答えられました。「サタンよ、引きさがれ。」(欽定

赦し

訳ルカ4：8から和訳）義にかなった思い、言葉、行動を通して、あなたも主と同様に敵対者の誘惑に自信をもって対処することができます。「悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。」（ヤコブの手紙4：7-8）

その他の参照聖句——ローマ12：21；エペソ6：11-17；ヤコブの手紙1：12；教義と聖約23：1；31：12；モーセ1：12-22

「選択の自由」；「良心」；「断食と断食献金」；「聖霊」；「キリストの光」
「悔い改め」；「サタン」も参照

ゆる 赦 し

聖文は^{ゆる}赦しについて^{ふたとお}二通りの言い方をしています。主はわたしたちに、罪を悔い改め、赦しを求めるようにと命じられました。それと同時に、わたしたちを怒らせ傷つける人々を赦すようにとも命じられました。主の祈りの中で、イエスは天の御父に「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください」と祈るよう勧めておられます（マタイ6：12）。

主の^{ゆる}赦しを求める

罪は重荷です。それは激しい罪悪感と天の御父の^{みこころ}御心に反する行いをしてしまったことについて知るといふ苦しみをもたらします。そしてわたしたちは自分の行いによって、周囲の人々を傷つけ、御父が喜んで与えようとされた祝福を受けられなくなってしまったかもしれないと気づくとき、いつまでも消えることのない良心の^{かしやく}呵責を感じるのです。

しかし、イエス・キリストの^{あがな}贖いによって、真心から完全に悔い改めるならば、罪の^{ゆる}赦しを受けることができます。罪深い行いは苦しみと痛みをもたらしますが、主の赦しによって^{あんど}安堵感、慰め、喜びがもたらされるのです。主は次のように約束されました。

「見よ、自分の罪を悔い改めた者は^{ゆる}赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」（教義と聖約58：42）

「たといあなたがたの罪は^ひ緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」（イザヤ 1：18）

悔い改める必要のある事柄が重大な罪の場合であっても、日々の弱さから来る場合であっても、あなたは奇跡を経験することができます。救い主は、いにしえの民に対して説いたように、現代の人々にも同じように説いておられるのです。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」（マタイ 11：28－30）

「わたしがあなたがたを癒^{いや}すことができるように、今あなたがたはわたしに立ち返り、自分の罪を悔い改め、心を改めようとしているか。」

まことに、あなたがたに言う。あなたがたは、わたしのもとに来るならば永遠の命を得るであろう。見よ、わたしの憐^{あわ}れみの腕はあなたがたに向けて伸べられている。わたしは来る者をだれでも受け入れよう。わたしのもとに来る者は幸いである。」（3ニーファイ 9：13－14）

悔い改めに関する説明については、「悔い改め」00（132）－00（135）ページを参照してください。

人を^{ゆる}赦す

わたしたちは自分自身の罪の^{ゆる}赦しを求めるだけでなく、ほかの人々も進んで赦さなければなりません。主はこう言われました。「あなたがたは互いに赦し合うべきである。自分の兄弟の過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされ、彼の中にもっと大きな罪が残るからである。主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。し

養子縁組

かし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。」(教義と聖約64：9-10)

日々の生活環境の中で、あるときは悪気のない、またあるときは意図的な、ほかの人々からの不当な扱いを受けることが必ずあるはずです。そのような状況に置かれたときに、苦々しい思いや怒り、復讐心を感じるのは容易です。しかし、それは主の方法ではありません。救い主はこう勧められました。「敵を愛し、あなたを呪うものを祝福し、あなたを憎む者に善をなし、悪意を持ってあなたを利用する者や迫害する者のために祈れ。」(マタイ5：44) 救い主は十字架上で赦しの完全な模範を示されました。御自身を十字架にかけたローマの兵士たちのことについて、主はこう祈られました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23：34)

自分に対して不当な扱いをした人々を赦す力を求めて祈ってください。怒りや苦々しい思い、復讐心を捨ててください。人の欠点にばかり目を向けたり、人の弱点を誇張して言ったりするのではなく、人の長所を探すようにしてください。ほかの人々の有害な行為を裁くのは神にゆだねてください。傷ついた感情を捨てるのは難しいことかもしれませんが、それも主の助けによってできます。赦しには、悲惨な傷を癒やし、争いと憎しみを、神のみが与えることができる平安と愛に変える力があることに気づくでしょう。

その他の参照聖句——マタイ6：14-15；18：21-22；1ニーファイ7：16-21

「イエス・キリストの贖い」；「人を裁く」；「悔い改め」も参照

養子縁組

子供たちには結婚のきずなを尊び、愛と支えを与える両親から養育を受ける権利があります。養子縁組はこの世に生を受けてもこのような機会に恵まれない多くの子供たちにとって大きな祝福となり得ます。

結婚生活によらず妊娠した場合、最良の選択は子供の親同士が結婚し、永遠の家族関係を確立するために努力することです。しかし、

実りある結婚生活を築ける可能性が薄い場合、できれば末日聖徒社会福祉課を通して、子供を養子に出すべきです。幼児を末日聖徒社会福祉課を通して養子に出すことによって、未婚の親が子供にとって最良のことは行うよう援助を提供することができます。そうすることで子供が神殿で母親および父親と結び固められるのを確実にし、関係者全員が福音の祝福にあずかる可能性を高めることができます。養子縁組は生みの親、子供、養父母とその家族に祝福をもたらす利己心のない、愛にあふれる決定です。

あなたが結婚していて、伴侶^{はんりよ}との合意のうえで子供を養子として迎えたいと願っている場合、国が求める法的必要条件および関連行政機関について確実に理解しておかなければなりません。神権指導者や、可能ならば、末日聖徒社会福祉課の職員と相談してください。末日聖徒社会福祉課が地元に設立されていなければ、神権指導者と協力して、子供と養父母双方の必要を満たすことのできる認可を受けた機関を探してください。

預 言（「啓示」；「霊的な賜物」^{たまもの} 参照）

預 言 者

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちは、生ける預言者から導きを受けるという祝福にあずかっています。生ける預言者とは、モーセ、イザヤ、ペテロ、パウロ、ニーファイ、モルモン、あるいは聖文に登場するそのほかの預言者のように、主に代わって語るよう召され、主からの靈感を受ける人を指します。わたしたちは教会の大管長を預言者、聖見者、啓示者として、全世界の教会を導くために啓示を受ける地上で唯一の人として支持します。また、大管長会の二人の副管長と十二使徒定員会の会員も同様に、預言者、聖見者、啓示者として支持します。

古代の預言者と同様、現代の預言者もイエス・キリストについて^{あかし}証し、イエス・キリストの福音を教えます。預言者は神の御心と真^{みこころ}の属性を知らせます。預言者は大胆かつ明確に語り、罪を非難し、罪のもたらす結果について警告します。時には、わたしたちのため

予任

に将来の出来事について預言するように靈感を受けることもあります。

生ける預言者は常に信頼することができます。預言者の教えは主の御心を反映しているからです。主はこう宣言しておられます。「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであって、わたしは言い逃れをしない。たとえ天地が過ぎ去っても、わたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する。わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」（教義と聖約1：38）

最も安全な道を歩みたければ、主の預言者、特に現在召されている大管長を通して与えられる主の言葉に厳密に従うことです。主は生ける預言者の言葉を見做す人々は墮落すると警告しておられます（教義と聖約1：14-16参照）。主は大管長に従う人々に大きな祝福を約束しておられます。

「彼がわたしの前を完全に聖く歩み、わたしの言葉と戒めを受けるとき、あなたがたの教会員は、彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならない。」

あなたがたは忍耐と信仰を尽くして、あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。

これらのことを行えば、地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはないからである。そして、主なる神はあなたがたの前から闇の力を追い払い、また、あなたがたのためと、神の名の栄光のために天を震わせるであろう。」（教義と聖約21：4-6）

その他の参照聖句——歴代下20：20；アモス3：7；エペソ2：19-20；1ニーファイ22：1-2；モーサヤ13：33-35；教義と聖約107：91-92；信仰簡条1：6

予 任

神はある霊に現世で特別な使命を果たさせるために前世で任命されました。これを予任と呼びます。

予任は一人一人がある特定の召しや責任を受けるという保証では

ありません。そのような機会は、予任が前世で義を選んだ結果与えられたのとまったく同様に、現世で選択の自由を義にかなって行使した結果与えられるものです。

イエス・キリストは贖い^{あがな}を遂行し、「ほふられた小羊」となるよう「世の初めから」予任されていました（黙示13：8。1ペテロ1：19－21も参照）。聖文には予任されたほかの人々についても記されています。預言者アブラハムは示現を受け、前世の霊の中に「高潔で偉大な者たち」を見たときに自分が予任されていたことを知りました。アブラハムはこう語っています。「神がこれらの者を見られると、彼らは良かった。そこで、神は彼らの中に立って言われた。『わたしはこれらの者を、治める者としよう。』神は霊であったこれらの者の中に立って、見て、彼らを良しとされたからである。また、神はわたしに言われた。『アブラハム、あなたはこれらの者の一人である。あなたは生まれる前に選ばれたのである。』」（アブラハム3：22－23）主はエレミヤにこう語られました。「わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに、あなたを知り、あなたがまだ生れ^{うま}ないさきに、あなたを聖別し、あなたを立てて万国の預言者とした。」（エレミヤ1：5）バプテスマのヨハネは現世における救い主の教導の業に人々を備えるよう予任されました（イザヤ40：3；ルカ1：13－17；1ニーファイ10：7－10参照）。

予任の教義は、救い主や預言者だけでなく、すべての教会員にも当てはまります。地球が創造される以前から、忠実な女性はある責任を与えられ、忠実な男性はある神権の義務に予任されていました。あなたはそのときのことを覚えていないかもしれませんが、確かに御父に仕えること、その中で重要な仕事を成し遂げること同意したのです。自分自身のふさわしさを証明しようとするときに、あなたはかつて自分が受けた責任を果たす機会にあずかるのです。

その他の参照聖句——アルマ13：1－9；教義と聖約138：53－56

「選択の自由」；「救いの計画」も参照

離婚

離 婚

「家族——世界への宣言」の中で、大管長会と十二使徒定員会は「男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言し〔てい〕ます。」（本書 [59] 参照）これらの真理にもかかわらず、離婚は多くの社会で当然のこのように行われており、教会員の中ですらその数が増加しています。この深刻化する問題は神から出ているものではなく、むしろ敵対者であるサタンの仕業です。

それぞれの夫婦は永遠の結婚の祝福にふさわしくなれるように協力し合う必要があります。あなたが結婚しており、夫婦として困難に直面しているとしたら、結婚生活で受けるストレスのほとんどは離婚や別居では解決できないということを覚えておいてください。その解決策はイエス・キリストの福音、すなわち悔い改め^{ゆる}、赦し、誠実、そして愛の中に見いだすことができます。自分が伴侶から接してほしいように相手に接するという教えの中に見いだすことができます（マタイ7：12参照）。困難を乗り越えようと努力するときに、夫婦がともに監督または支部長のところへ行行って助言を求めることもできます。

「慈愛」；「家族」；「愛」；「結婚」；「神殿」も参照

良 心

すべての人には生まれつき善悪を識別する能力が備わっています。良心と呼ばれるこの能力はキリストの光の現れです（モロナイ7：15－19参照）。

良心は霊的に有害な状況から離れ身を守るための防衛手段です。戒めを守り、義になかった決定を下すときに、人は良心の安らぎを経験します。

反対に、罪を犯すと、後悔の念や罪の意識を感じます。けがをしたときに肉体的な苦痛を感じるのとまったく同じです。これは罪に対する良心の自然な反応であり、この反応によって人は悔い改めに

導かれます。

悔い改めと赦しは良心の安らぎを取り戻させてくれます。一方、良心を無視し、悔い改めなければ、良心は「焼き印をおされ」たかのように傷ついてしまいます（1テモテ4：2）。

良心に従えるようになってください。良心に従うことが選択の自由を行使するという点において重要な位置を占めているからです。良心に従えば従うほど、良心は強められます。感じやすい良心は健康な霊^{あかし}の証です。

その他の参照聖句——モーサヤ4：1-3；教義と聖約84：45-47

「選択の自由」；「キリストの光」；「従順」；「誘惑」も参照

霊

あなたは天の御父の霊の子供であり、この世に生まれてくる前に霊として存在していました。あなたの霊はこの世での人生の間、死すべき状態の両親から生まれて得た肉体に宿ります。

聖文から、霊の性質について知ることができます。わたしたちは「霊はすべて物質であるが、もっと微細で純粹であり、より清い目によってのみ見分けることができるものである」ということを知っています（教義と聖約131：7）。また「人間の霊はその体の形であり、また獣の霊、および神が創造されたほかのあらゆる生き物の霊も同様である」ということも知っています（教義と聖約77：2。エテル3：7-16も参照）。

また聖文は、肉体は死んでも、霊は死なないということも教えてくれます。霊は肉体を離れると、霊界で生活します。復活の時に、霊は肉体と再び結合し、「決して分離しない。このように相合したものは、霊的な、不死不滅のものとな〔ります。〕」（アルマ11：45）

その他の参照聖句——ローマ8：16-17；2ニーファイ9：10-13；教義と聖約93：29, 33

「救いの計画」；「復活」；「魂」も参照

霊的な死（「死（霊の）」参照）

霊的な賜物

霊的な賜物^{たまもの}

霊的な賜物^{たまもの}は聖霊の力によって与えられる祝福または能力を意味します。神はすべての忠実な教会員に、これらの賜物のうちの少なくとも一つをお与えになっています。これらの賜物を授かると、その人自身が個人的に強められ、祝福を受けるだけでなく、ほかの人々に奉仕することができます（教義と聖約46：8-12参照）。聖文は、数多くの御霊の賜物について教えてくれます。

；「イエス・キリストが神の子であり、世の罪のために十字架につけられた」という知識（教義と聖約46：13）。

；イエス・キリストについて証する人々の言葉^{あかし}を信じる能力（教義と聖約46：14参照）。

；「様々な管理の務め」についての知識（教義と聖約46：15。1コリント12：5も参照）。この賜物^{たまもの}は教会を管理し、導くときに用いられる。

；「種々の働き」についての知識。これは、ある教えまたは影響が神から出ているか、それとも別の源から出ているかを識別するのに役立つ（教義と聖約46：16。1コリント12：6-7も参照）。

；「知恵の言葉」の賜物^{たまもの}（1コリント12：8；教義と聖約46：17）。この賜物は「知恵の言葉」で知られる律法を指すのではなく、知恵の賜物、すなわち知識を義にかなった形で用いる能力を指す。

；「知識の言葉」の賜物（1コリント12：8；教義と聖約46：18）。

；聖霊の力によって教える能力（モロナイ10：9-10参照。教義と聖約46：18も参照）。

；信仰の賜物^{たまもの}（1コリント12：9；モロナイ10：11参照）。

；「癒される信仰を持つ」賜物^{たまもの}（教義と聖約46：19）。

；「癒す信仰を持つ」賜物^{たまもの}（教義と聖約46：20。1コリント12：9；

モロナイ10：11も参照)。

；「力あるわざ」「奇跡の働き」(1コリント12：10；教義と聖約46：21。モロナイ10：12も参照)。

；預言の賜物^{たまもの}(1コリント12：10；モロナイ10：13。教義と聖約46：22参照)。主に愛されたヨハネは「イエスのあかしは、すなわち預言の霊である」と教えた(黙示19：10)。

；「天使と仕える霊を見る賜物^{たまもの}」(モロナイ10：14)

；「霊を見わける力」「霊の識別」(1コリント12：10；教義と聖約46：23)

；異なる言語、あるいは異言で話す賜物^{たまもの}(1コリント12：10；モロナイ10：15；教義と聖約46：24参照)。

；「異言を解く力」「異言の解釈の賜物」(1コリント12：10；教義と聖約46：25。モロナイ10：16も参照)

これらの霊的な賜物ならびに聖文に記されているその他の霊的な賜物は、数多い御霊の賜物のごく一部にすぎません。主はあなたの忠実さと必要、そしてあなたが仕える人々の必要に応じて、また様々な方法により、祝福を与えてくださいます。主は多くの霊的な賜物を受けられるように熱心に努力するよう命じておられます。

「欺かれないように気をつけなさい。そして、欺かれないために熱心に最善の賜物^{たまもの}を求め、それらが何のために与えられているのかを常に覚えておきなさい。

まことに、わたしはあなたがたに言う。それらは、わたしを愛してわたしのすべての戒めを守る者たちと、そうしようと努める者たちのために与えられる。それは、わたしを求める者たちや、わたしに願い求める者たち……のすべてが、益を得られるようにするためである。」(教義と聖約46：8-9。26節も参照)

その他の参照聖句——1コリント13章；14：1-33；モロナイ10：17-25；教義と聖約46：27-33；信仰簡条1：7

霊の獄

「聖霊」；「啓示」も参照

霊の獄（「死（肉体の）」；「地獄」；「パラダイス」参照）

礼 拝

神を礼拝するとは、神に愛と尊敬の念を示し、奉仕し、献身することです。主はモーセに次のように命じられました。「神を礼拝しなさい。あなたは神にのみ仕えるべきである。」（モーセ1：15）この神権時代には、こう命じておられます。「あなたは心を尽くし、勢力と意思と力を尽くして、主なるあなたの神を愛さなければならない。また、イエス・キリストの名によって、神に仕えなければならない。」（教義と聖約59：5）いかなる人であれ、物であれ、神への愛よりも優先させるならば、その人は偽りの礼拝、または偶像礼拝を行っていることになります（出エジプト20：3-6参照）。

祈りは御父を礼拝する方法の一つです。アルマは息子ヒラマンにこう教えています。「あなたの必要とするあらゆる助けを神に叫び求めなさい。まことに、あなたの行くことはすべて、主のために行くようにしなさい。どこへ行くにも主にあって行くようにしなさい。まことに、あなたの思いを常に主に向けるようにしなさい。まことに、あなたの心の愛情をとこしえに主に向けるようにしなさい。」（アルマ37：36）

教会の集会には礼拝の精神で出席すべきです。主はこう命じておられます。「あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならない。まことに、この日は、あなたがたの労苦を解かれて休み、いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。」（教義と聖約59：9-10）

神権の儀式に臨むのも礼拝の一部と言えます。敬虔な気持ちで聖餐を取り、神殿に参入することによって、天の御父を思い起こし、礼拝し、その御子イエス・キリストに感謝を示します。

外形的な表れとしての信仰を示すにとどまらず、どこへ行くにしても、何をするにしても、礼拝の態度で臨むべきです。アルマは礼

拝の場所から追い出された人々の一団にこの原則を教えました。真の礼拝は週に1度とは限らないことを彼らが理解できるように助けました（アルマ32：11参照）。同じ一団に語りかけたアルマの同僚アミュレクはこう言って彼らを励ましました。「どこにいても霊とまことをもって神を礼拝〔してください。〕」（アルマ34：38）

その他の参照聖句——詩篇95：6-7；モーサヤ18：25；アルマ33：2-11；教義と聖約20：17-19，29；信仰箇条1：11

「断食と断食献金」；「父なる神」；「愛」；「祈り」；「安息日」も参照

ワード（「教会の管理」参照）